

5. 熊野座神社調査地

a. 調査地の位置と環境（第1図～第3図・第15図）

本調査地は山鹿方面と熊本方面を結ぶ脇往還に面し、少し南に進めば田原坂本道（三池往還、豊前街道高瀬道）と合流する。字は「宮山」といい、記録類によると薩摩軍の主要陣地である「田原坂北之手松山台場」あるいは「小松山台場」などと呼ばれていたようだ。参道は東向きでその下の段下の土地は字「宮ノ前」で、付近一帯は田原坂の戦いのはじめ頃から繰り返し「宮山争奪戦」の舞台になった。

近くの最高所は南方にあり標高116m、この西は三ノ坂に面し付近では未使用弾がまとまって出たとの話がある。平坦地は北に向かって次第に高さを減じ、本調査地は109m～97mの間で、それから96mほどとなり、台地最北端の田原城跡・寺跡調査地で少し高さを増して98.8mになる。台地北端のその西に突き出した舌状地からは、西方の政府軍本営があった木葉が直接視認でき、人の動きまでよく見える。本調査地の西には谷集落から比高80mほどの谷が入り、東は豊岡本村南の比高52mの谷が神社正面まで屈曲して入る。この西と東の谷に挟まれた豊岡台地北端の、いくつかある狭小平坦地の中央部に位置する。

調査地は東西85m、南北100m、面積8,000㎡、社殿建設範囲は平坦に造成されている。道路から2mほど高く、社殿裏はさらに3～6mほど上位にある。ここは豊岡地区の鎮守の森らしくうっそうとした木々に覆われ、社殿は鎮守社としての風格を静かにたたえている。二俣台地から遠望するとこんもりとした木立がわかり、近づいて東や北から望むと丸い古墳のような森で、調査指導では当時もこの状態だったとすれば、政府軍からの攻撃の格好の目印になっていたであろうとの教示をいただいた。

また、すぐ北方には田原城跡・田原寺跡があり、西南戦争遺跡と中世山城の関係を知らうえでの好地である。近くには弾痕のある建治三年（1277）銘の田原五輪塔などの石造物があり、「ジョウヤマミチ」などの言い伝えも聞かれ、中世土器も採集される。



東方の豊岡台地を二俣台地から望む
画面中央は田原坂公園と慰霊塔、左に熊野座神社の森が見える（↓印）

本調査地の南境は現状では途中で南に直角に屈曲する直線的な東西方向の細い掘抜道で、北側には土塁状の高まりが平行する。この高まりは社殿造成時の掘り残しとも考えられるが、不明な部分が多い。この細道は古い時代の田原城跡の堀跡との話が地元には伝わる。この場所は東の谷頭と西の谷の間の部分を横切っており、同様な東西方向の掘抜道は他に北に2本あり、その間は約120m（1町＝60間）の同幅同面積の区画である。東側の直線の南北道路は長さ約150mで、以前は幅2mほどだったとのことだが城の馬場のことも考えておく必要がある。これらからみて、本調査地は中世城跡の一部だった可能性が指摘でき、堀跡や土塁状の高まりは田原坂の戦いのときには、塹壕や胸壁として利用されたと考えられる。

b. 現地調査の成果

本調査地は事前の踏査の際に、地元の方の聞き取り調査で、神社境内地であり土地は大きな改変はなされていないとご教示いただいていたので調査対象とした。しかしながら、人の往来が活発な土地であり遺物は多くがすでに採集されてしまっているのではないかと危惧を抱きつつ調査を開始した。しかし、予想に反して遺物は多くかつ保存状況もよく、大きな成果を上げることができた。

現地調査地は地元で大切にされている社殿や境内地であり、トレンチ調査などの土地を掘り下げる調査は実施せず、金属探知機による遺物分布調査と地表面の観察および遺物測点測量、地形測量、立木調査、社殿調査を行った。これらの調査により遺物が調査地全体に分布すること、地表面や地形の形状と関係した遺物分布状況が確認でき、また、陣地跡らしき遺構も確認した。

(1) 遺構の状況（第33図～第38図）

本調査区では戦時には主として樹木や石造物や土囊などを胸壁にしていたためか、確認できた構築遺構は調査区の南端で確認した陣地状遺構だけである。陣地状遺構は南境の掘抜道に接し、道から北に出張っ



熊野座神社調査地全景 東より

た半円形の土手と溝が巡る遺構と双円丘状の遺構がある。北側には小銃弾の集中がみられ四斤砲弾片も3点あるが、薬莖は1点の確認にとどまる。

半円形遺構の大きさは現状で南北9.5 m、東西11 m、土手下幅2.8 m～3.5 m、内部溝上幅3.2 m～4.1 m、深さは西で1.6 m、東で0.7 mである。社殿造成掘削範囲と東西方向の土手に接しており、樹木を中心として直線形土手に半円形土手を付加した形で、一部を通路として掘開している。溝底は平坦ではなく、地形に合わせて西が高く東が低い。半円形土手の北と東は一部が途切れて低くなっており、銃眼かもしれない。樹木を弾除けとしつつ、その周囲を半円形に掘削して陣地にしたと考えられる。ここはもともと標高が高く境内地平坦面より5 mほど高位にあり視射界も広く、掘削斜面を利用して優位的な場所を占めようとした陣地跡であろう。

双円丘状の遺構は掘抜道の屈曲部の、半円形遺構の西の土手が通路状に途切れた先にある。円丘が二つ接続した形で、大きさは長径9.1 m、短径5.3 m～6.1 m、高さは北1 m、南0.7 mである。

このように道から出張る形の遺構は、山頭遺跡第5次調査地薩摩軍陣地跡に類似する。山頭遺跡で確認された遺構は長さ4.49 m、幅2.58 m、深さ0.11 mの浅い土坑状で、本来は長さ5～6 m、深さ0.3 mほどと推定されている。出土遺物は1581点で、雷管や薬莖の火点遺物が多く出土した。

(2) 遺物の分布状況 (第33図～第38図)

遺物分布は調査地の全域に広がるが、種類によって分布に粗密と位置の相違がある。

未使用弾 スナイドル未使用弾の1～4は薬莖集中部E、5は集中部F、6は陣地状遺構にあった。7～9の3点は調査地中央西端に集中し、この場所には薬莖の分布はないが陣地があったことが推定できる遺物である。弾頭にはA1、A2、Bタイプの3タイプがあり、攻撃側のスナイドル銃弾に少なくともこの3タイプがあったことがわかる。



熊野座神社調査地全景（北より）

薬 莢 薬莢の分布はA～Fの6カ所に集中部がある。集中部は小銃を発砲した場所を示し陣地や人がいたことを表すと思われ、A・17点、B・5点、C・3点、D・17点、E・22点、F・27点、南東隅1点、陣地状遺構1点、表採1点の合計94点である。遺存状況の良い薬莢は集中部AとFに多い傾向がある。

薬莢の多くは調査地東半部にあり、東側や北側に向けて発砲したことを示す。集中部AとBは道路際の縁辺樹木周辺にあり、同じく道路際の榎木、杉木、樹木1、樹木2で確認された小銃弾や金属反応点と合わせて、樹木を弾除けにして東や北からの攻撃に最前線に対応していたことが想定される。集中部Aの薬莢は残存の良さや集中状況からみて、当時から移動があまりないと考えられ、完成の10～13の4点や半折の14もまとまっている。同所の手てんご薬莢26も道路際の東側斜面にあり、これらは具体的な陣中のありようを示す格好の遺物と思われる。

集中部C、D、Eは道路から約15～20mほど奥に入るが、周囲には樹木がある。集中部Fにも樹木が段上縁辺沿いにあり、道路からは50mほど離れているが、やはり東側や北側に向けて発砲したのだろう。Fでの分布状況は段上縁辺から下に転がり落ちた状態を示していると思われ、集中部Aに比べれば遺存状況は悪いが、全体から見ればよく残っている部類である。

薬莢の分布に大きな移動がなく、戦いの状況を示すとすれば、東側や北側に反撃するにあたっては陣地や胸壁が道際、平坦地中央部、段上の3段階に構築されていたことを示す可能性がある。また、本調査地＝陣地内に樹木が多いという特徴が、防御の弾除け盾になる一方、攻撃の際には樹木が邪魔になる場合もあったと思われる。このため、視界がひらける最前線の道路際まで出ることとなり、このことが、道路沿いの縁辺に薬莢が分布する理由の一つと考えられる。

小銃弾 小銃弾は人の往来がある社殿を中心とする境内裸地には少なく、往来があまりない草地で多く確認された。これは焼失した社殿の再建工事などに伴って周辺が整地整備され、発見採集された結果かも



熊野座神社 正面（東より）



参道と弾痕のある石灯笼（北より）

しれない。分布には集中が密なところと粗のところがある。集中するところのうち、薬莢集中部と重なる範囲は調査地東半部の集中部 A、B、C、E で、重ならないところは北端部、南端部の陣地状遺構周辺、西端部である。薬莢集中部と重なる範囲はその場所に陣地があって、そのまま攻撃と反撃の状況を示すことが考えられる。北端部は砲弾片分布と重なり、薬莢集中部 F が攻撃されたものか。南端部の陣地状遺構周辺にもやや集中するが、遺構には薬莢などは少ない。西端部斜面の小銃弾は西側からの攻撃によるものと思われるが、本調査地の西側隣接地は大きく削平されていたので、薬莢分布などは全く確認できていない。ただ、この場所には西の谷集落から台地上に上る天神坂など数本の坂道が接続し、崖面には極めて多くの小銃弾が撃ち込まれていたようで、後には崖面崩落に伴い白錆の小銃弾で、道路面が一面雪のように真っ白になっていたとの話が伝わっている。

興味深いのはスナイドル銃弾 417 と 436 で、これらは地表面の朽ち木の中で見つけた。状況からみて立木に撃ち込まれた小銃弾が、倒木後に周囲の木質が腐食し、その結果姿を現したものと思われる。同様な事例は他にもあると考えられ、調査の際には注意を要する。また、榎木や杉木の小銃弾とあわせて、小銃弾が樹木に衝突したときの変形の一例を知ることができる良好な資料になった。

エンフィールド銃弾は 41 点で、鉛不足や弾頭だけの a1、a2 タイプがあり、これは政府軍が発砲したものとは考えにくく、スペンサー銃弾とウェストリーリチャーズ銃弾もある。これらは東半の道路沿いに主に分布しており変形度が大きいものが多いので、この場所に陣地を構えた薩摩軍のものだろう。西から発砲したものが樹木などに衝突したと考えられ、エンフィールド銃弾やその他の銃弾が他の調査地より多いのは、陣地内に樹木が多いという特徴が理由と考えられる。

砲 弾 砲弾には十三拇臼砲弾と四斤砲榴弾がある。分布は小銃弾と同じく、人の往来がある境内裸地にはなく、往来があまりない草地で多く確認された。臼砲弾は 1 点のみで大部分が四斤砲榴弾片で、榴霰弾片は採集されていない。ただ、霰弾子はあるので榴霰弾での攻撃はあったと考えられる。砲弾片は調査地全体に散在し数も多くはないが、社殿北側にやや集中する傾向があり、参道東端の小銃弾と四斤砲榴弾片内蔵の北側杉木の周辺、および陣地状遺構のある調査地南端部にも分布がある。

社殿北側集中箇所には、60～79 の 20 点がまとまって 1 カ所で見つかった推定砲弾着弾地点があり、他に 35 m×20 m の範囲に 26 点あるので、合計 46 点が分布する。推定砲弾着弾地点では底部片と 2 点の側部片を除く採集した側部片はすべて接合した。通常、四斤砲弾は着弾すると爆発して破片は四散するので、2 点の破片ですら接合することはない。この場所は土質が軟らかく着弾してもすぐには爆発せず、深く土中に入った後に爆発したので側部片は四散せずに留まり、底部片だけが飛び去ったものと考えられる。これは極めて稀な事例であり、砲弾着弾地点がほぼ特定されたのはほとんど類例がないのではないかと。また、デマレー着発信管の感度に関する資料としても好例になった。

他の 26 点の分布からは、着弾した土質や樹木などに大きく影響されるだろうが、本調査地での四斤砲榴弾の大小破片の飛散範囲をある程度知ることができると思われ、その範囲は小片の位置からみて最大径 50 m ほどだったかもしれない。破片の中には、弾頭部から底部までの大型側部片 3 があり、一方では 2 の信管 1 点、46 や 49～52 の筈翼 5 点、8 や 31～35 などの弾殻小片 11 点の小型片もある。大型破片だけでなく、径 2 cm 弱の筈翼や 1～3 cm ほどの小片も、四散して殺傷力を高めたのだろう。さらに、他に中型片もあることから、この場所付近が数発の砲撃にさらされた一端を示していると考えられる。

北側杉木周辺の榴弾片のうち 14、24、26、42 の 4 点は小片で、少し離れた 20 や 38 も含めて北側杉木内蔵砲弾片 44 と一体の砲弾だった可能性がある。44 の確認位置と方向からみると、調査地南東端あたりに着弾したものかもしれない。また、近くには 56 と 59 の霰弾子が 2 点ある。調査地南端部では比較的大型破片の 18 もある。全体的な遺物と遺物散布状況よりみて、本調査地は臼砲や四斤山砲の榴弾や榴霰弾による重点攻撃目標の一つだったことが推定できる。



調査地東側全景（北より）



調査地西側全景（北より）



調査地東端遺物分布状況（北より）



調査地東端遺物分布状況（北より）



南端薬莢集中部E（東より）



南端小銃弾、薬莢集中部（南より）



障地状遺構 双円丘状遺構（南より）



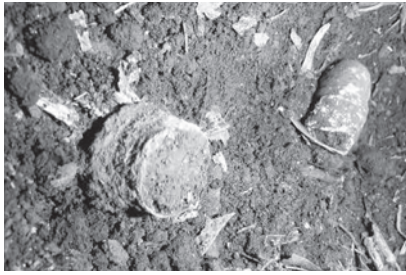
障地状遺構（南より）



西側斜面 指差し先が砲弾着弾地点（南より）



西側斜面遺物集中箇所（南より）



未使用弾 2・1



未使用弾 7



薬莢 10



薬莢 11



薬莢 12



薬莢 13



薬莢 20



薬莢 25



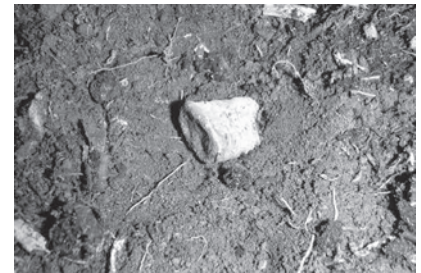
薬莢 34



小銃弾 5



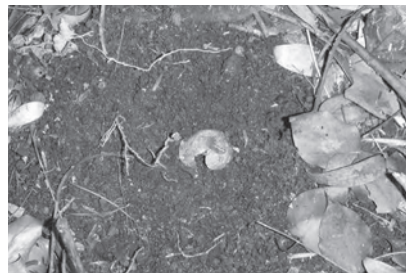
小銃弾 131



小銃弾 134



小銃弾 417・436



小銃弾 463



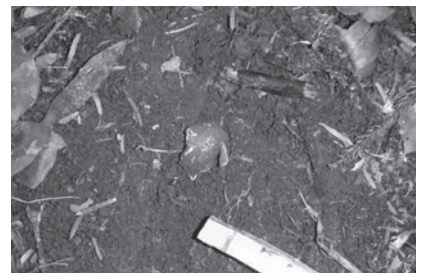
小銃弾 499



小銃弾 501



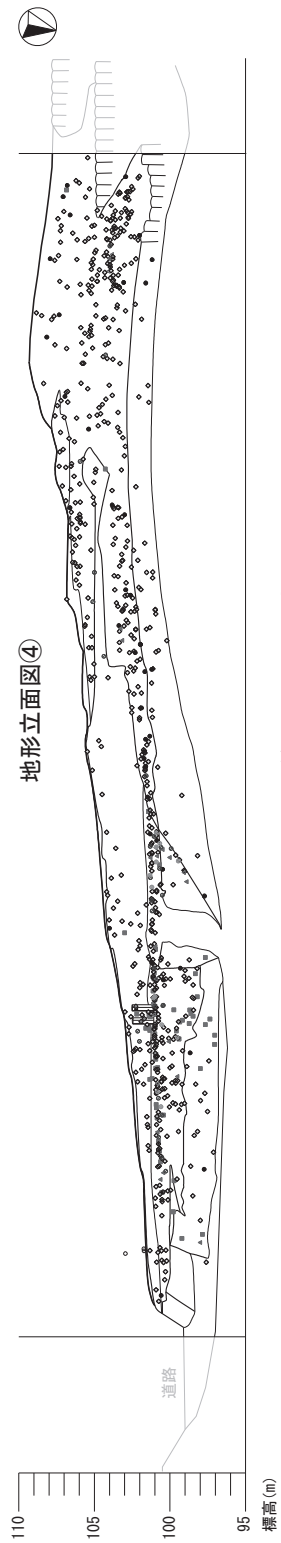
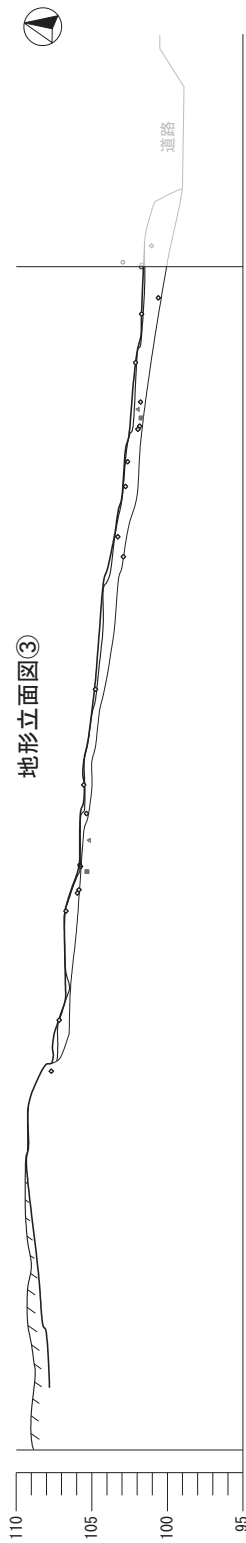
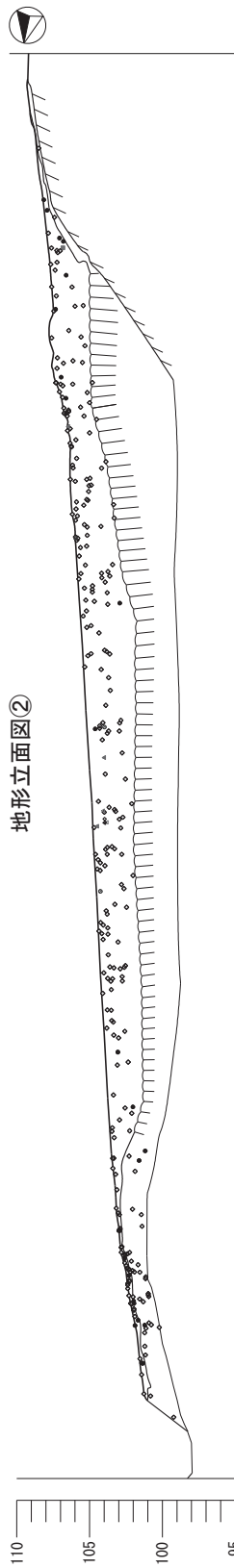
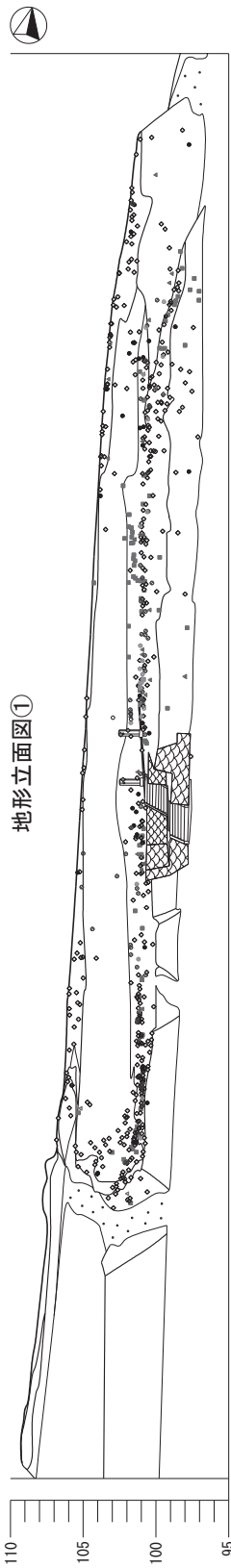
小銃弾 503



小銃弾 587



第33図 熊野座神社調査地遺物分布図 1 地形立面図方向 (1/500)



マーク凡例	
未使用弾	△
薬莢	■
小銃弾	◇
小銃弾の栓	◆
四斤砲弾片等	●
銃製品	▲
銭貨	○
その他	⊗
種別不明	○



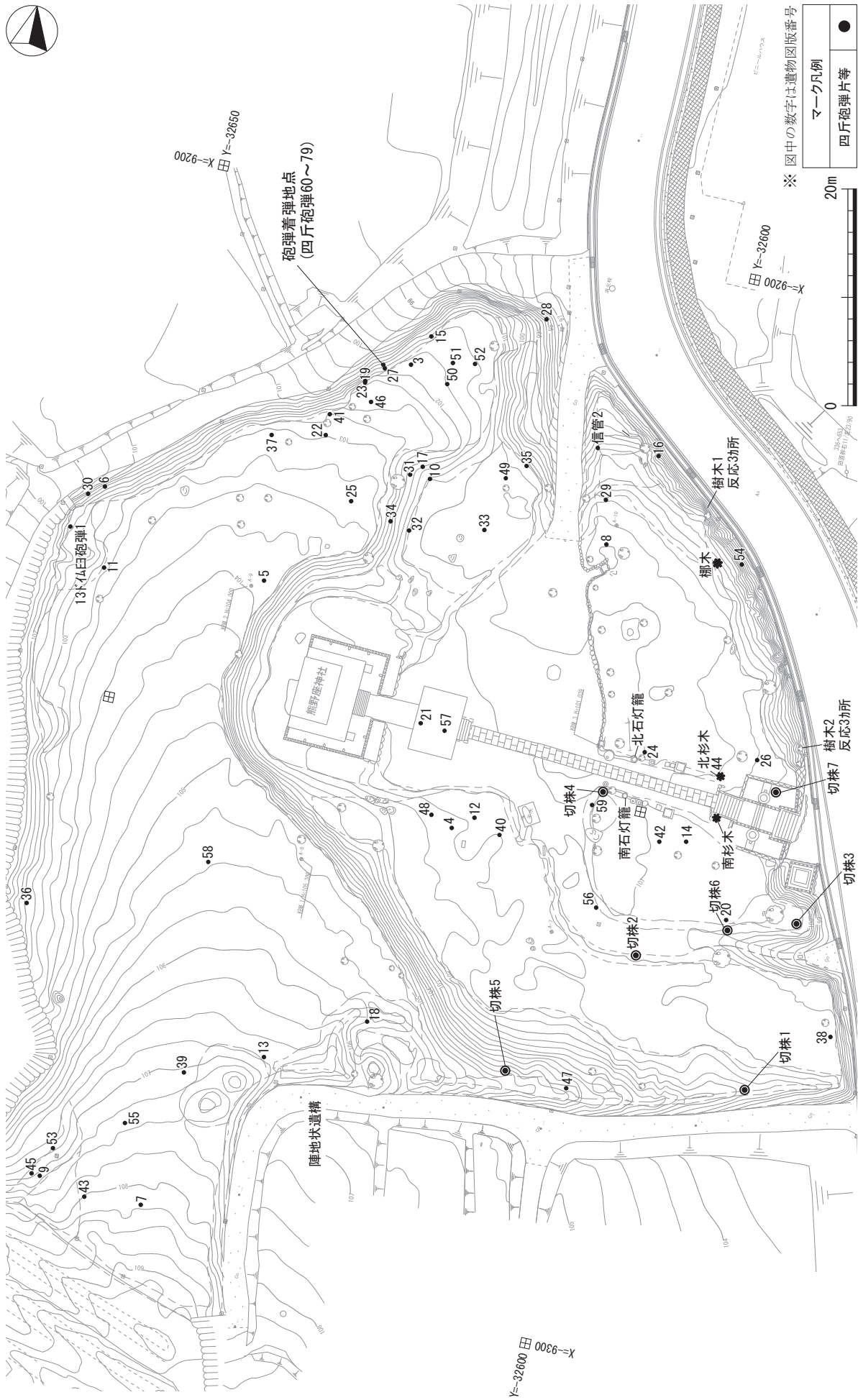
第34図 地形立面図 (1/500)



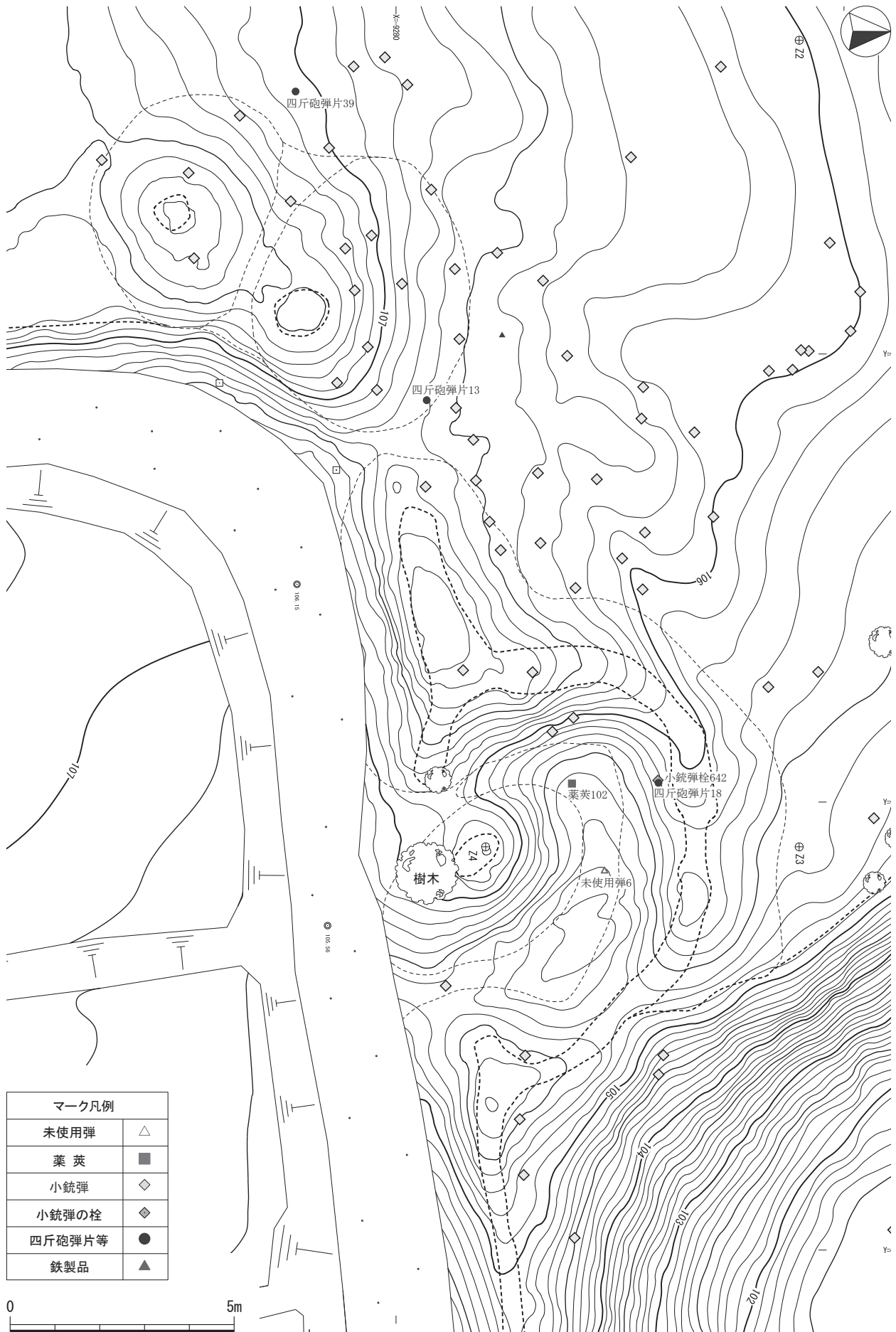
第35図 熊野座神社調査地 遺物分布図2 未使用弾・葉英 (1/500)



第36図 熊野座神社調査地 遺物分布図3 小銃弾・小銃弾の栓 (1/500)



第37図 熊野座神社調査地 遺物分布図4 四斤砲弾片等 (1/500)



第38図 陣地状遺構 遺物分布図 (1/120)

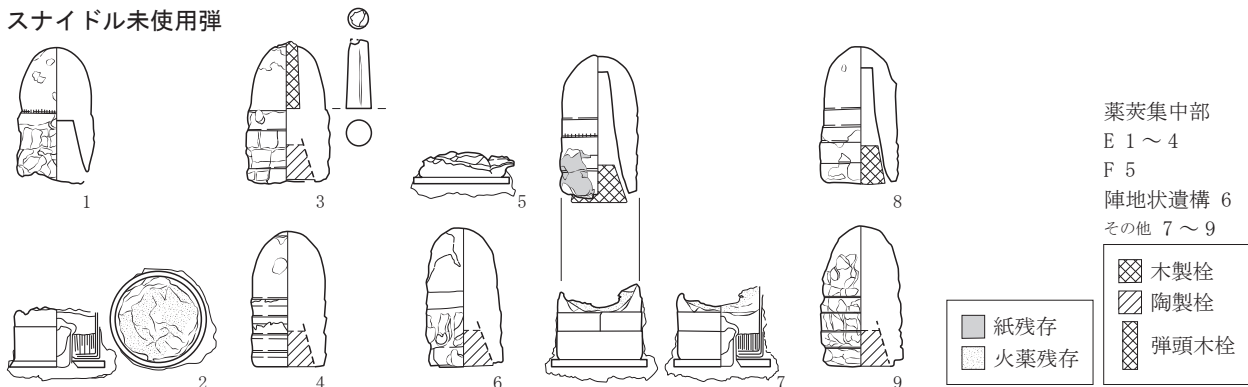
c. 遺物

(1) 西南戦争関連遺物 (第 39 図～第 59 図)

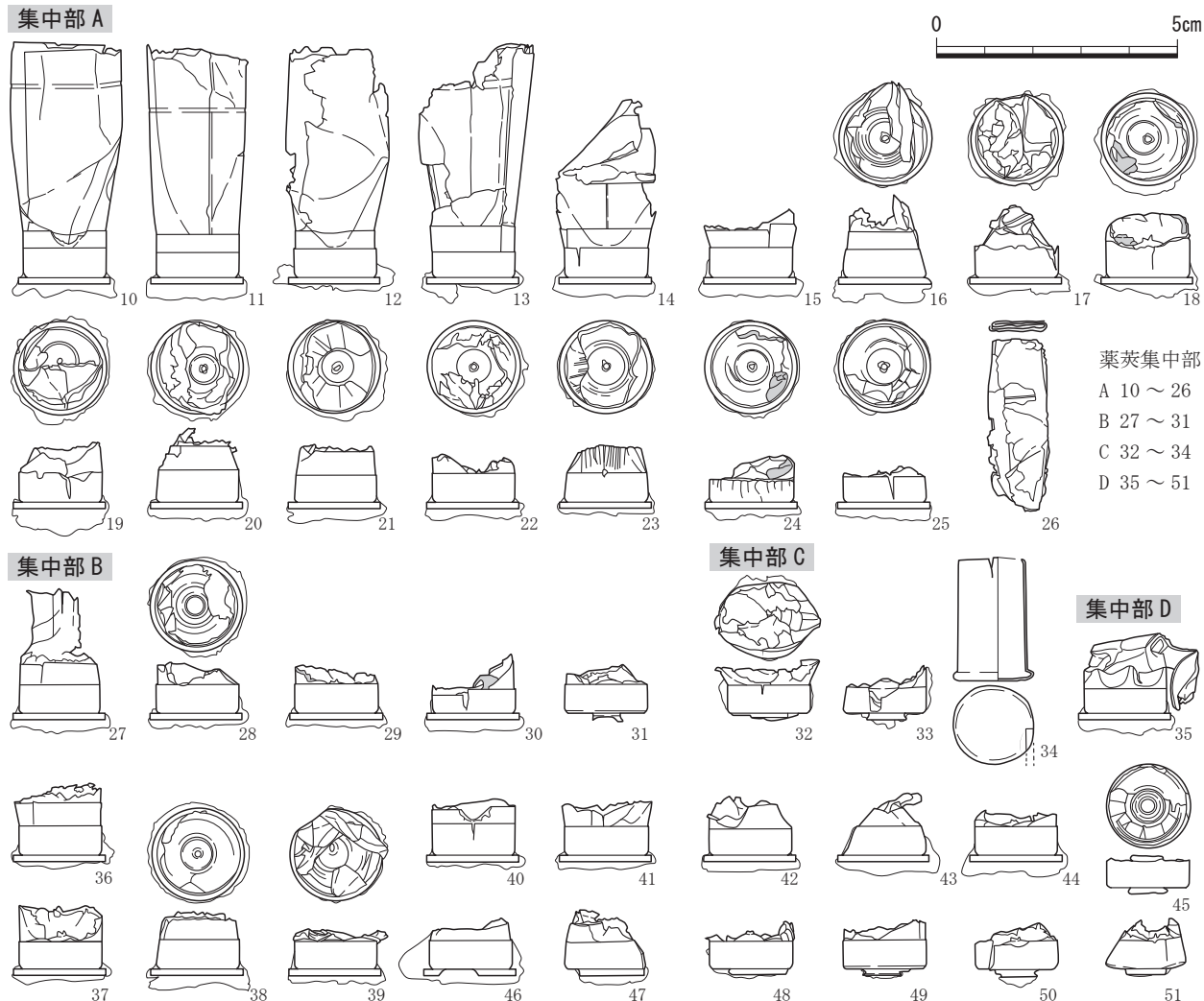
遺物は未使用弾 9 点、薬莖 94 点、小銃弾 706 点、小銃弾陶栓 4 点、十三拇臼砲弾 1 点、四斤砲榴弾片 60 点、信管 2 点、筒翼 11 点、霰弾子 5 点、真鍮製ネジ釘 2 点、鉄製ネジ釘 4 点、鉄製品 5 点の内訳は靴底金具 1 点、鉄鍋片 4 点で、合計 903 点を図示した。なお、図版中には杉木と榎木発見の遺物も含む。遺物図版は未使用弾と薬莖と雷管、小銃弾など種類ごとに通し番号を付した。

未使用弾 未使用弾はすべてスナイドル未使用弾である。本調査地の未使用弾には A1、A2、B タイプの 3 タイプがあり、陶栓がついたままのタイプ不明もある。弾頭部は 1、3、6、9 の下半は錆膨れでボロボロ、

スナイドル未使用弾



スナイドル薬莖



第 39 図 金属探知機採集遺物 未使用弾・薬莖 1

4、7、8は薬筒片が残存固着し緑青色の部分もあるが錆化は少なく、特に4は状態がとても良く圏溝の角は鋭いままで製造時の状況をよく残す。薬莢はいずれも鉄製抽筒板ボクサー 2b タイプで、底部には火薬残滓があり、雷管に打撃痕は認められない。1と2は採集位置が同じなので、本来は一個体だろう。

薬 莢 薬莢の分布はA～Fの6カ所に集中部がある。集中部は小銃を発砲した場所を示し陣地や人がいたことを表すと思われ、A・17点、B・5点、C・3点、D・17点、E・22点、F・27点、南東隅1点、陣地状遺構1点、表採1点の合計94点である。遺存状況の良い薬莢は集中部AとFに多い傾向がある。

薬莢の多くは調査地東半部にあり、東側や北側に向けて発砲したことを示す。集中部AとBは道路際の縁辺樹木周辺にあり、同じく道路際の榎木、杉木、樹木1、樹木2で確認された小銃弾や金属反応点と合わせて、樹木を弾除けにして東や北からの攻撃に最前線に対応していたことが想定される。集中部Aの薬



第40図 金属探知機採集遺物 薬莢2

莢は残存の良さや集中状況からみて、当時から移動があまりないと考えられ、完成の10～13の4点や半折の14もまとまっている。同所の手てんご薬莢26も道路際の東側斜面にあり、これらは具体的な陣中のありようを示す格好の遺物と思われる。

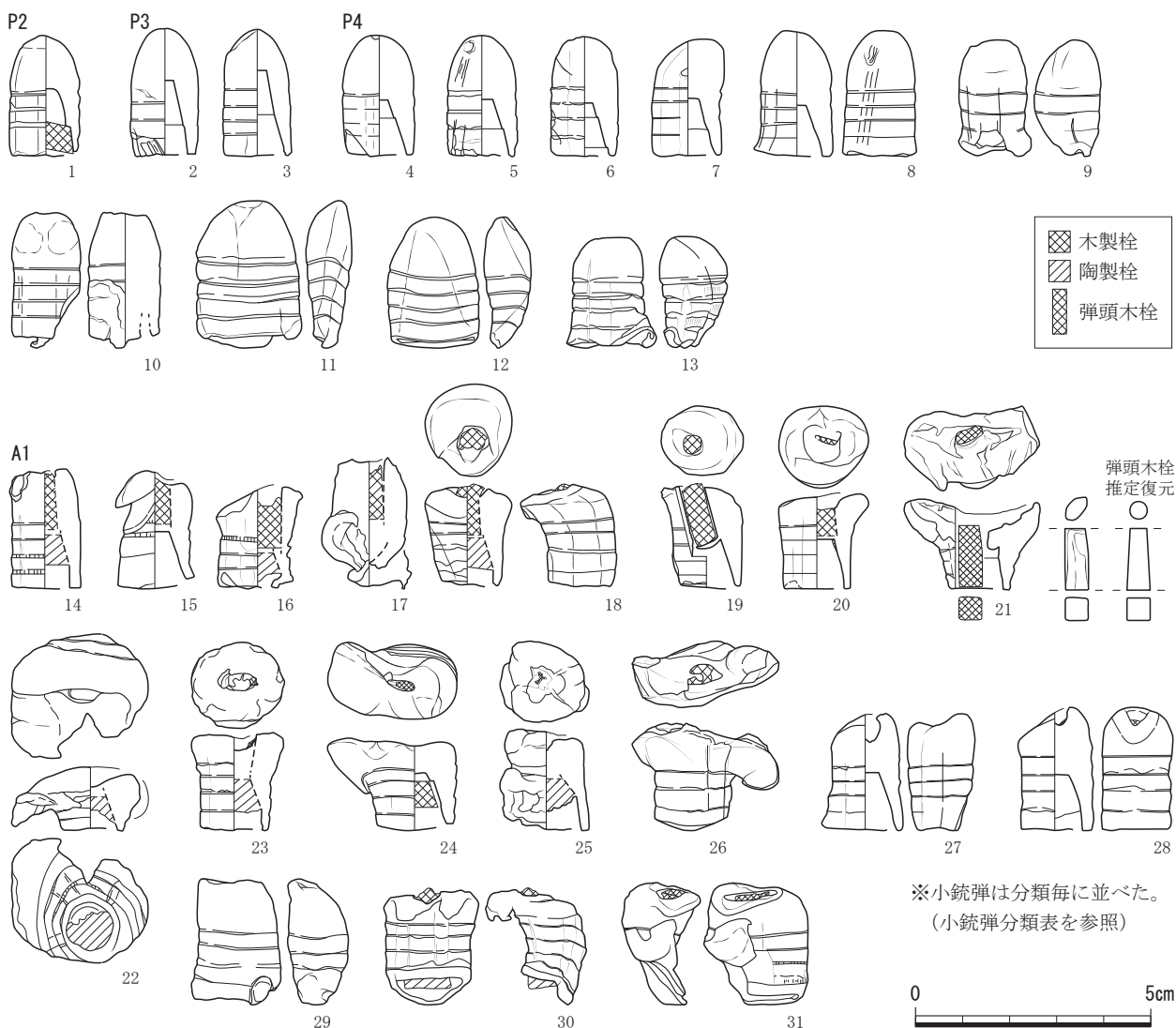
集中部C、D、Eは道路から約15～20mほど奥に入るが、周囲には樹木がある。集中部Fにも樹木が段上縁辺沿いにあり、道路からは50mほど離れているが、やはり東側や北側に向けて発砲したのだろう。Fでの分布状況は段上縁辺から下に転がり落ちた状態を示していると思われ、集中部Aに比べれば遺存状況は悪いが、全体から見ればよく残っている部類である。

薬莢の分布に大きな移動がなく、戦いの状況を示すとすれば、東側や北側を攻撃するにあたっては陣地や胸壁が道際、平坦地中央部、段上の3段階に構築されていたことを示す可能性がある。また、本調査地＝陣地内に樹木が多いという特徴が、防御の弾除け盾になる一方、攻撃の際には樹木が邪魔になる場合もあったと思われる。このため、視界がひらける最前線の道路際まで出ることとなり、このことが、道路沿いの縁辺に薬莢が分布する理由の一つと考えられる。

小銃弾 小銃弾はスナイドル銃弾640点、エンフィールド銃弾41点、スペンサー銃弾2点、ウエストリーリチャーズ銃弾3点、不明小片20点の合計706点がある。

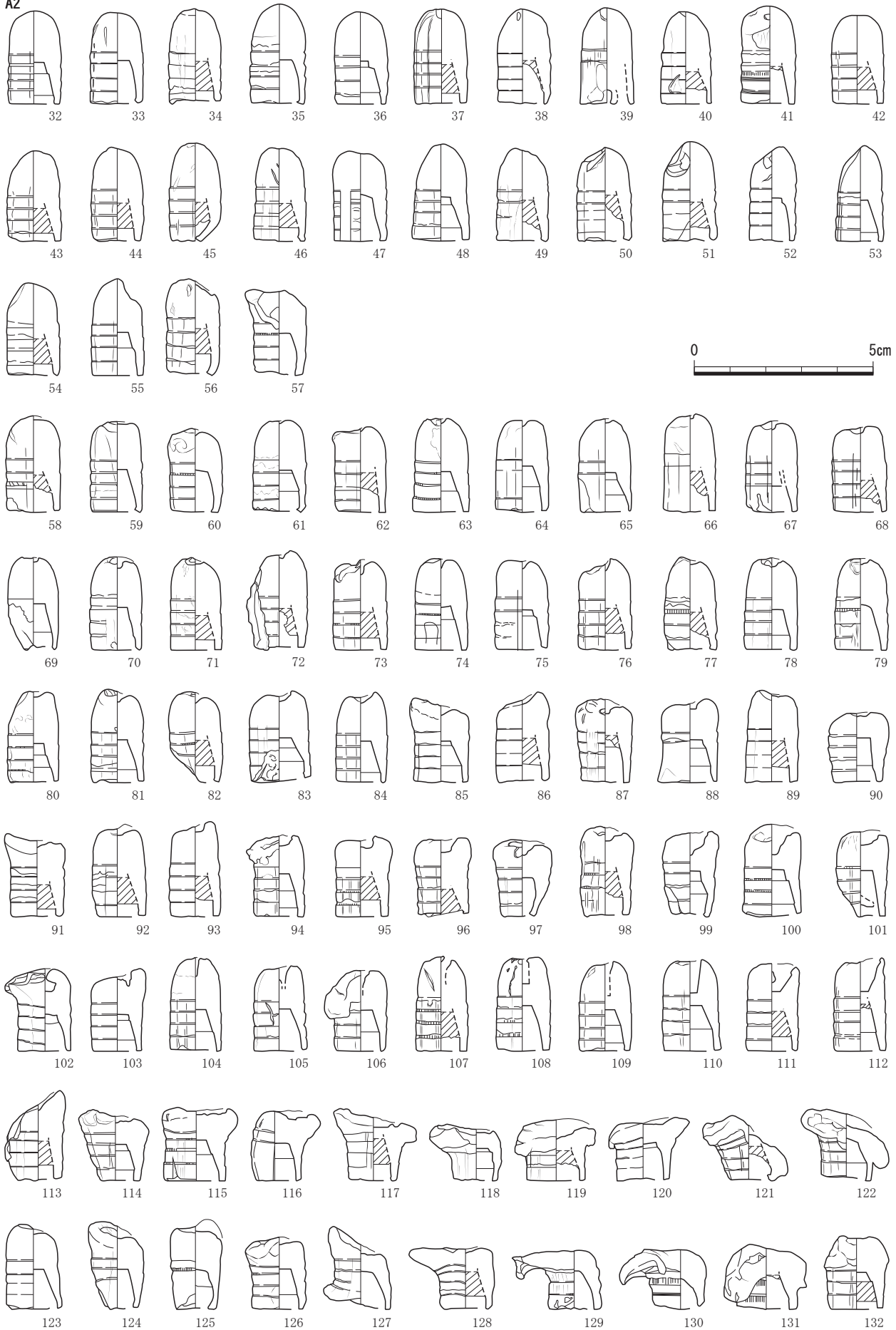
本調査地の小銃弾は潰れ方をよく観察し留意する必要がある。スナイドル銃弾Pタイプは弾頭中実で変

スナイドル銃弾

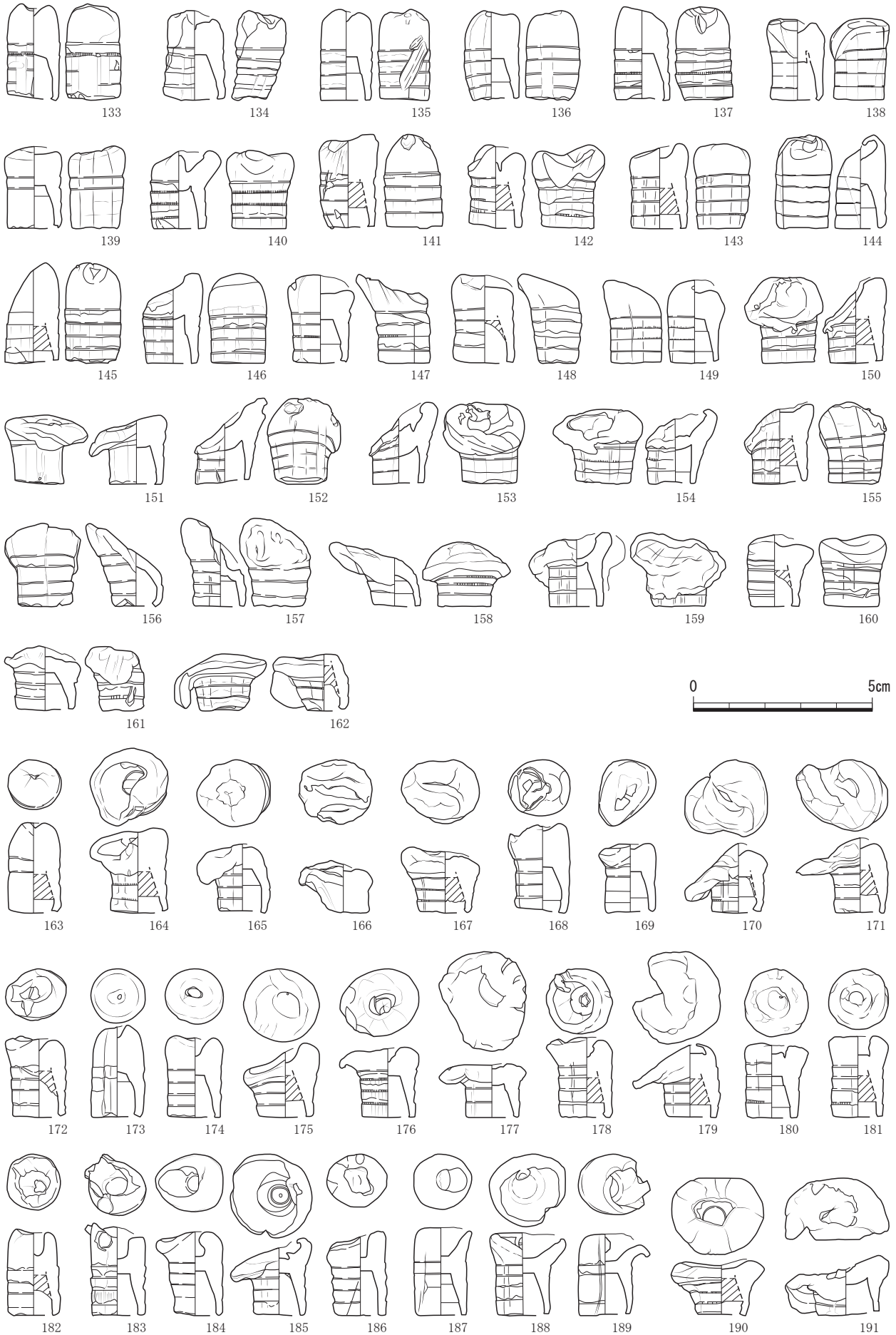


第41図 金属探知機採集遺物 小銃弾1

A2



第 42 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 2



第 43 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 3

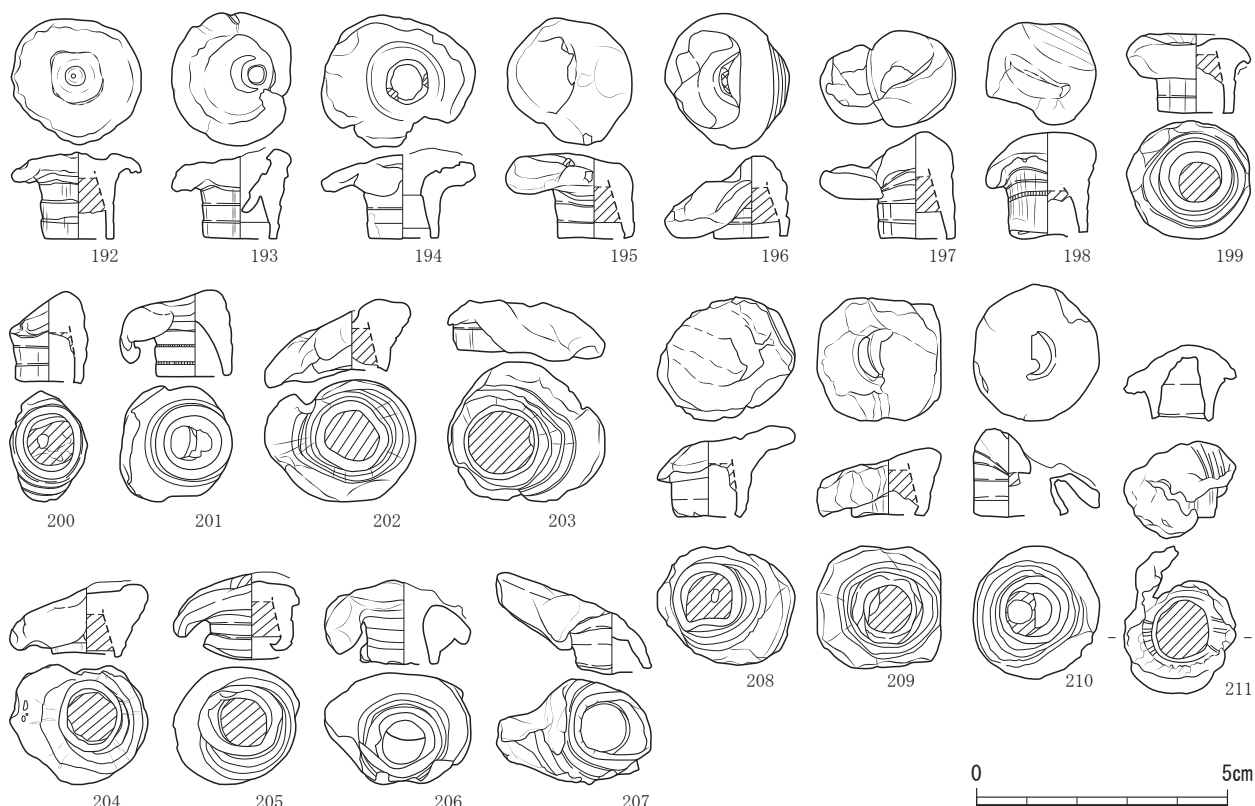
形は少ないはずだが、11や12のように大きく平らに潰れているものもある。銃撃による衝突の衝撃だけではここまで大きく潰れにくいと思われるので、人為的に平らにしたことが考えられる。A2タイプの457は円台孔に他小銃弾の破片が押し込まれ、さらに押圧されて簡単に取りえないようになっていた。Bタイプの503は弾裾に小孔が6カ所あり、裾端部も不自然に折り曲げられている。574～576は不自然なほど平らに潰れている。エンフィールド銃弾も弾頭中実弾だが、670の変形は大きく平らに伸びており、後世の変形の可能性が高い。

このような小銃弾は他にもあり、不可思議な形や不自然に大きく変形した小銃弾の中には、衝突での変形のほかに、人為的な変形の可能性も念頭に置く必要がある。なお、こうしたものが、戦時の銃撃戦での樹木や石塔や胸壁土嚢などに衝突した結果の変形なのか、戦闘間の手慰みなのか、あるいは後世の手遊びなどによる変形なのかの識別は困難な場合が多いが、詳細な観察によって識別はある程度は可能と思われる。また、人の出入りが少ない調査地と、人の往来が多い神社境内地である本調査地だけの特性なのかどうかの比較検討も必要である。

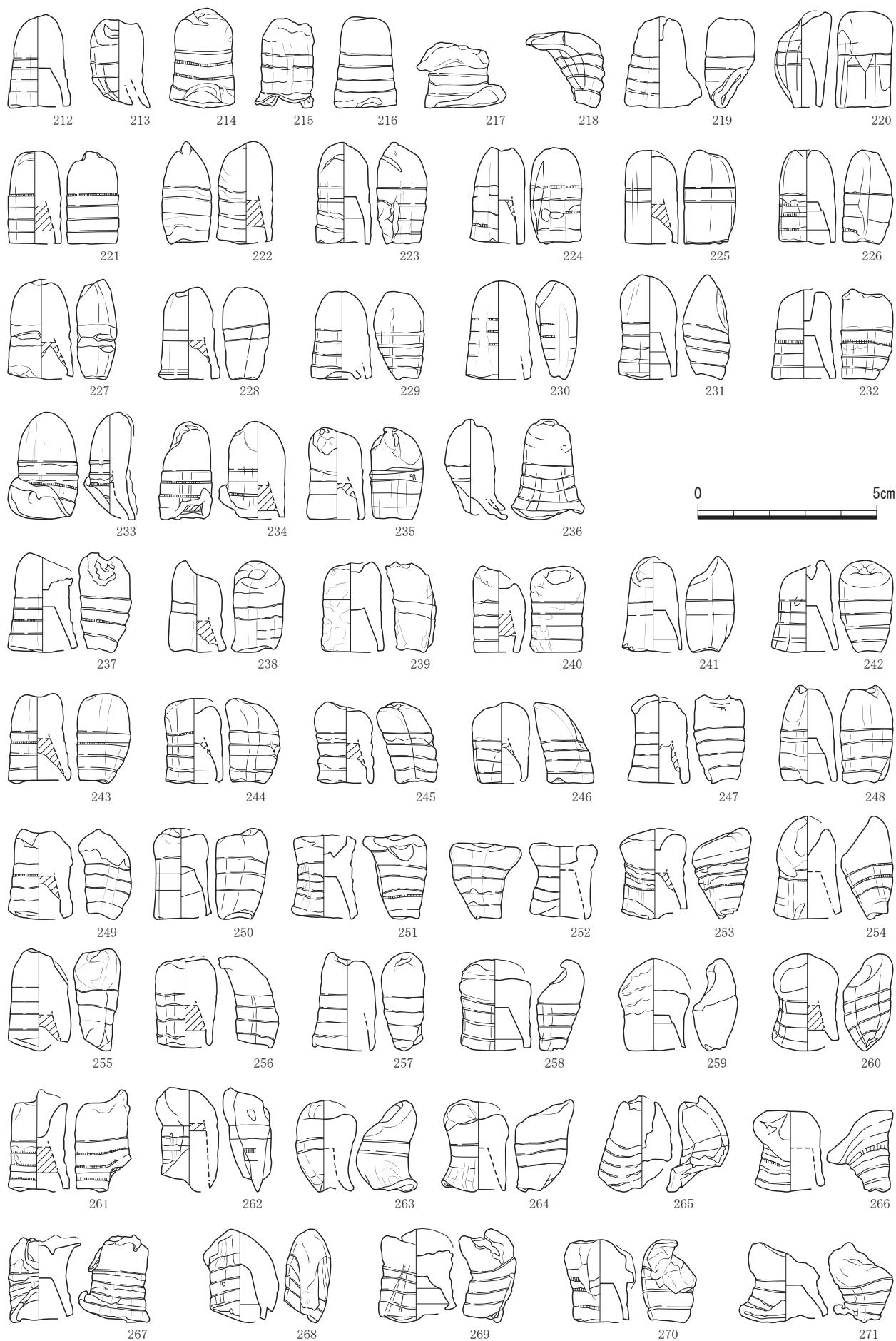
スナイドル銃弾はP2、P3、P4、A1、A2、Bタイプの6タイプがあり、この他に変形が大きくA1かA2か判別できないA1/2、AかBか判別できないA/B、スナイドル小片がある。640点の内訳数はP2・1点、P3・2点、P4・10点、A1・18点、A2・466点、B・91点、A1/2・10点、A/B・5点、小片37点でA2タイプが多い。

A1タイプは14～31で、19は弾頭木栓が仕切りに食い込み、21は木栓が仕切りを突き破って外れているが、これは少数派で、発砲と衝突の衝撃で圧入栓が円台孔に入り込むためか、弾頭木栓の残存しているものが多い。A2タイプのようにドーナツ状や大きく変形し開いた展延状態、紐状になったものはほとんどなく、おおむね変形度は低い。弾頭木栓は上面は円形、下面は四角形で逆さにしても抜け落ちないような形状である。

A2タイプは32～495で、他調査地と同様に最も数が多い。56、61、147、257、263、264、320、337、400、434などは鉛の質が悪いためか、濃灰色で小さなこぶ状の錆膨れが出ているものもある。同様な錆



第44図 金属探知機採集遺物 小銃弾4



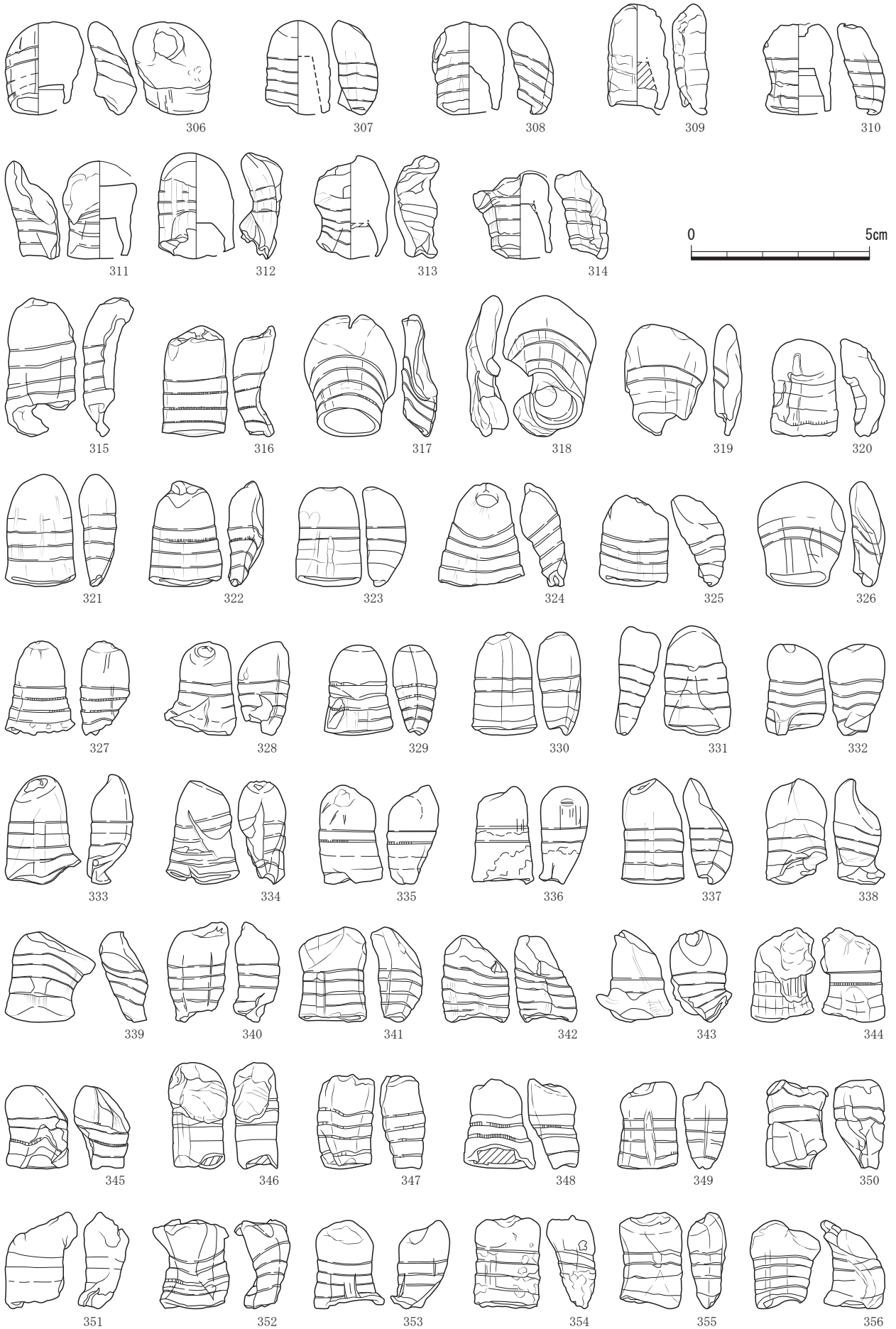
第 45 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 5

膨れが出ているものはBタイプ 504 や 531 などにもある。ただ、変形は他と比べても大差はないので鉛質の差によって、実戦に影響が出たとは考えにくい。

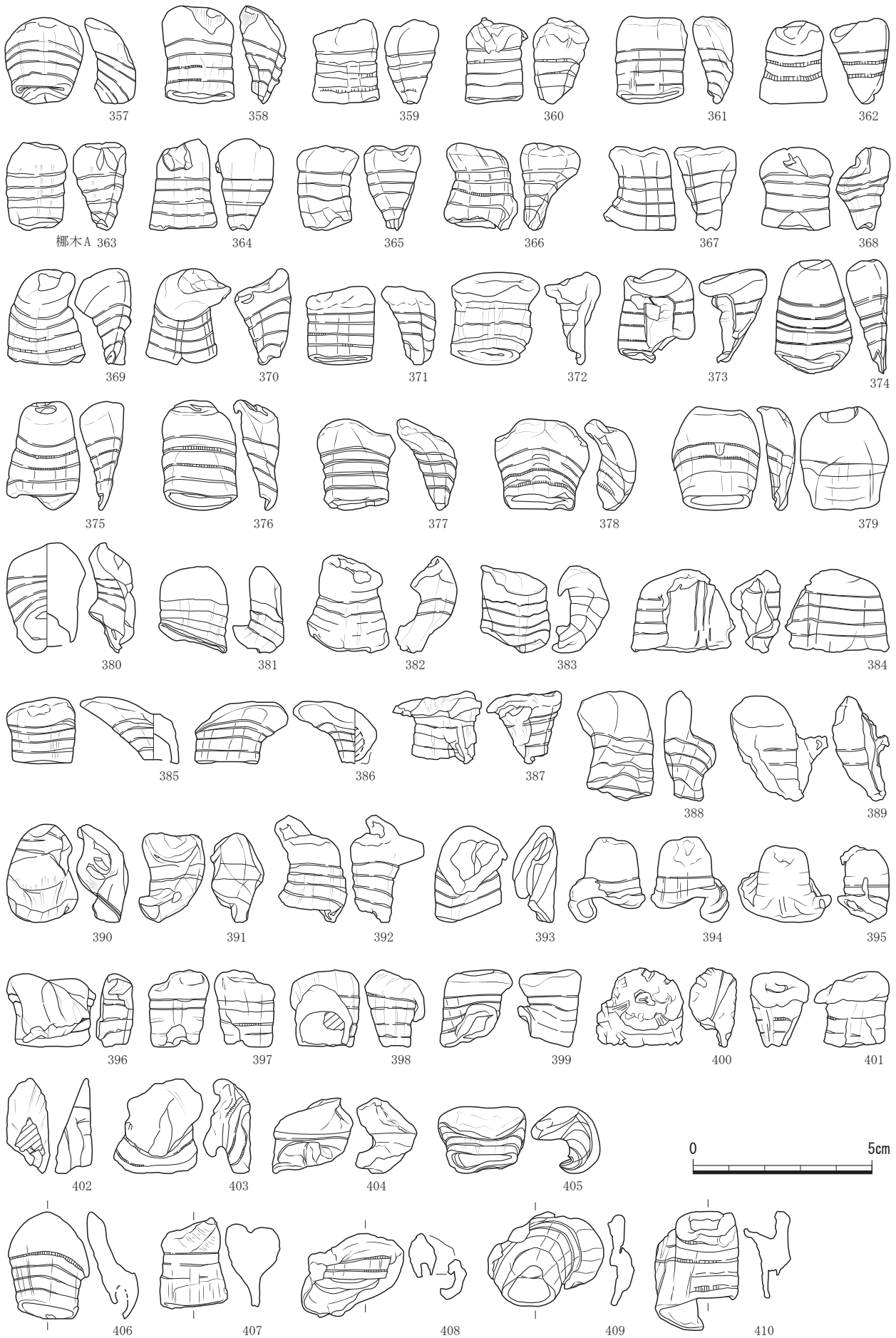
A2タイプに特徴的な製造段階のいわゆる巻き造りがわかる資料は、小銃弾の製造工程を示す重要な資料なので、まとめでも記す。本調査地では7点確認された。90 は円台孔内面に剥離があり、144 の内面剥離は大きく目立つ。265 は外面に合わせ目の剥離があり、弾頭から弾底まで至る。内面には仕切り部分が完全に浮いてしまっているのが良く見える。484 も同様に外面に弾頭から弾底まで至る合わせ目の剥離が観察できる。344 は銃弾外側が裂けて内部の巻き造りの特徴が良く観察できる。仕切り部分と外側部分とが剥離しており、仕切り部分の外表面には細い縦条線が多くあるのがみえる。これは圧着を確実にするための造作と思われ、他の巻き造り例でも同様に観察できる点である。384 は中の仕切り部分が外れてしまっ



第46図 金属探知機採集遺物 小銃弾6



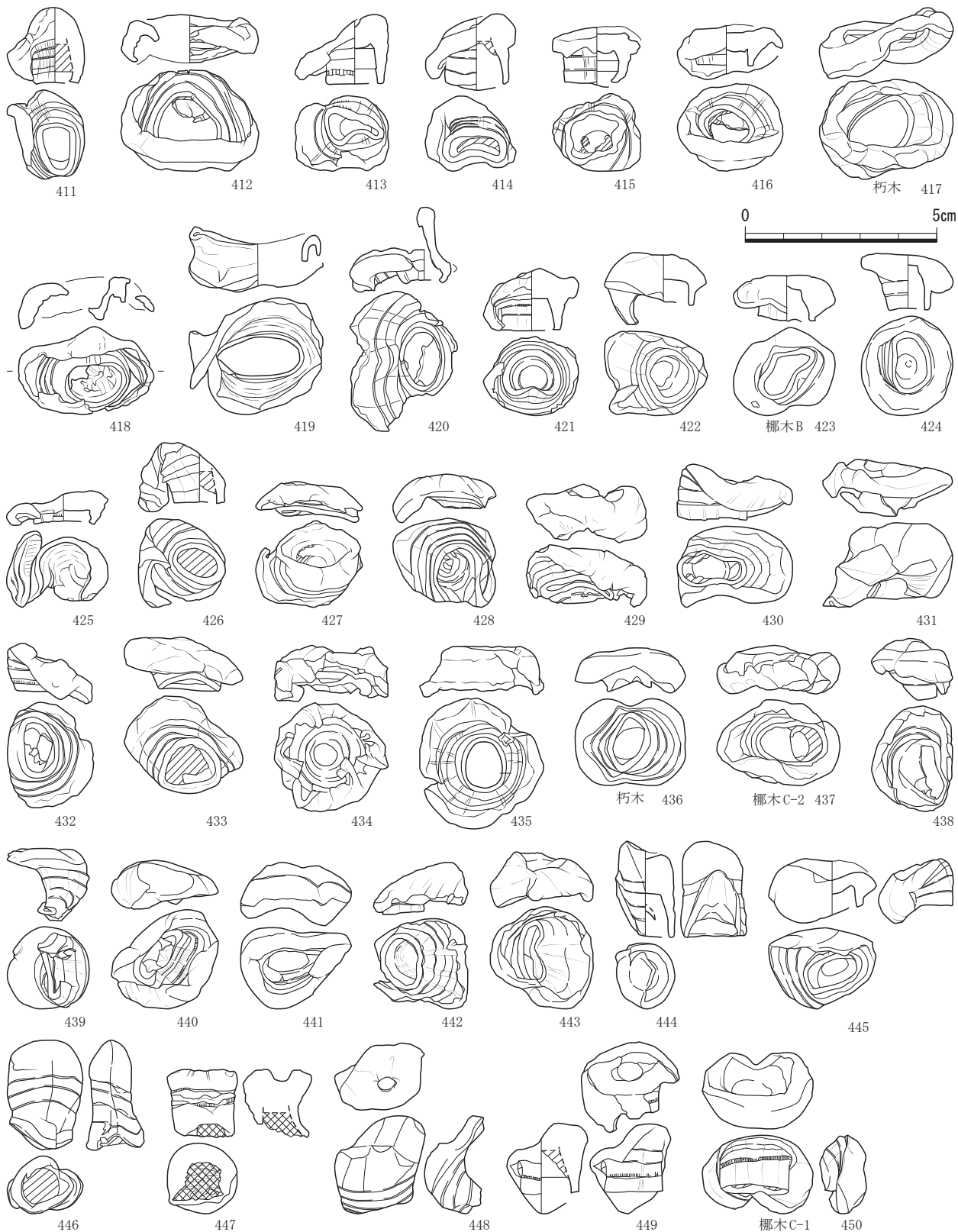
第47図 金属探知機採集遺物 小銃弾7



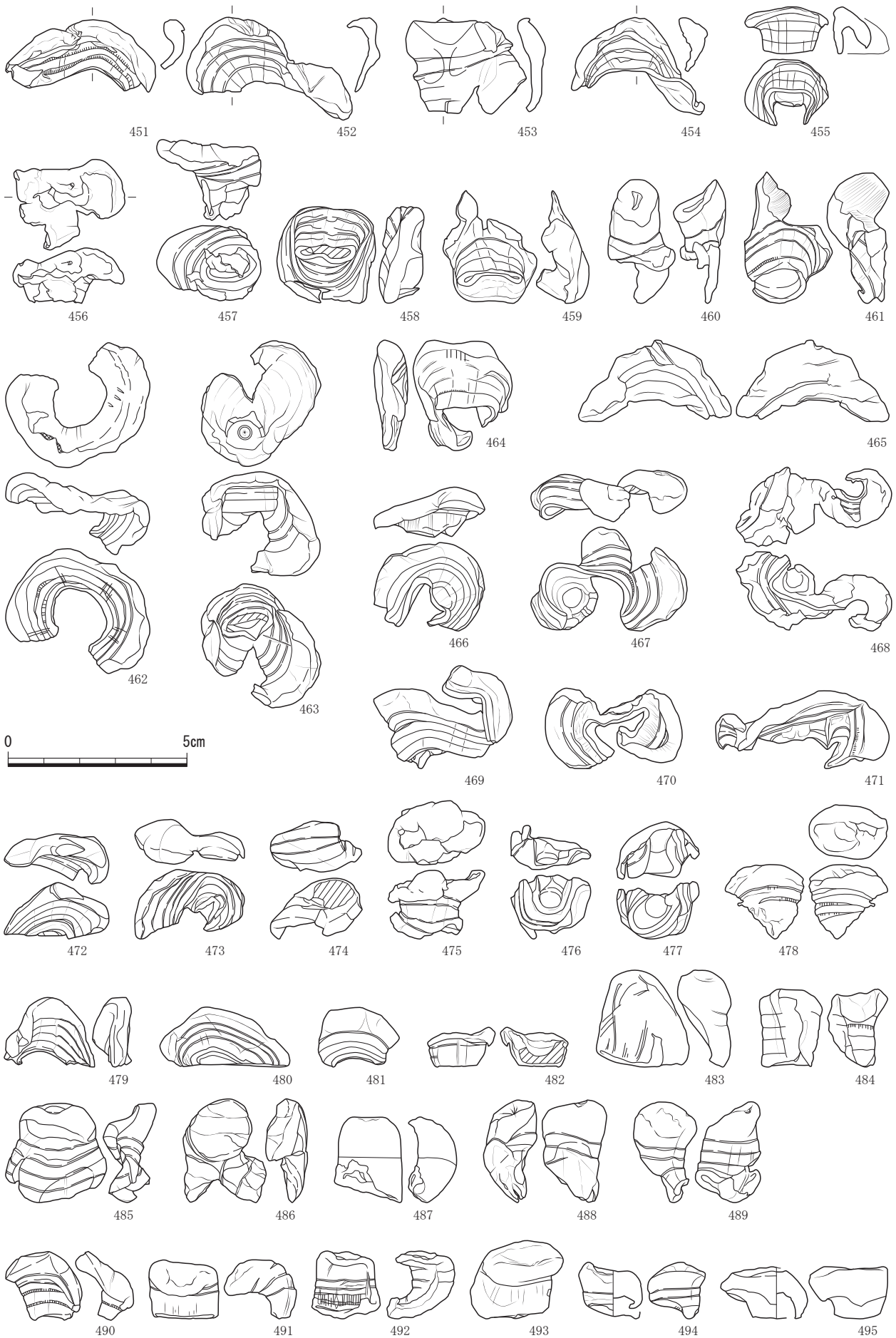
第 48 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 8

て外側部分だけになったもの。内面には縦の条線が少しある。453も仕切り部分がなくなって、外側部分だけが平らな板状になったものである。

弾頭部が丸いキノコ状の422、424、433などは、凝灰岩など軟質石材の石塔などに衝突したとみられ、弾痕の形状とよく似ている。特に424は頂部が平坦で、四角い墓石などにあたったものだろうか。444は裾部に直径1.2cmほどの断面円形の鉄棒状のものに衝突した痕跡が明瞭に残る。類例は本道二ノ坂小銃弾



第49図 金属探知機採集遺物 小銃弾9



第 50 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 10

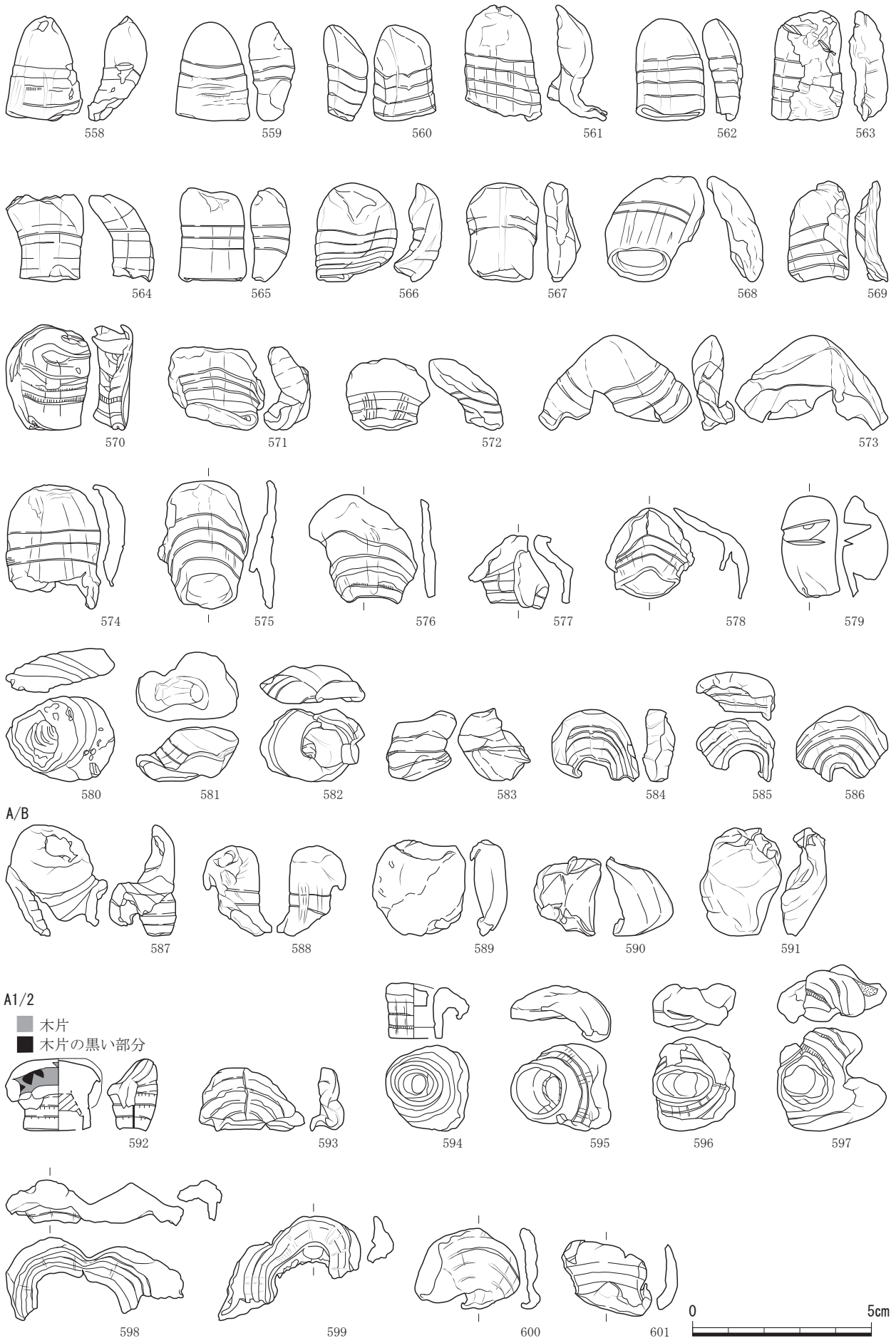
176 にあり、こちらは裾部に直径 1.5 cm ほどの痕跡である。

B タイプは本道二ノ坂調査地の集中部以外ほどではないが、他調査地と比べると多いほうである。変形は全体に多くはないが、二ノ坂調査地集中部以外の B タイプに比べて変形小銃弾の比率は高い傾向があり、潰れが大きいものは人為的な変形も疑われる。

弾頭部がキノコ状に大きく潰れるものは 528、529、534～537 で、529 と 536、537 は弾頭部が丸く石



第 51 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 11



第 52 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 12

小片



第 53 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 13

塔などに衝突、他は頭部表面に凹凸があり岩石などの硬質物に衝突したものかもしれない。530、532、533 は頭部貫通、543 頭部は全く変形がないが裾部が潰れるので、弾裾部から着弾したものか。頭部と裾部の両方に変形があるものもあるが、これらはいわゆる跳弾だろう。546 は圈溝がほとんど残存しておらず、エンフィールド銃弾のように見える。557 は弾頭部が大きく潰れて開いており、底部の変形も大きい。579 は鋭利な刃物で切られたような傷口が大きく開いている。

587 ～ 591 は A/B 、592 ～ 601 は A1/2 に分類したが、多くが A2 タイプに入ると思われる。また、602 ～ 638 のスナイドル小片も元は同様に A2 タイプのちぎれた一部と思われる。598 と 599 は展延した大破片で A2 タイプに入れるべきか。643 と 644 は、A2 タイプ製造時の巻き造りの特徴をよく示すので別置した。

エンフィールド銃弾は他調査地より多く、弾作器で作った手作りキャスト弾の a1 タイプの比率が高い。646 は弾頭鉛不足だが本来は弾長 2.7 cm ほど、647 は 2.5 cm、648 は 2.2 cm ほどで、a1 タイプには 3 種類あることが知れる。後二者には頂部に鑄型湯口の切離痕と縦位の鑄バリ状合わせ目が残る。a2 の 656 と 657 は発砲時変形で弾裾がちぎれて弾頭だけになったもので、弾裾や側部から着弾したようだ。b1 タイプ 675 の弾頭部は丸く石塔などに衝突したものか、672 内部には刻印、673 内部には刻線がある。

その他の銃弾は数は少ないものの2種がある。スペンサー銃弾 686 は径がやや小さく、ウェストリーリチャーズ銃弾は変形している。不明小片は元は小銃弾と思われが、形が不定でよくわからない。697、704、707 はエンフィールド銃弾裾部のちぎれた破片かもしれない。

砲 弾 砲弾には十三拇臼砲弾と四斤砲榴弾がある。1の弾殻厚は上部 1.8 cm、下部 2.1 cm。2と60の

エンフィールド銃弾



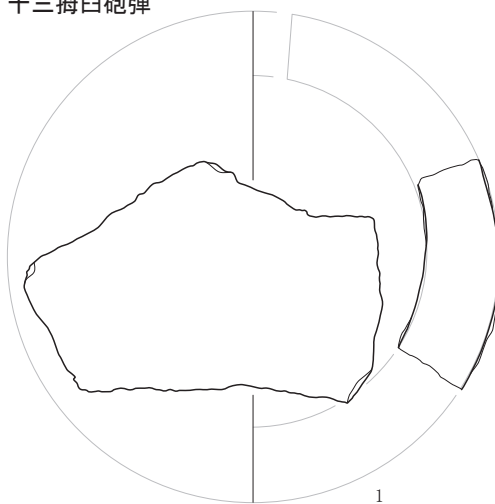
第 54 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 14

デマレー着発信管の残存状態は良くネジ部は鋭く摩耗はない。全長 3.2 cm、ネジ山径 2.5 cm、上部は一辺 3.0 cm、厚 1.0 cm の六角形。2 の頂面には 2.4 × 2.0 cm の痕跡があり、その周囲には白色塗料が残る。60 も同様だが白色塗料は鉄錆の付着で少しだけ見え、内部には木塞の残滓がある。

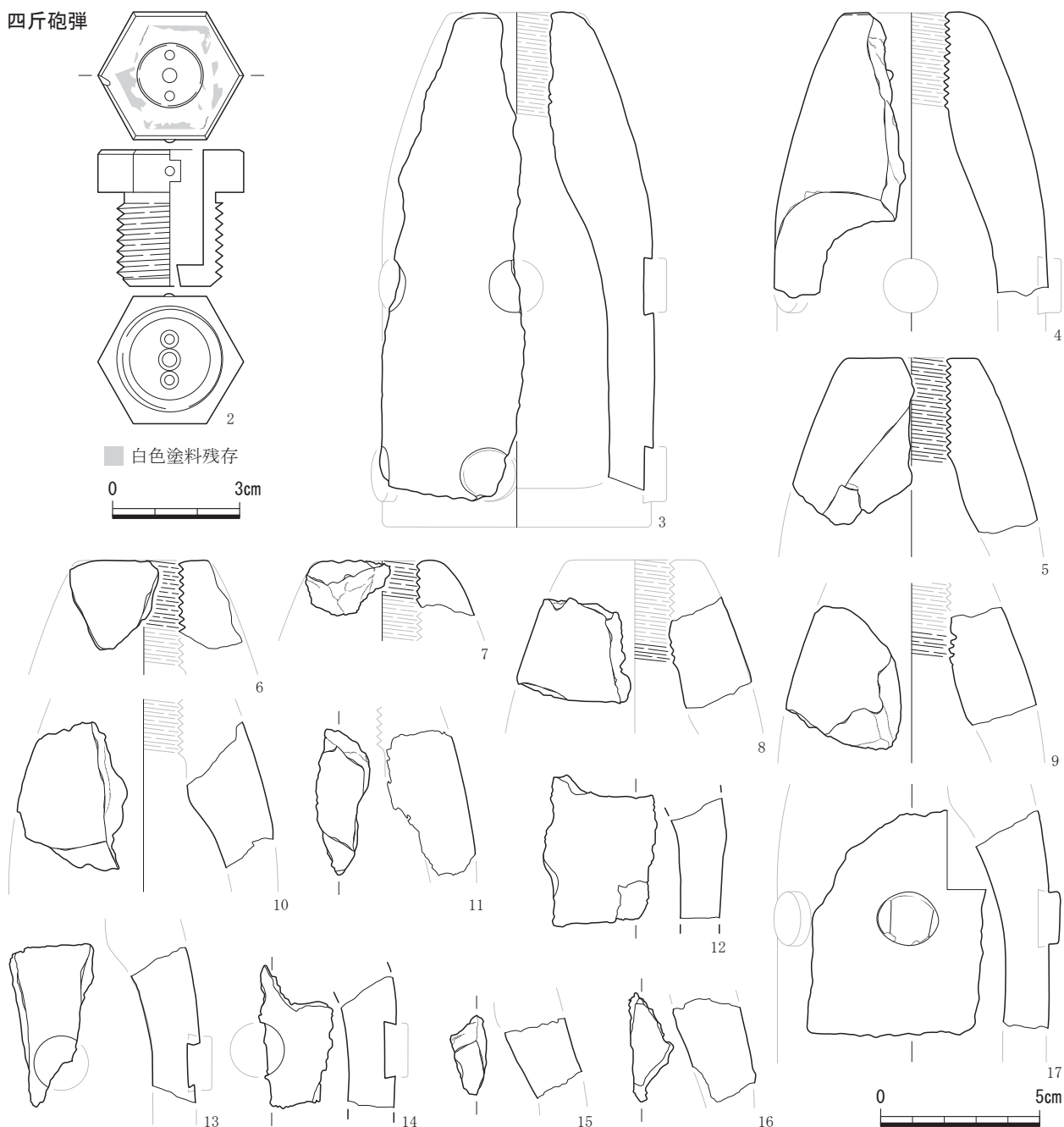
側部弾殻片には 3 の大型片から 35 のような小片まで、様々な大きさがあり、鑄鉄製砲弾の破損状況の多様性が知れる。36 断面には鑄物鬆がある。弾殻表面の黒色塗料は確認できないが、47、50 ~ 52 の筈翼にはかろうじて残存している。

推定砲弾着弾地点採集の 60 ~ 79 は信管があり、弾殻は 2 点を欠くのみ、筈翼は上段 6 点のうち 5 点残存、下段は 6 点

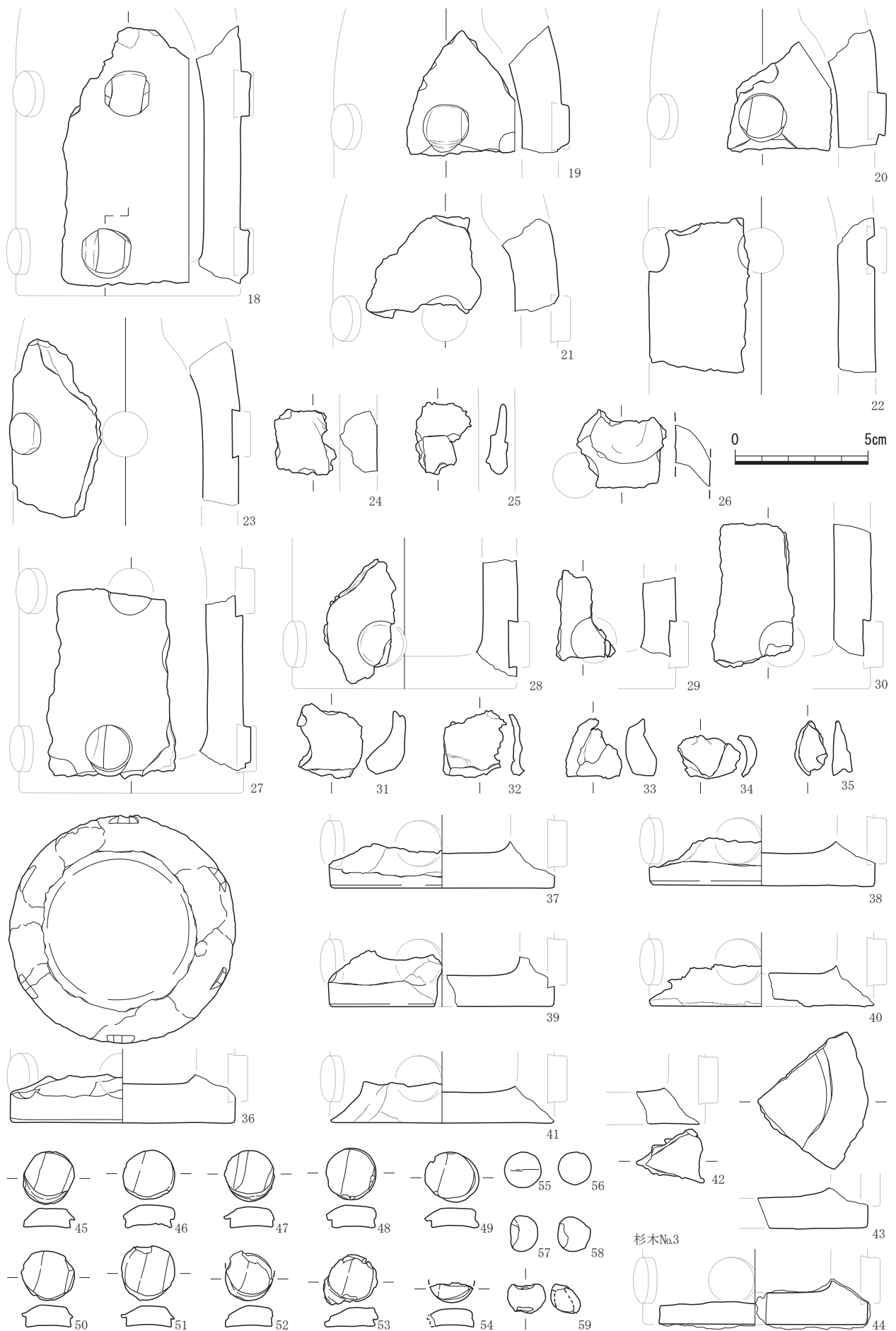
十三拇臼砲弾



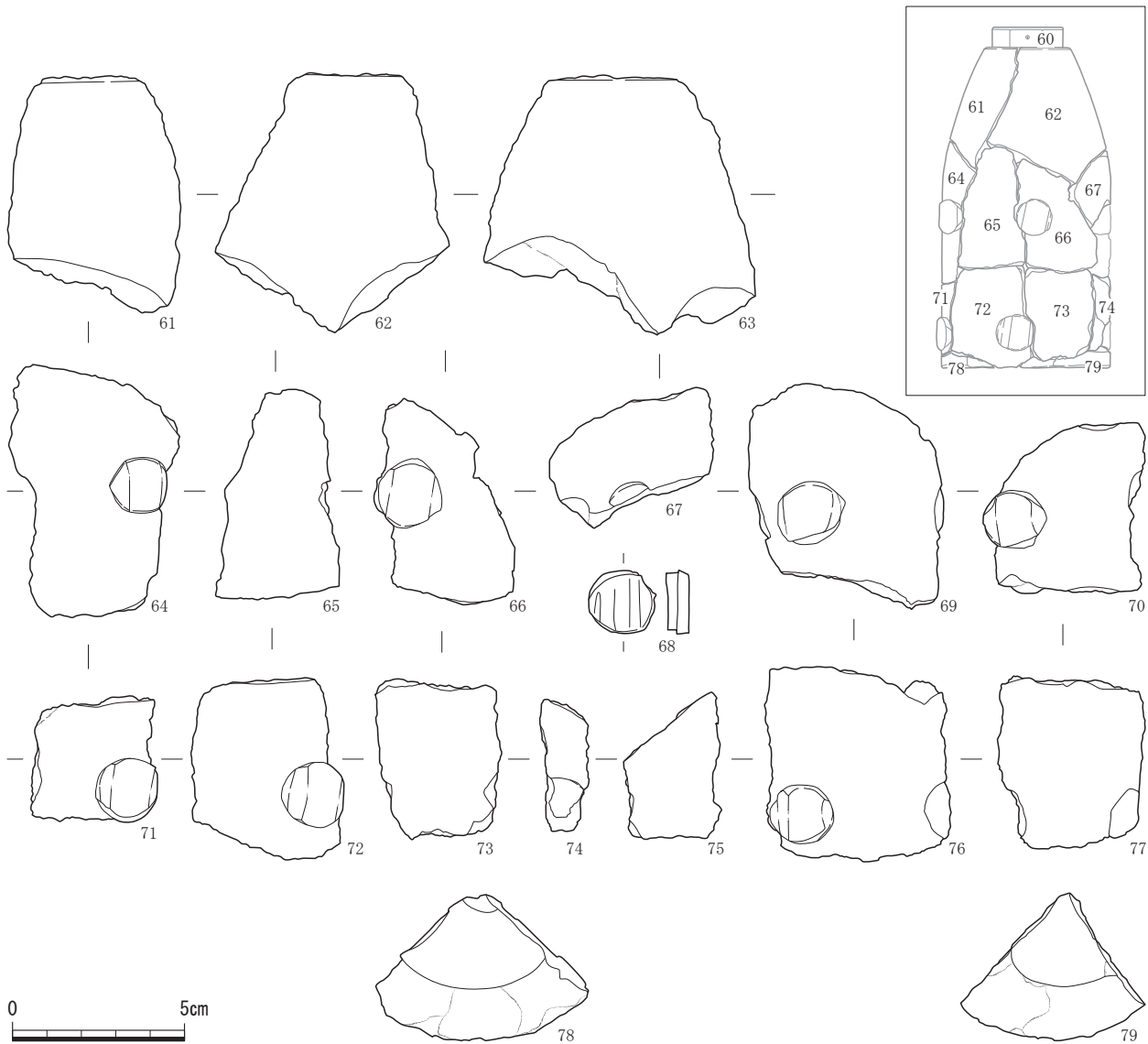
四斤砲弾



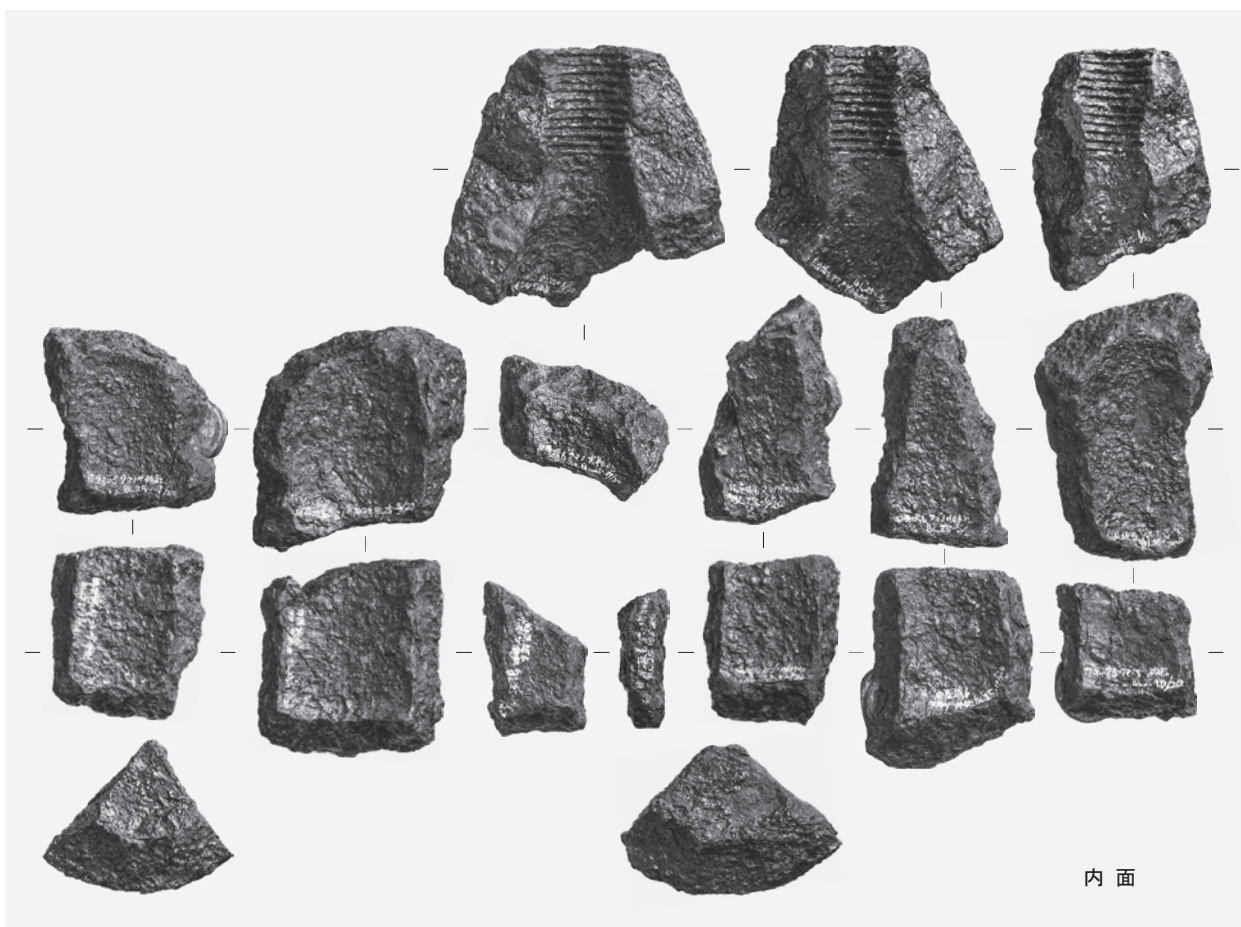
第 55 図 金属探知機採集遺物 四斤砲弾 1



第56図 金属探知機採集遺物 四斤砲弾 2



第 57 図 金属探知機採集遺物 四斤砲弾 3 (砲弾着弾地点)



金属探知機採集遺物 四斤砲弾（砲弾着弾地点）



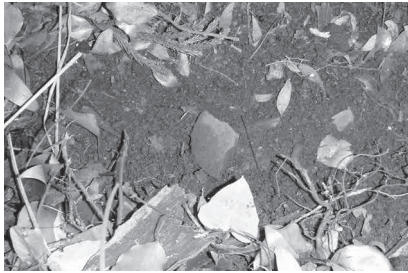
信管 2



四斤砲弾 3



四斤砲弾 4



四斤砲弾 38

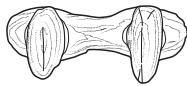


鉄製品 1

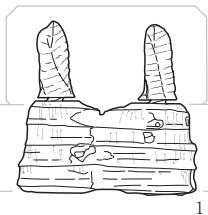


鉄製品 3

弾薬箱ネジ釘



上面



1

側面

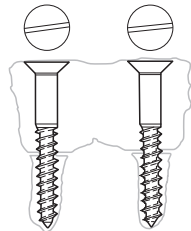


内面

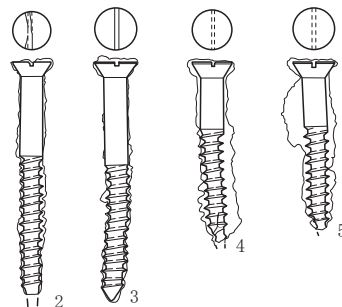


真鍮製ネジ釘は弾薬箱の内側に使用されている

真鍮製



鉄製

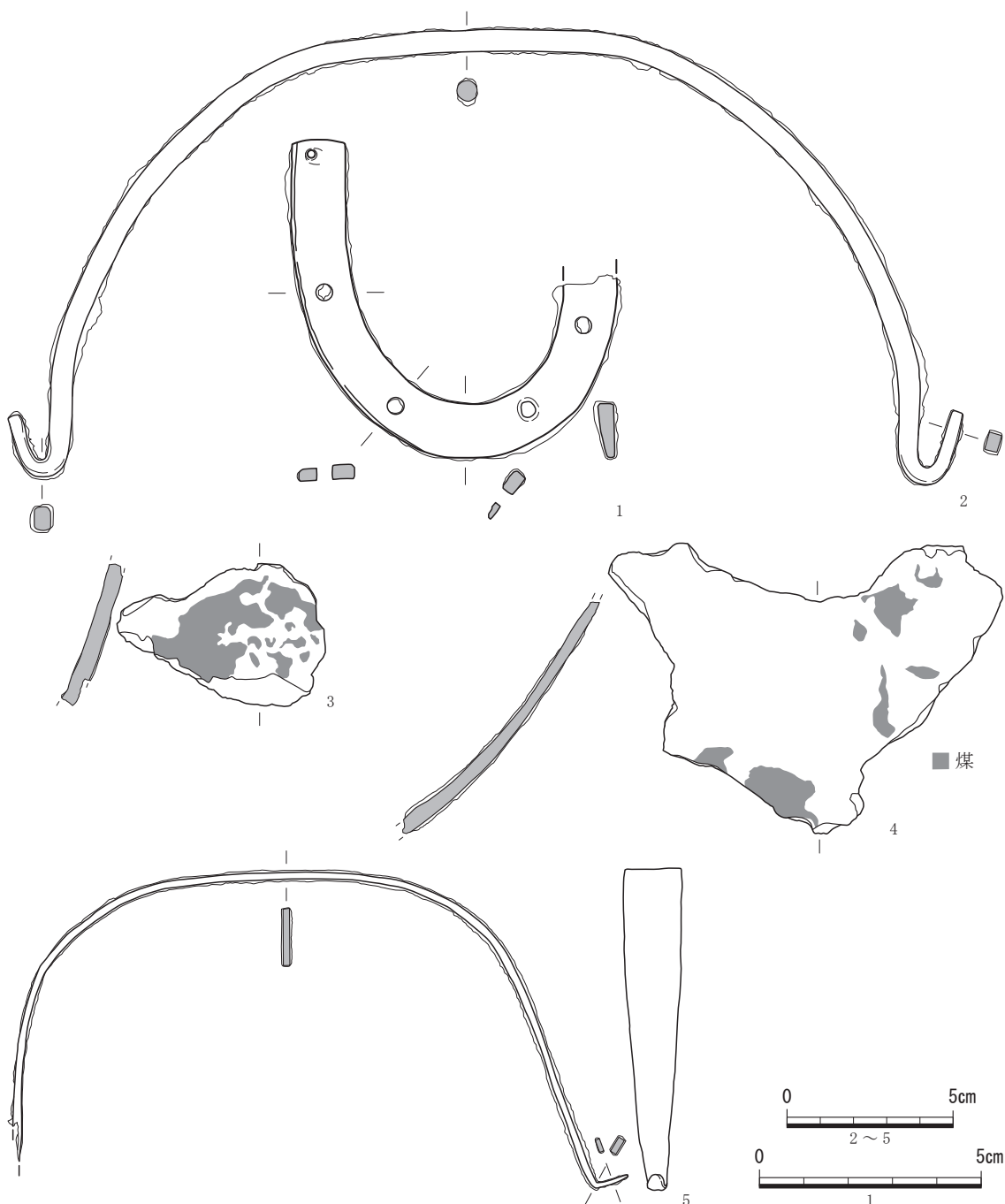


第 58 図 金属探知機採集遺物 弾薬箱ネジ釘

のうち3点残存で計12点のうち4点を欠くが、全体としては遺存状況はすこぶる良く、採集全点が接合した稀有な例である。ただし、鑄鉄製のため錆化が早く進み、出土時に比べると表面や断面に膨れが生じ一部は剥離している。適切な保存環境の整備が必要である。

ネジ釘 真鍮製と鉄製の2種類。スナイドル銃弾薬箱のネジ釘と思われ、真鍮製は内側、鉄製は外側に使用される。真鍮製ネジ釘は長さ4.4cm、頭径1.2cmで木質が残り、木繊維方向から使用場所が判明した。鉄製ネジ釘は長さが6.3cmと5.0cm、頭径1.1cmと1.0cmほどである。蓋外面「スナイトル実包四百四拾發」墨書の弾薬箱の場合、真鍮製ネジ釘4本、鉄製ネジ釘6本で他に角釘が36本使用される。(559頁写真)

鉄製品 2種類で、靴底金具は幅7.4、長さ7.1cm。鉄鍋取手は2が直径26cmほどの鍋、5はやや小型の径19cmの鍋のものだろう。3と4の鉄鍋片には外面に煤が付着する。



第59図 金属探知機採集遺物 鉄製品1

(2) その他の遺物

鉄製品 (第60図1～第61図21)

1は駄載環、2・3は蹄鉄である。4～15は神社に関わる建材・備品とみられ、特に4・13は本調査区を特徴づけるものといえる。4は扉の軸金物、5～10は和釘である。5・6は頭巻釘で、胴部上端が角張る。頭部を成形する際、頭部と胴部との境に鑿で刻みを入れた可能性を示す(「7. 本道二ノ坂調査地」にて後述)。7～9は皆折釘である。10は角頭釘で、頭部は八角形を呈する。11は鏝、12は目鏝である。13はクルル鉤である。社殿の扉などに使用されたものであろう。先端は欠失するものの、曲がった鍵爪部が続くとみられ、柄部には木質が残存する。14は不明鉄製品であるが、調度品の装具などの可能性を指摘しておく。15は火打金である。両端部が捻り延ばされるねじり鎌形を呈する。16は刀子、17・18は鋤あるいは鍬の先、19・20は楔である。21は不明品であるが、先端が尖ることから利器の可能性を指摘できる。

銭貨 (第61図22～第62図73)

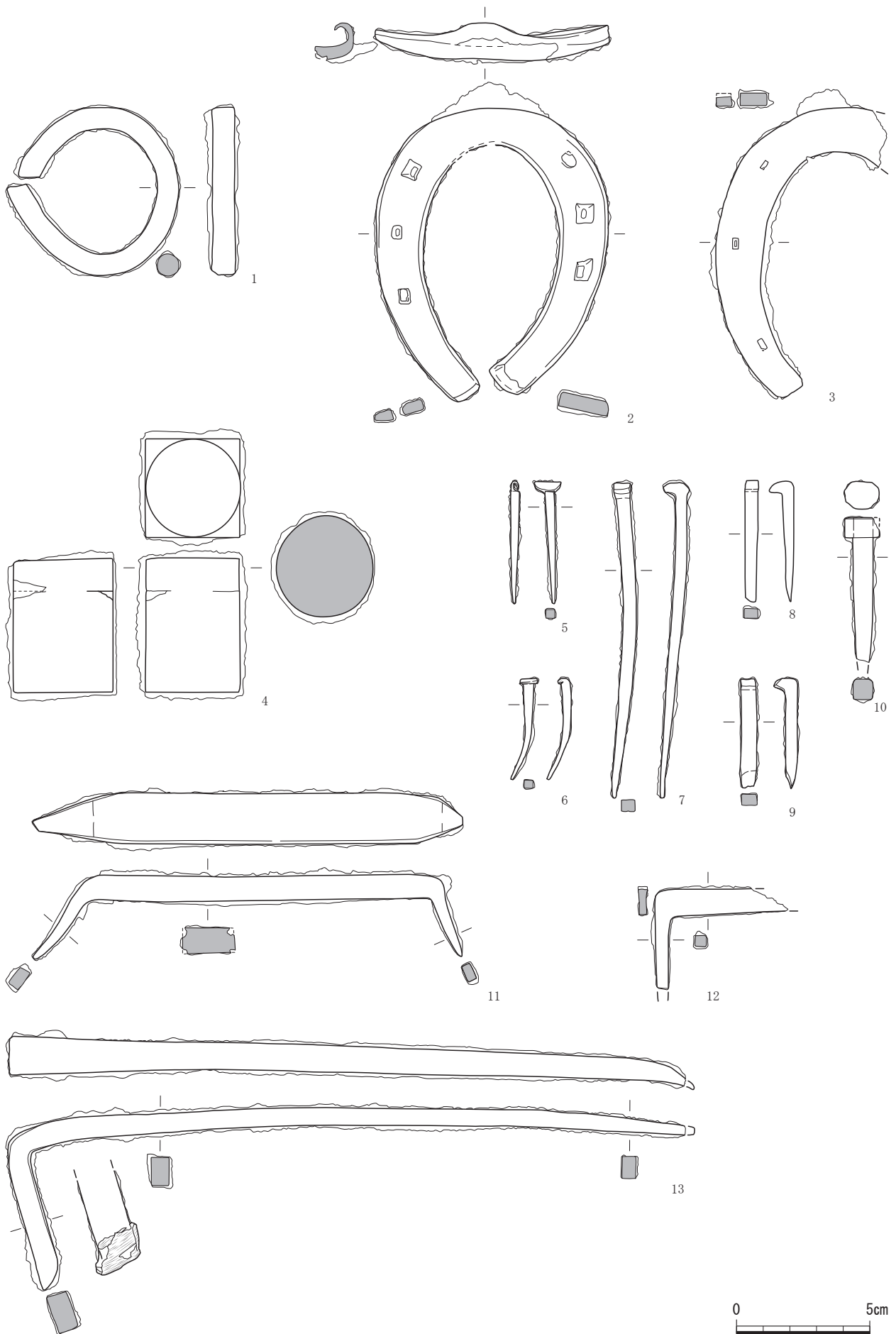
本調査区においては銭貨が多い。52点検出しており、多くは賽銭と考えられる。22は皇宋通宝である。中世期に納められた、あるいは中世以来の長期的備蓄後に使用されたとみられる。23～59は寛永通宝である。うち23～26の古寛永4点は他の調査区では検出例が無く、これは点数の多寡が一因と考えられる。58・59は鉄一文銭である。60・61の天保通宝は薩摩銭とみられる。62～72は近代銭貨で、うち62～64の竜半銭銅貨・竜1銭銅貨は西南戦争以前の年銘である。73の稲10銭アルミ貨(昭和20年銘)は現代品とはいえ敗戦直後の鑄造であることから掲載した。

土器・陶磁器類 (第63図74～77)

74～76の中世土師器坏・小皿は、地元住民が本調査区(境内)において表面採集したものである。77は把手付き受付皿形の陶器灯火具(ほぼ完形品)である。上皿部には煤の付着が顕著に認められ、また灯芯が残存している。本品は本殿床下において採集したもので、資料化後、元の場所に戻している。

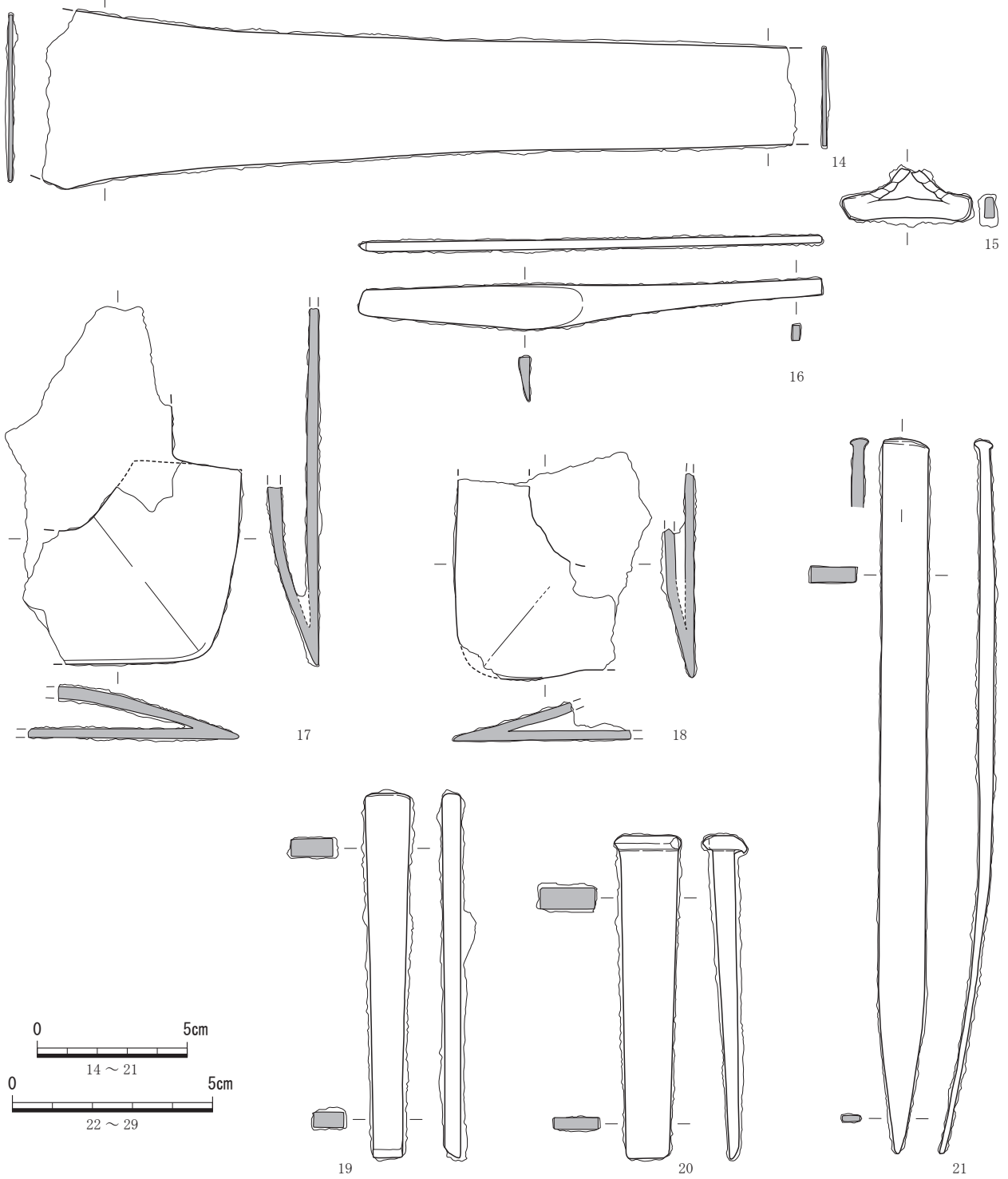
銅製品ほか (第63図78～90)

78は鉛弾である。火縄銃2匁銃弾の可能性はある。79～81は銅製和鏡である。詳細時期は不明ながら中世の型式とみられる。3片とも被熱により変形し、表面は溶解しており、部分的に発泡、黒色化、炭の付着が認められる。西南戦争の兵火によるものであろう。神社神体の可能性、同一個体の可能性が高いといえる。これらを前提にすると、変形はしているものの、79の縁の外弧の形状から面径は中世の通常(10cm前後)よりは大きいものと考えられる。81に見られる紐が素紐であることもその傍証といえる。79には外区文様の細い楯状文・連珠文が認められる。80は界線に画された内区文様が認められる。2本を単位とする多角形あるいは格子文のように見えるが不明瞭である。81は素円紐の周りに放射状文と連珠文が配されている。82・83も神社関連資料と考えられる。82は海老錠に伴う銅製鍵で、鍵爪部はコ字形を呈する。83は銅製の皆折釘である。調度具に伴うものであろうか。84・85は銅製釦、うち85は金メッキが明瞭(金釦)である。84は桜文、85は旧海軍の「桜に碇」文を鑄出している。86は銅製煙管の雁首である。87は彫金により鼠2匹を象った銅の薄板で、調度金具とみられる。正面は細線刻文様を施し、背面は無文である。背面には、本来、本体に装着するための軸が付いていた可能性があるが、被熱によるものであろうか、爆ぜや爛れがあってその痕跡は認められない。88は玉簪である。軸と花卉形を呈する玉の受部は鉄製、玉はトンボ玉(ガラス)である。トンボ玉は、表裏一対2匹の金魚を淡い桃色のガラス(小円子により着色したものであろう)により、水の文様を鮮やかな藍色のガラス(化学コバルトにより着色したものであろう)により表現している。89はランプの銅製部品であろうか。現状は潰れているが本来は円筒形を呈していたとみられ、縦方向のスリットが連続する銅製のリングを、銅製の薄板2枚で挟んで固定している。90は鉄滓(鍛冶滓)である。左右両面に顕著に木炭痕が認められる。右面の白色部分(図中アミカケ)はガラス質が晶出したものとみられる。

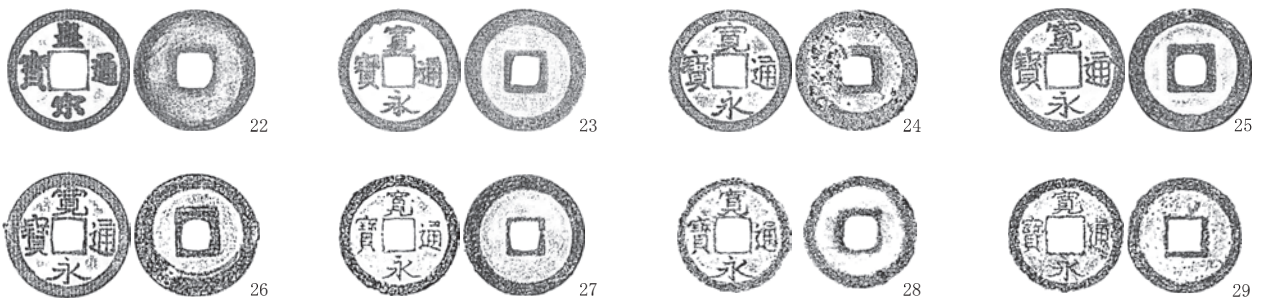


第 60 図 その他の遺物 - 鉄製品 1

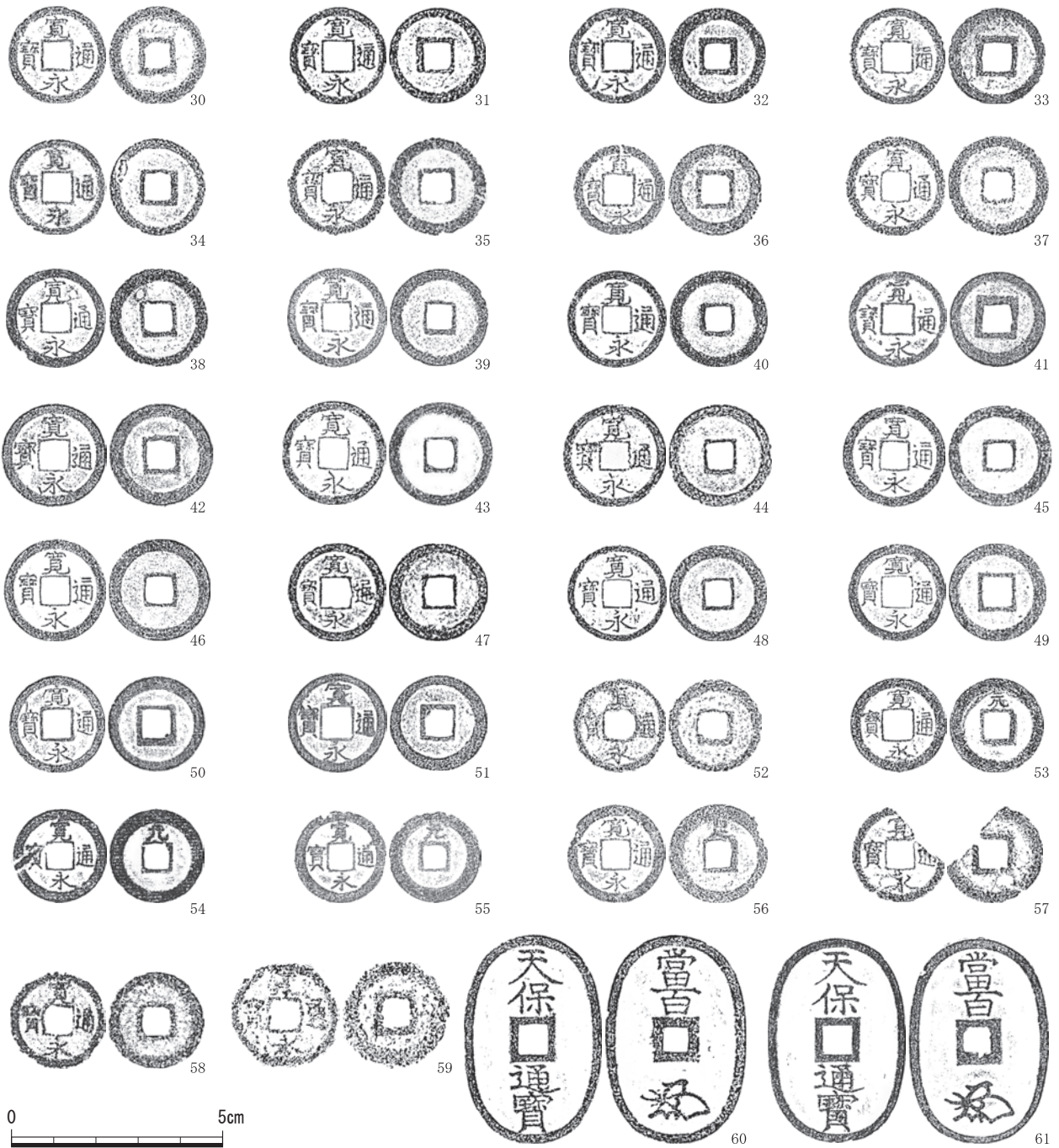
鉄製品



銭貨

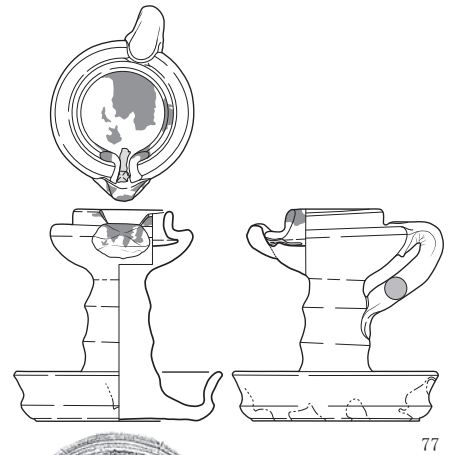
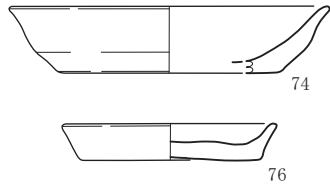


第 61 図 その他の遺物 - 鉄製品 2・銭貨 1

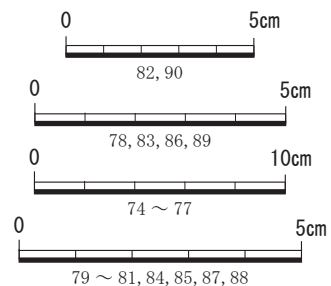
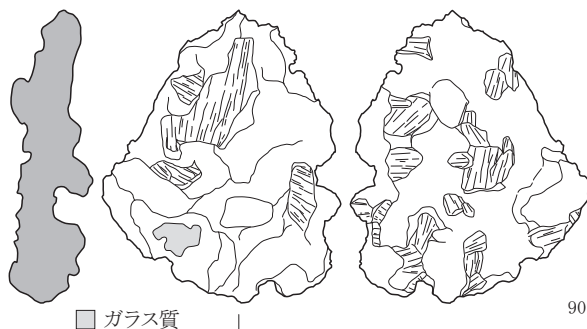
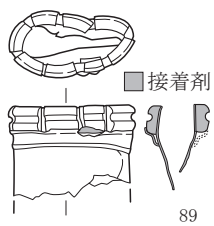
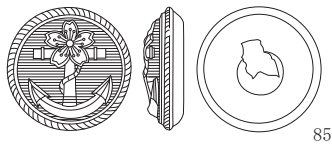
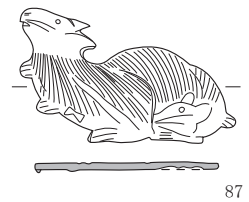
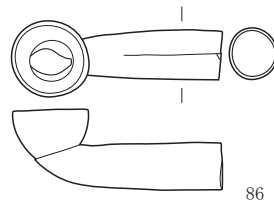
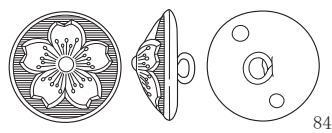
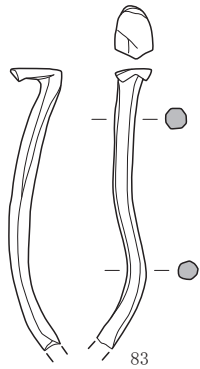
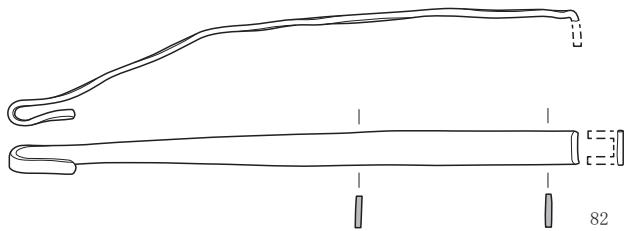
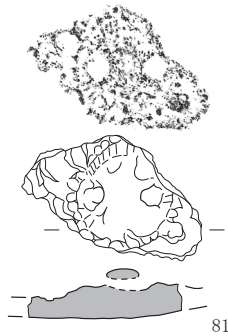
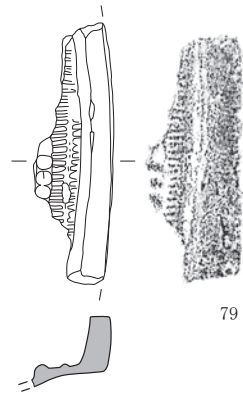
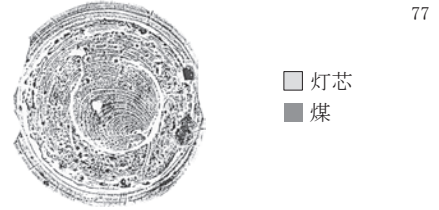
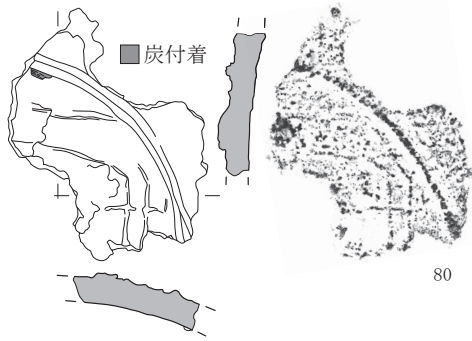
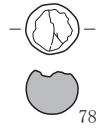


第 62 図 その他の遺物 - 銭貨 2

土器・陶磁器類



銅製品ほか



第 63 図 その他の遺物 - 土器・陶磁器類, 銅製品ほか

第8表 熊野座神社調査地 出土遺物観察表

スナイドル未使用弾 (第39図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	弾頭部									薬莢底部					備考
			分類	圈溝			栓 材/色	計測値(mm/g)			分類	抽筒 板	計測値(mm/g)				
				数	形	刻目		全長	最大径	重さ			現存長	径	重さ		
1	す1329	P8	A2	4	鋸	○	—	27.2	15.1	25.8	—	—	—	—	—	旧Y554	
2	す1325	P4	—	—	—	—	—	—	—	—	2b	鉄	12.6	21.2	6.0	火薬残滓, 旧R55	
3	す1328	P7	A1	4	鋸	×	陶/茶	27.5	16.6	31.1	—	—	—	—	—	弾頭木栓残存有 旧Y545	
4	す1327	P6	A/B	4	鋸	×	陶/茶	26.6	14.8	31.3	—	—	—	—	—	旧Y532	
5	す1148	P9	—	—	—	—	—	—	—	—	2b	鉄	8.7	21.5	4.5	火薬残滓, 旧R29	
6	す1326	P5	A/B	4	鋸	×	陶/茶	27.6	15.5	28.8	—	—	—	—	—	旧Y406	
7	す1324	P3	B	4	鋸	○	木	27.5	15.0	32.0	2b	鉄	17.6	22.0	6.8	火薬残滓	
8	す1322	P1	B	4	鋸	×	木	27.2	15.4	31.4	—	—	—	—	—	筒部残存	
9	す1323	P2	A/B	4	鋸	×	陶/茶	27.4	16.3	32.3	—	—	—	—	—		

スナイドル薬莢 (第39図～第40図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒 板	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒 板	計測値(mm/g)			備考
					現存長	径	重さ							現存長	径	重さ	
10	す1176	R92	2b	鉄	50.0	17.0	8.9	集中部A	45	す799	R33	2b	鉄	8.0	17.0	2.8	集中部D 雷管室上部欠
11	す1175	R82	2b	鉄	49.0	17.0	8.9	集中部A	46	す1154	R59	2b	鉄	12.0	17.0	5.6	集中部D
12	す789	R81	2b	鉄	49.0	17.0	7.7	集中部A	47	す1157	R62	2b	鉄	13.5	16.5	4.9	集中部D
13	す795	R93	2b	鉄	49.5	17.0	8.1	集中部A	48	す1156	R61	2b	鉄	10.5	17.0	4.4	集中部D
14	す791	R84	2b	鉄	38.0	17.0	8.2	集中部A	49	す1160	R65	2b	鉄	11.0	17.0	4.1	集中部D
15	す1174	R80	2b	鉄	15.2	17.0	6.4	集中部A	50	す1158	R63	2b	鉄	11.0	17.0	3.2	集中部D
16	す793	R86	2b	鉄	18.0	17.0	6.9	集中部A	51	す1165	R70	2b	鉄	12.0	16.5	4.0	集中部D
17	す797	R96	2b	鉄	16.0	17.0	6.0	集中部A 手てんご	52	す892	R49	2b	鉄	20.0	20.0	6.2	集中部E
18	す859	R88	2b	鉄	14.0	17.0	6.0	集中部A	53	す802	R37	2b	鉄	14.0	17.0	6.6	集中部E
19	す796	R95	2b	鉄	13.5	17.0	6.3	集中部A 手てんご	54	す787	R46	2b	鉄	15.0	17.0	6.5	集中部E
20	す862	R91	2b	鉄	16.5	17.0	5.8	集中部A 手てんご	55	す800	R34	2b	鉄	13.0	17.0	6.0	集中部E 手てんご
21	す861	R90	2b	鉄	13.0	17.0	5.2	集中部A	56	す801	R36	2b	鉄	13.0	17.0	6.3	集中部E
22	す794	R87	2b	鉄	11.0	17.0	6.0	集中部A 手てんご	57	す816	R54	2b	鉄	11.0	17.0	6.9	集中部E 手てんご
23	す792	R85	2b	鉄	13.0	17.0	5.8	集中部A	58	す891	R42	2b	鉄	12.0	17.0	6.2	集中部E
24	す860	R89	2b	鉄	11.0	17.0	6.3	集中部A 筒部紙残存	59	す810	R47	2b	鉄	13.0	17.0	6.9	集中部E
25	す790	R83	2b	鉄	9.0	17.0	5.3	集中部A 筒部紙残存	60	す806	R41	2b	鉄	13.0	17.0	6.1	集中部E 手てんご
26	す1173	R94	—	—	35.5	12.0	0.9	集中部A 手てんご 筒部のみ残存	61	す812	R50	2b	鉄	12.5	17.0	6.2	集中部E 手てんご 筒部紙残存
27	す1167	R72	2b	鉄	27.0	16.5	6.5	集中部B	62	す805	R40	2b	鉄	11.0	17.0	5.7	集中部E 筒部紙残存
28	す788	R79	2b	鉄	12.0	17.0	5.1	集中部B 雷管室上部欠	63	す814	R52	2b	鉄	9.0	17.0	5.1	集中部E 手てんご 筒部紙残存
29	す1168	R73	2b	鉄	11.0	17.0	6.1	集中部B 筒部紙残存	64	す809	R45	2b	鉄	12.0	17.0	6.8	集中部E
30	す1166	R71	2b	鉄	13.0	17.0	5.6	集中部B 雷管室上部欠	65	す813	R51	2b	鉄	12.0	17.0	5.6	集中部E
31	す1169	R74	2b	鉄	11.8	17.0	3.8	集中部B	66	す815	R53	2b	鉄	11.5	17.0	6.1	集中部E 筒部紙残存
32	す1171	R76	2b	鉄	12.0	17.0	4.2	集中部C 手てんご	67	す807	R43	2b	鉄	11.0	17.0	5.9	集中部E
33	す1172	R77	2b	鉄	11.0	17.0	3.3	集中部C	68	す811	R48	2b	鉄	11.0	17.0	5.6	集中部E
35	す1153	R58	2b	鉄	18.0	17.0	7.4	集中部D	69	す804	R39	2b	鉄	11.0	17.0	5.6	集中部E
36	す1155	R60	2b	鉄	16.0	17.0	5.9	集中部D	70	す808	R44	2b	鉄	10.0	17.0	5.6	集中部E 手てんご
37	す1159	R64	2b	鉄	14.0	17.0	6.1	集中部D	71	す803	R38	2b	鉄	9.0	17.0	6.2	集中部E 筒部紙残存
38	す798	R32	2b	鉄	13.0	17.0	6.5	集中部D	72	す1151	R35	2b	鉄	12.0	17.0	6.3	集中部E
39	す1150	R31	2b	鉄	10.0	17.0	5.4	集中部D 手てんご	73	す817	R56	2b	鉄	8.0	17.0	2.6	集中部E 雷管室上部欠
40	す1152	R57	2b	鉄	13.0	17.0	6.0	集中部D	74	す1140	R21	2b	鉄	48.0	17.0	8.2	集中部F 雷管室上部欠
41	す1164	R69	2b	鉄	12.5	17.0	5.6	集中部D	75	す1147	R28	2b	鉄	44.0	17.0	8.3	集中部F
42	す1161	R66	2b	鉄	13.2	17.0	5.5	集中部D	76	す1132	R13	2b	鉄	43.0	17.0	9.1	集中部F
43	す1162	R67	2b	鉄	14.0	17.0	6.2	集中部D	77	す1144	R25	2b	鉄	25.0	17.0	7.7	集中部F
44	す1163	R68	2b	鉄	10.0	17.0	5.6	集中部D									

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒 板	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒 板	計測値(mm/g)			備考
					現存長	径	重さ							現存長	径	重さ	
78	す1130	R11	2b	鉄	22.0	17.0	6.5	集中部F	93	す1124	R5	2b	鉄	11.0	17.0	6.0	集中部F
79	す1131	R12	2b	鉄	18.0	17.0	6.7	集中部F	94	す1145	R26	2b	鉄	9.5	17.0	5.6	集中部F
80	す1142	R23	2b	鉄	12.0	17.0	5.5	集中部F	95	す1139	R20	2b	鉄	13.0	17.0	6.1	集中部F
81	す1146	R27	2b	鉄	18.0	17.0	6.2	集中部F	96	す1137	R18	2b	鉄	16.5	17.0	5.9	集中部F
82	す1122	R3	2b	鉄	16.0	17.0	6.7	集中部F	97	す1138	R19	2b	鉄	9.8	17.0	4.5	集中部F 手てんご 雷管室上部欠
83	す1141	R22	2b	鉄	11.0	17.0	6.8	集中部F 手てんご	98	す1123	R4	2b	鉄	13.5	17.0	3.5	集中部F
84	す1126	R7	2b	鉄	11.5	17.0	6.7	集中部F 手てんご	99	す1127	R8	2b	鉄	13.0	17.0	3.7	集中部F
85	す1129	R10	2b	鉄	12.0	17.0	6.4	集中部F 手てんご	100	す1133	R14	2b	鉄	40.0	17.0	4.5	集中部F 雷管室上部欠
86	す1134	R15	2b	鉄	11.5	17.0	6.0	集中部F	101	す1120	R1	2b	鉄	15.5	17.0	5.5	集中部F
87	す1128	R9	2b	鉄	11.0	17.0	4.8	集中部F	102	す1149	R30	2b	鉄	11.0	17.0	5.3	陣地状遺構 雷管室上部欠
88	す1136	R17	2b	鉄	14.0	17.0	4.8	集中部F	103	す1706	表採	2b	鉄	9.0	17.0	6.2	手てんご 雷管室上部欠
89	す1120	R2	2b	鉄	10.8	17.0	6.3	集中部F 筒部紙残存									
90	す1135	R16	2b	鉄	9.5	17.0	7.1	集中部F		欠番	R55						未使用弾P4へ変更
91	す1143	R24	2b	鉄	10.0	17.0	5.8	集中部F		欠番	R29						未使用弾P9へ変更
92	す1125	R6	2b	鉄	10.8	17.5	5.1	集中部F		欠番	R75						現代のもの

スペンサー薬莖 (第39図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒 板	計測値(mm/g)			備考
					現存長	径	重さ	
34	す893	R78	—	—	25.0	14.0	4.1	集中部C

スナイドル銃弾 (第41図～第53図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
1	す840	Y82	P2	4	丸・鋸?	×	木	5	26.0	15.0	29.3	鋳型造横溝あり有, 木栓外れる
2	う437	Y332	P3	3	鋸	×	陶/茶	5	27.4	14.5	28.7	
3	す945	Y421	P3	4	鋸	×	—	5	27.0	15.0	28.4	
4	シ569	Y29	P4	4	丸	×	—	5	25.5	15.0	32.5	
5	う480	Y519	P4	4	丸	×	—	5	25.5	14.5	31.7	鋳型造縦溝あり有
6	う403	Y212	P4	4	丸	×	—	5	25.0	14.0	31.0	
7	オ308	Y525	P4	4	丸	×	—	5	24.6	14.5	33.8	
8	シ477	Y4	P4	4	丸	×	—	5	26.0	17.0	33.3	
9	う279	Y67	P4	3	丸	×	—	5	25.0	15.0	27.4	
10	う429	Y324	P4	4	丸	×	—	不明	28.5	15.2	33.4	
11	す940	Y416	P4	4	丸	×	—	不明	31.5	22.6	32.8	平たく潰れている
12	す955	Y431	P4	4	丸	×	—	不明	28.2	19.5	31.0	
13	す971	Y572	P4	4	丸	○	—	5	24.0	18.9	34.2	
14	う487	Y670	A1	4	鋸	○	陶/茶	5	25.3	15.0	31.0	弾頭木栓残存有
15	す936	Y410	A1	4	鋸	○	—	5	24.7	17.7	28.5	弾頭木栓残存有, 新しい傷有
16	オ344	Y695	A1	3	鋸	○	陶/茶	5	20.6	18.0	30.0	弾頭木栓残存有
17	う485	Y661	A1	4	鋸	×	—	不明	28.0	19.2	30.5	弾頭木栓残存有, 弾頭木栓動く
18	す865	Y103	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	21.5	18.0	29.0	弾頭木栓残存有, 弾頭木栓動く
19	す852	Y94	A1	4	鋸	×	—	5	22.5	17.0	28.4	弾頭木栓残存有, 仕切りが動く
20	シ567	Y27	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	19.0	28.1	弾頭木栓残存有
21	う351	Y179	A1	4	鋸	×	—	5	19.0	30.0	28.2	弾頭木栓残存有, 弾頭木栓外れる
22	う187	Y50	A1	4	鋸	○	陶/茶	5	13.0	29.0	27.1	弾頭木栓残存無
23	う401	Y210	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	19.0	28.9	弾頭木栓残存無
24	シ558	Y18	A1	4	鋸	×	木	5	19.0	37.0	29.4	弾頭木栓残存有, 木栓外れる
25	う358	Y186	A1	2	鋸	×	陶/茶	5	22.0	19.0	27.9	弾頭木栓残存有
26	す916	Y389	A1	3	鋸	○	陶/茶	5	22.4	31.0	28.8	弾頭木栓残存有
27	オ382	Y256	A1	4	鋸	×	—	5	25.3	17.4	28.7	弾頭木栓残存無
28	オ392	Y266	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	25.4	15.0	28.3	弾頭木栓残存有
29	う188	Y51	A1	4	鋸	×	—	5	27.0	19.0	28.5	弾頭木栓残存無
30	う240	Y611	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	25.1	20.2	30.6	弾頭木栓残存有
31	シ564	Y24	A1	4	鋸	○	—	不明	26.0	22.0	28.0	弾頭木栓残存有
32	う290	Y78	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	15.0	28.8	
33	す882	Y120	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	14.5	28.5	
34	う406	Y215	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.5	29.8	
35	す979	Y580	A2	4	鋸	○	—	5	27.0	15.0	29.0	
36	う288	Y76	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	15.0	31.6	
37	う294	Y122	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	29.1	陶栓横半分には割れて外れる
38	オ388	Y262	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.2	14.6	28.7	
39	う469	Y450	A2	4	鋸	○	—	5	27.0	14.6	28.1	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
40	オ402	Y276	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.8	14.7	29.3	
41	う246	Y617	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	27.1	15.4	29.7	
42	う436	Y331	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.3	14.9	29.2	
43	う313	Y141	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	29.4	
44	う315	Y143	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.5	28.5	
45	う356	Y184	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	14.5	28.4	
46	う373	Y201	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	29.1	
47	シ561	Y21	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	14.5	28.4	
48	う316	Y144	A2	4	鋸	×	—	5	28.0	16.0	28.3	
49	う376	Y204	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.5	
50	オ870	Y108	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	15.0	29.0	
51	オ889	Y235	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	22.0	15.0	29.2	
52	オ312	Y529	A2	4	鋸	×	—	5	25.4	15.7	29.4	
53	シ479	Y6	A2	4	鋸	×	—	5	26.5	14.0	28.1	
54	オ880	Y118	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	29.0	
55	う218	Y473	A2	4	鋸	×	—	不明	27.2	14.8	28.5	
56	う336	Y164	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	29.1	鉛の質が悪い
57	オ335	Y683	A2	4	鋸	○	—	5	23.3	17.0	29.4	
58	う307	Y135	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	15.0	27.9	
59	オ933	Y407	A2	4	鋸	×	—	5	24.6	14.8	28.9	
60	シ481	Y8	A2	4	鋸	○	—	5	23.0	14.0	28.5	
61	オ843	Y85	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	14.5	27.9	鉛の質が悪い
62	シ577	Y37	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	14.0	29.3	
63	う472	Y484	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.0	16.2	28.6	
64	シ602	Y302	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	14.5	27.8	
65	う293	Y121	A2	2	鋸	×	陶/茶	5	21.0	14.5	26.6	
66	う337	Y165	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	14.5	28.2	
67	う281	Y69	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	14.0	28.1	
68	う270	Y58	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	15.0	29.0	
69	う410	Y219	A2	1	鋸	×	—	5	25.5	14.0	25.7	
70	う411	Y220	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.3	
71	う486	Y665	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	14.7	29.9	
72	う234	Y605	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	27.2	17.4	29.6	
73	シ508	Y504	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	25.0	15.0	29.5	
74	シ486	Y13	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.5	14.5	27.8	
75	う292	Y80	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	14.5	28.0	
76	う366	Y194	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	29.3	
77	オ846	Y88	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.0	14.5	28.3	
78	う383	Y208	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	15.0	28.0	
79	う448	Y343	A2	4	鋸	○	—	5	25.7	15.2	29.0	
80	う467	Y448	A2	4	鋸	○	—	5	25.0	14.5	28.4	
81	シ570	Y30	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	14.6	28.3	
82	う505	Y500	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	25.0	14.5	29.7	
83	う262	Y633	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.4	16.4	29.4	
84	う362	Y190	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.5	28.2	
85	う268	Y56	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	17.0	28.1	
86	オ371	Y245	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.8	14.6	29.6	
87	う249	Y620	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.2	16.4	29.1	
88	シ560	Y20	A2	2	鋸	×	陶/茶	5	23.0	16.0	27.8	
89	オ399	Y273	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.8	28.7	
90	う417	Y226	A2	4	鋸	×	—	5	19.5	17.5	28.2	巻造り
91	オ341	Y691	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.8	17.0	30.5	
92	う317	Y145	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.9	
93	オ320	Y539	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	26.0	14.8	29.7	
94	う346	Y174	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.5	16.0	27.9	
95	う479	Y518	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	22.2	16.4	29.9	
96	う367	Y195	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.0	16.0	29.2	
97	う384	Y209	A2	4	鋸	×	—	5	21.5	16.5	28.6	
98	う328	Y156	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.0	15.0	29.1	
99	う365	Y193	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	16.0	27.5	
100	う314	Y142	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	16.0	27.9	
101	う444	Y339	A2	4	鋸	○	—	5	24.5	14.8	29.7	
102	オ393	Y267	A2	4	鋸	○	—	5	28.0	18.3	28.4	
103	う344	Y172	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	15.0	27.8	
104	う349	Y177	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	14.5	27.1	
105	オ965	Y566	A2	4	鋸	○	—	不明	23.8	15.0	28.6	
106	う450	Y345	A2	4	鋸	×	—	5	22.6	17.5	27.1	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
107	う477	Y513	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	21.5	14.8	29.8	
108	う231	Y602	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	15.4	29.2	
109	う335	Y163	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	28.5	
110	う221	Y477	A2	4	鋸	×	—	不明	25.8	16.5	28.2	
111	う355	Y183	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	15.0	29.4	
112	う327	Y155	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.6	
113	オ398	Y272	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.6	30.2	
114	う357	Y185	A2	4	鋸	×	—	5	20.0	19.0	28.1	
115	う239	Y610	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	20.8	21.2	29.2	
116	う179	Y42	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	19.0	19.0	27.3	
117	う354	Y182	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	23.0	28.1	
118	う374	Y202	A2	4	鋸	×	—	5	16.0	24.0	28.3	
119	う256	Y627	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.6	22.6	24.0	
120	オ396	Y270	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.1	22.4	27.8	
121	う274	Y62	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.0	24.0	24.8	
122	シ510	Y506	A2	4	鋸	×	—	不明	19.5	24.0	28.1	
123	オ917	Y390	A2	2	鋸	×	陶/茶	5	23.4	15.8	25.4	
124	う408	Y217	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	15.5	27.7	
125	オ322	Y543	A2	4	鋸	○	—	不明	25.4	14.8	28.7	
126	シ509	Y505	A2	4	鋸	○	—	不明	20.0	16.2	28.5	
127	う378	Y206	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	18.5	27.3	
128	オ374	Y248	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.6	23.6	29.7	
129	オ352	Y705	A2	4	鋸	○	—	5	16.2	23.4	29.4	
130	オ324	Y546	A2	4	鋸	○	—	不明	16.4	24.0	28.8	
131	オ326	Y548	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	16.7	23.0	25.8	
132	う430	Y325	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.8	18.4	28.6	陶栓外れる
133	シ543	Y668	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	15.2	28.6	
134	う377	Y205	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	17.0	29.1	
135	シ605	Y305	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	14.5	28.6	新しい傷有
136	シ571	Y31	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.5	15.0	28.4	
137	シ551	Y677	A2	4	鋸	○	—	5	25.5	15.0	29.7	
138	オ406	Y280	A2	4	鋸	○	—	5	2.3	16.4	27.4	
139	オ855	Y97	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	16.0	28.6	
140	シ528	Y650	A2	4	鋸	○	—	5	21.5	19.5	30.4	
141	シ535	Y657	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	16.4	30.4	
142	オ349	Y701	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	23.0	20.0	29.9	
143	シ611	Y311	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	23.5	16.0	29.8	
144	オ403	Y277	A2	4	鋸	×	—	不明	26.2	14.3	27.4	巻造り
145	シ532	Y654	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.0	15.5	30.3	
146	シ536	Y658	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	18.0	29.6	
147	オ989	Y590	A2	4	鋸	○	—	5	24.0	21.2	28.7	鉛の質が悪い
148	オ876	Y114	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	17.0	28.7	
149	シ606	Y306	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	23.0	16.0	28.8	
150	シ552	Y678	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	22.0	30.3	
151	シ628	Y560	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	19.0	23.0	28.4	
152	う475	Y501	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	20.7	27.9	
153	シ546	Y672	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	22.5	28.5	
154	う465	Y446	A2	4	鋸	○	—	5	20.4	24.9	28.1	
155	シ538	Y662	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	19.0	30.1	
156	オ907	Y380	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	21.0	26.0	
157	う180	Y43	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	20.0	28.6	
158	う345	Y173	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	18.0	26.0	28.0	
159	う446	Y341	A2	4	鋸	○	—	5	20.7	27.1	28.7	
160	シ476	Y3	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	18.5	29.0	
161	う423	Y232	A2	4	鋸	×	—	5	18.0	21.0	23.7	
162	シ615	Y315	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	15.5	25.5	29.0	
163	オ908	Y381	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	28.1	
164	シ491	Y483	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	23.0	22.0	29.6	
165	う219	Y474	A2	4	鋸	×	—	不明	19.4	20.5	28.5	
166	う415	Y224	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	14.5	20.0	23.8	
167	う424	Y444	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	19.0	22.4	29.1	
168	シ482	Y9	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	17.0	30.0	
169	オ915	Y388	A2	4	鋸	×	—	5	20.2	20.0	25.9	
170	オ963	Y439	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	18.9	23.2	28.3	
171	オ851	Y93	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	25.0	27.9	
172	オ970	Y571	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.0	17.0	29.3	
173	オ856	Y98	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	15.0	28.3	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
174	す879	Y117	A2	4	鋸	×	—	5	22.5	16.0	28.8	
175	シ579	Y39	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	21.5	30.0	
176	シ633	Y703	A2	4	鋸	○	—	5	19.3	21.9	30.0	
177	う261	Y632	A2	4	鋸	×	—	不明	15.2	27.6	29.4	
178	う434	Y329	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.3	18.3	29.0	
179	う211	Y465	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	15.5	24.7	29.2	
180	う338	Y166	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	21.0	18.0	28.4	
181	う203	Y457	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	22.9	16.5	30.1	
182	す924	Y397	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	14.6	27.9	
183	す974	Y575	A2	4	鋸	○	—	5	25.4	17.4	29.6	
184	す888	Y234	A2	4	鋸	×	—	5	23.5	18.5	28.0	
185	シ563	Y23	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.5	23.0	27.8	
186	才356	Y709	A2	4	鋸	○	—	5	24.0	16.2	29.5	
187	う350	Y178	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	16.0	28.3	
188	す868	Y106	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	21.0	27.1	
189	す858	Y100	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	19.5	28.4	
190	す986	Y587	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	15.5	26.0	29.8	
191	う482	Y638	A2	4	鋸	×	—	5	14.5	29.0	25.9	
192	う471	Y475	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	17.3	26.3	28.5	
193	う208	Y462	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	18.5	24.5	29.1	
194	う353	Y181	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.0	30.0	26.7	
195	シ565	Y25	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.0	22.5	29.0	
196	シ525	Y647	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	16.0	26.5	30.6	
197	シ485	Y12	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.5	26.5	29.4	
198	シ502	Y496	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	21.0	22.0	27.9	
199	シ586	Y286	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	15.5	24.0	28.7	
200	シ613	Y313	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.0	21.6	21.5	
201	シ555	Y15	A2	4	鋸	○	—	5	22.0	22.0	28.7	
202	シ517	Y516	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	13.5	29.0	29.6	
203	う213	Y468	A2	4	鋸	×	陶/灰	不明	12.0	32.5	29.2	
204	う242	Y613	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	15.0	28.4	31.2	
205	シ531	Y653	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	17.5	25.0	30.6	
206	シ511	Y507	A2	4	鋸	×	—	不明	16.5	29.0	24.8	
207	す980	Y581	A2	4	鋸	×	—	5	12.0	31.0	29.4	
208	す845	Y87	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.0	28.0	28.5	
209	す954	Y430	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	13.0	24.7	29.2	
210	才355	Y708	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.0	26.0	29.3	
211	う459	Y355	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	15.0	28.0	29.8	
212	う382	Y207	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	17.0	27.8	
213	う178	Y41	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	17.0	28.6	
214	シ501	Y495	A2	4	鋸	○	—	不明	27.5	18.0	28.6	
215	う402	Y211	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	16.0	29.0	
216	う191	Y54	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	17.0	28.4	
217	う200	Y454	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.5	25.3	29.9	
218	シ526	Y648	A2	4	鋸	×	—	5	21.0	21.5	29.2	
219	う421	Y230	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	21.5	28.9	
220	シ484	Y11	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	14.5	27.6	
221	シ599	Y299	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.0	14.5	29.2	
222	シ607	Y307	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.0	14.5	29.1	
223	う247	Y618	A2	4	鋸	×	—	5	28.1	16.0	29.1	
224	才310	Y527	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.2	15.2	29.8	
225	す877	Y115	A2	2	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.2	
226	す839	Y81	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	15.5	28.7	
227	す847	Y89	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.5	18.0	28.3	
228	才400	Y274	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.8	17.3	29.0	
229	う432	Y327	A2	4	鋸	×	—	5	24.5	17.2	32.7	
230	才350	Y702	A2	4	鋸	○	—	5	28.0	18.0	30.9	
231	う361	Y189	A2	4	鋸	×	—	5	29.0	16.0	28.8	
232	シ490	Y482	A2	4	鋸	○	—	5	25.0	17.0	28.9	
233	シ550	Y676	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	29.5	19.0	29.9	
234	う348	Y176	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	27.0	18.0	30.7	
235	シ566	Y26	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	16.0	28.6	
236	う181	Y44	A2	4	鋸	×	—	5	28.0	21.0	28.1	跳弾か
237	う229	Y565	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	27.5	19.7	29.2	
238	才395	Y269	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.4	16.4	29.4	
239	う333	Y161	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	17.5	27.5	
240	う334	Y162	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	14.5	28.8	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
241	す906	Y379	A2	2	鋸	×	—	5	26.0	17.6	26.0	
242	シ480	Y7	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	19.0	28.5	
243	シ578	Y38	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.0	17.0	29.4	
244	す881	Y119	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	24.0	16.0	28.8	
245	す921	Y394	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	17.0	28.8	
246	シ604	Y304	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	16.5	28.1	
247	オ353	Y706	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	24.8	17.6	29.7	
248	シ576	Y36	A2	4	鋸	×	—	不明	27.0	16.0	27.1	
249	オ307	Y524	A2	4	鋸	○	陶/灰	不明	23.0	18.5	28.1	
250	す853	Y95	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	15.0	27.4	
251	オ343	Y693	A2	4	鋸	○	—	5	23.4	18.3	29.2	
252	オ384	Y258	A2	4	鋸	○	—	5	19.6	20.5	28.6	
253	シ549	Y675	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	25.0	18.0	30.6	
254	シ499	Y493	A2	4	鋸	○	—	不明	28.5	19.2	28.5	
255	オ391	Y265	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	28.2	17.4	29.7	
256	う340	Y168	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	17.0	29.1	
257	う186	Y49	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	18.0	28.1	鉛の質が悪い
258	う321	Y149	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	20.0	28.3	
259	う304	Y132	A2	1	鋸	×	—	不明	25.0	20.0	24.9	
260	シ474	Y1	A2	4	丸	×	陶/茶	5	27.0	18.5	30.0	
261	シ582	Y282	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	28.5	17.0	30.1	
262	オ351	Y704	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	30.0	17.2	28.7	
263	シ575	Y35	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	17.0	27.7	鉛の質が悪い
264	シ572	Y32	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	18.0	27.6	鉛の質が悪い
265	す998	Y599	A2	4	鋸	×	—	不明	26.8	20.8	27.6	巻造り
266	オ311	Y528	A2	4	鋸	○	—	不明	22.0	20.5	29.5	
267	シ539	Y663	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	20.0	28.4	
268	シ618	Y318	A2	4	鋸	×	—	不明	26.0	21.0	27.3	
269	う360	Y188	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	22.0	29.0	
270	す958	Y434	A2	4	鋸	○	—	5	23.7	20.2	28.2	
271	う195	Y442	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	22.0	25.3	29.2	
272	シ542	Y667	A2	4	鋸	×	—	不明	28.0	22.0	29.7	
273	オ387	Y261	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	27.0	21.4	27.5	
274	う309	Y137	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	17.0	28.8	
275	う201	Y455	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	21.5	16.5	29.2	
276	オ336	Y684	A2	4	鋸	○	—	5	21.2	21.0	29.8	
277	シ506	Y502	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	19.0	22.5	29.2	
278	う420	Y229	A2	4	鋸	×	—	5	18.5	22.0	28.8	
279	う287	Y75	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	19.0	27.0	
280	う347	Y175	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	25.6	28.0	
281	す944	Y420	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	17.5	25.4	29.5	
282	オ380	Y254	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.5	19.0	30.9	
283	シ609	Y309	A2	4	鋸	×	—	5	20.0	17.5	28.3	
284	う322	Y150	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	20.0	28.4	
285	オ346	Y698	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	18.0	18.1	29.8	
286	オ363	Y718	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	21.0	20.6	30.7	椰の木D
287	す967	Y568	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	19.0	21.4	29.5	
288	す920	Y393	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	20.4	17.7	27.6	
289	シ583	Y283	A2	4	鋸	×	—	5	20.0	19.0	28.5	
290	シ495	Y489	A2	4	鋸	×	—	不明	19.5	20.0	24.5	
291	う422	Y231	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	16.0	24.5	29.3	
292	う185	Y48	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	16.0	20.0	27.0	
293	オ376	Y250	A2	4	鋸	×	—	5	22.0	18.0	27.7	
294	う216	Y471	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	19.9	17.5	22.0	
295	す871	Y109	A2	4	鋸	×	—	5	17.0	15.0	27.8	
296	オ373	Y247	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	10.0	24.8	28.1	
297	す918	Y391	A2	4	鋸	○	—	不明	20.2	22.3	27.7	
298	オ390	Y264	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	15.0	21.2	
299	シ489	Y481	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.0	28.0	29.4	
300	す911	Y384	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	15.8	27.5	
301	す919	Y392	A2	4	鋸	×	—	5	21.4	22.6	27.5	
302	う220	Y476	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	23.3	20.4	28.7	
303	う222	Y478	A2	4	鋸	×	—	不明	14.4	27.8	29.8	
304	す864	Y102	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.0	24.0	27.4	
305	う230	Y601	A2	4	鋸	○	—	不明	23.5	17.5	28.8	
306	う184	Y47	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	22.0	28.0	
307	オ316	Y534	A2	4	鋸	×	—	5	26.6	18.9	29.5	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
308	う419	Y228	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	20.0	29.0	
309	う457	Y352	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	31.0	17.4	27.6	
310	う325	Y153	A2	4	鋸	×	—	不明	26.0	20.0	28.6	
311	シ478	Y5	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	20.5	28.2	
312	シ537	Y659	A2	4	鋸	×	—	5	30.0	21.0	29.6	
313	オ334	Y682	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	28.0	21.2	30.2	
314	オ966	Y567	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.8	21.8	28.7	
315	う283	Y71	A2	4	鋸	×	—	不明	39.0	20.0	27.5	
316	シ608	Y308	A2	4	鋸	○	—	不明	30.5	18.0	29.5	
317	シ610	Y310	A2	4	鋸	○	—	5	44.0	25.5	29.1	
318	シ603	Y303	A2	4	鋸	×	—	5	49.5	21.0	28.1	
319	う343	Y171	A2	2	鋸	×	—	不明	31.0	23.0	23.4	平たく潰れている
320	う363	Y191	A2	4	鋸	○	—	5	27.0	19.0	27.4	鉛の質が悪い
321	オ337	Y685	A2	4	鋸	○	—	不明	31.5	20.0	30.9	
322	シ545	Y671	A2	4	鋸	○	—	不明	29.5	20.0	29.3	
323	シ593	Y293	A2	3	鋸	×	陶/茶	5	28.0	18.0	28.4	
324	う235	Y606	A2	4	鋸	×	—	不明	29.2	24.2	29.2	
325	う244	Y615	A2	4	鋸	×	—	不明	25.5	19.2	31.9	
326	シ475	Y2	A2	4	鋸	×	—	不明	29.5	24.5	29.5	平たく潰れている
327	う326	Y154	A2	4	鋸	○	—	不明	26.0	20.0	28.3	
328	う312	Y140	A2	4	鋸	×	—	5	29.0	20.0	28.4	
329	オ985	Y586	A2	4	鋸	○	—	5	25.4	19.3	29.0	
330	オ863	Y101	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.5	18.0	29.7	
331	オ321	Y541	A2	4	鋸	○	—	不明	30.4	19.0	29.5	
332	シ496	Y490	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	17.0	29.3	
333	オ885	Y239	A2	4	鋸	×	—	5	30.0	21.0	28.6	
334	オ990	Y591	A2	4	鋸	○	陶/灰	不明	28.5	20.5	29.7	新しい傷有
335	う298	Y126	A2	4	鋸	○	—	不明	27.0	18.0	28.9	
336	う267	Y55	A2	2	鋸	×	—	5	27.0	18.0	28.2	
337	オ903	Y376	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	29.8	16.5	29.7	鉛の質が悪い
338	オ884	Y238	A2	4	鋸	×	—	5	29.0	17.0	27.9	
339	オ315	Y533	A2	4	鋸	×	—	不明	26.4	22.5	30.7	
340	う275	Y63	A2	4	鋸	×	—	5	28.0	17.0	27.8	
341	オ841	Y83	A2	4	鋸	×	—	5	26.5	19.0	27.8	
342	う233	Y604	A2	4	鋸	×	—	不明	24.4	19.0	28.8	
343	オ342	Y692	A2	4	鋸	×	—	不明	25.0	21.1	28.5	
344	う202	Y456	A2	4	鋸	○	—	不明	26.5	18.2	24.6	巻造り
345	オ389	Y263	A2	4	鋸	○	—	5	23.7	17.4	29.0	
346	オ957	Y433	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	29.4	17.0	29.9	
347	オ931	Y404	A2	4	鋸	○	—	不明	26.6	15.5	29.1	
348	オ928	Y401	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	25.6	20.4	28.5	
349	う311	Y139	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	17.0	29.1	
350	オ968	Y569	A2	4	鋸	○	—	5	24.4	17.4	30.2	
351	う302	Y130	A2	3	鋸	×	—	不明	27.0	20.0	26.2	
352	オ897	Y365	A2	4	鋸	○	—	不明	24.8	21.3	29.3	
353	う291	Y79	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	20.0	27.5	
354	う324	Y152	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	19.0	28.9	
355	オ842	Y84	A2	4	鋸	×	—	不明	27.0	18.0	28.3	
356	オ964	Y440	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.2	19.8	28.5	
357	オ309	Y526	A2	4	鋸	×	—	5	24.8	21.6	29.7	
358	シ534	Y656	A2	4	鋸	○	—	不明	27.0	20.0	29.7	
359	う206	Y460	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	23.5	19.2	30.0	
360	オ935	Y409	A2	4	鋸	○	—	不明	23.8	16.7	29.3	
361	シ600	Y300	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	19.5	28.2	
362	オ383	Y257	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	23.4	19.0	29.5	
363	オ359	Y714	A2	4	鋸	×	—	5	24.6	16.9	32.9	椰の木A
364	オ887	Y233	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	18.5	28.2	
365	オ952	Y428	A2	4	鋸	×	—	不明	23.6	17.0	28.8	
366	オ849	Y91	A2	4	鋸	○	—	5	24.0	20.0	28.9	
367	う285	Y73	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	20.0	28.7	
368	オ348	Y700	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	20.5	30.4	
369	オ904	Y377	A2	4	鋸	○	—	5	26.6	22.0	28.2	
370	シ557	Y17	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	24.0	29.2	
371	う323	Y151	A2	4	鋸	○	—	5	22.0	20.0	28.9	
372	う226	Y562	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	26.2	24.8	29.2	
373	オ890	Y236	A2	4	鋸	○	—	不明	26.0	21.5	29.4	
374	オ883	Y237	A2	4	鋸	○	—	不明	31.5	21.5	27.8	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
375	シ601	Y301	A2	4	鋸	○	—	5	30.0	20.5	28.2	
376	シ494	Y488	A2	4	鋸	○	—	不明	30.5	21.0	28.3	平たく潰れている
377	す934	Y408	A2	4	鋸	○	—	不明	25.4	22.2	29.1	細い突線が圏溝を巡る
378	シ524	Y645	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.0	26.0	30.5	
379	シ562	Y22	A2	4	鋸	○	—	不明	29.0	24.5	28.7	平たく潰れている
380	オ338	Y687	A2	4	鋸	×	—	不明	29.6	21.8	29.7	
381	う253	Y624	A2	4	鋸	×	—	5	23.8	20.5	31.0	
382	う418	Y227	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	24.5	27.7	
383	オ386	Y260	A2	4	鋸	×	—	5	23.5	19.2	28.3	
384	う280	Y68	A2	4	鋸	×	—	不明	23.0	29.0	19.3	
385	シ580	Y40	A2	4	鋸	×	—	5	18.0	26.0	28.7	
386	シ585	Y285	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.0	25.5	29.0	
387	う252	Y623	A2	4	鋸	×	—	不明	20.6	24.6	29.8	
388	す874	Y112	A2	4	鋸	×	—	5	31.0	21.0	25.0	
389	う404	Y213	A2	4	鋸	×	—	不明	29.0	27.0	28.6	
390	オ319	Y538	A2	2	鋸	×	—	不明	28.5	19.2	28.7	
391	す866	Y104	A2	2	鋸	×	—	不明	25.0	18.0	27.1	
392	う412	Y221	A2	4	鋸	×	—	5	30.0	20.0	28.0	
393	オ340	Y690	A2	4	鋸	×	—	不明	26.8	20.0	25.2	
394	う306	Y134	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	21.0	27.7	
395	う276	Y64	A2	4	鋸	×	—	不明	21.0	26.0	28.2	
396	す925	Y398	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	20.8	25.0	26.9	
397	う217	Y472	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	21.6	17.1	29.1	
398	う248	Y619	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	21.6	19.4	25.2	
399	シ616	Y316	A2	4	鋸	○	—	5	21.0	20.0	28.9	
400	う305	Y133	A2	4	鋸	×	—	不明	22.0	24.0	27.2	鉛の質が悪い, 新しい傷有
401	う264	Y636	A2	4	鋸	○	—	5	20.9	21.2	24.5	
402	う263	Y635	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	26.5	12.4	7.8	
403	オ354	Y707	A2	4	鋸	○	—	不明	26.3	23.8	29.4	
404	す938	Y414	A2	2	鋸	×	—	不明	21.4	22.0	27.9	
405	シ548	Y674	A2	4	鋸	×	—	不明	18.5	24.0	30.2	
406	う466	Y447	A2	4	鋸	○	—	5	29.8	23.4	29.7	
407	う445	Y340	A2	3	鋸	○	—	5	25.3	19.6	27.9	
408	う440	Y335	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	23.5	29.4	29.3	
409	う427	Y322	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	26.2	33.2	22.4	
410	う433	Y328	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	33.2	23.7	28.3	
411	シ503	Y497	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	19.5	21.0	30.0	
412	シ547	Y673	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	12.5	35.5	30.1	
413	う308	Y136	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	18.0	24.0	27.7	
414	オ328	Y550	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	19.0	23.4	28.0	
415	う341	Y169	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	16.0	23.0	25.8	
416	う443	Y338	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	14.3	28.3	28.0	
417	シ630	Y689	A2	3	鋸	×	陶/茶	不明	9.6	35.4	28.6	
418	う438	Y333	A2	4	鋸	×	—	不明	13.5	36.2	30.3	
419	シ514	Y510	A2	4	鋸	×	—	不明	15.0	35.0	25.8	
420	う426	Y321	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	21.8	36.0	27.4	
421	シ626	Y558	A2	4	鋸	○	—	5	16.0	24.5	29.1	
422	オ381	Y255	A2	4	鋸	×	—	5	11.4	28.8	30.5	
423	オ360	Y715	A2	4	鋸	×	—	不明	11.5	17.6	29.8	椰の木B
424	オ306	Y523	A2	4	鋸	×	—	5	26.6	25.0	27.4	石塔に当たった
425	う454	Y349	A2	4	鋸	○	—	不明	8.7	27.5	15.7	
426	オ357	Y712	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	16.4	24.0	27.5	
427	シ620	Y320	A2	3	鋸	×	陶/茶	不明	8.5	23.0	23.4	
428	オ379	Y253	A2	4	鋸	×	—	不明	0.9	27.0	23.7	
429	う258	Y629	A2	4	鋸	×	—	不明	16.0	31.3	27.8	
430	う254	Y625	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	14.2	30.5	29.6	
431	オ378	Y252	A2	4	鋸	×	—	不明	22.0	36.8	29.0	
432	う310	Y138	A2	4	鋸	○	—	不明	16.0	23.0	28.0	
433	す875	Y113	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	31.0	29.1	
434	す902	Y375	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	13.4	30.0	28.3	鉛の質が悪い
435	う478	Y515	A2	4	鋸	×	—	5	13.1	33.2	27.3	
436	オ339	Y688	A2	4	鋸	×	—	不明	10.5	29.1	30.2	
437	オ362	Y717	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	10.5	33.2	30.1	椰の木C-2
438	す927	Y400	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	13.0	27.6	28.2	
439	シ635	Y711	A2	4	鋸	×	—	5	18.4	21.4	29.8	
440	す991	Y592	A2	4	鋸	○	—	不明	8.6	28.9	26.4	刀傷か
441	オ317	Y535	A2	4	鋸	×	—	不明	11.4	30.0	27.7	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
442	う255	Y626	A2	4	鋸	○	—	5	13.6	25.2	26.7	
443	す926	Y399	A2	4	鋸	×	—	5	13.6	27.0	27.9	
444	オ394	Y268	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	17.0	28.4	
445	オ370	Y244	A2	4	鋸	×	—	不明	11.9	28.4	28.2	
446	す886	Y240	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.0	19.5	30.6	陶栓外れる
447	う473	Y485	A2	4	鋸	○	木	不明	18.0	18.3	28.4	
448	オ333	Y681	A2	4	鋸	×	—	不明	17.3	24.2	29.9	A1か?, 貫通
449	オ314	Y531	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	18.6	25.3	26.6	
450	オ361	Y716	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	11.5	29.2	30.4	椰の木C-1
451	シ617	Y317	A2	4	鋸	○	—	不明	14.0	42.0	22.8	圏溝の刻目がはっきり見える
452	う428	Y323	A2	4	鋸	○	—	5	20.5	47.2	26.8	
453	シ622	Y540	A2	4	鋸	×	—	不明	26.5	34.0	16.6	巻造り
454	う474	Y499	A2	4	鋸	×	—	不明	15.0	38.1	19.1	
455	シ596	Y296	A2	4	鋸	×	—	不明	13.0	24.0	15.7	
456	う483	Y646	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	15.5	32.1	20.4	
457	う243	Y614	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	22.4	29.4	33.6	円台孔に他片が押し込まれている
458	シ632	Y696	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	10.5	27.4	27.6	
459	す869	Y107	A2	4	鋸	×	—	5	31.0	26.5	26.5	
460	オ323	Y544	A2	2	鋸	×	—	不明	34.4	16.2	24.3	
461	オ368	Y242	A2	4	鋸	○	—	5	36.4	25.2	21.8	
462	う284	Y72	A2	4	鋸	○	木	5	14.0	41.0	27.6	
463	す972	Y573	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	12.0	36.0	29.4	
464	シ581	Y281	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	31.0	27.5	28.2	
465	う224	Y480	A2	4	鋸	○	—	不明	16.5	44.0	16.7	
466	シ520	Y641	A2	4	鋸	×	—	5	12.8	31.5	22.7	
467	シ590	Y290	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	11.0	44.0	27.7	
468	う237	Y608	A2	4	鋸	×	—	不明	19.0	43.5	28.9	
469	シ515	Y512	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	20.5	39.0	25.7	
470	う238	Y609	A2	4	鋸	×	—	不明	13.5	38.2	27.7	
471	シ493	Y487	A2	4	鋸	○	—	不明	21.5	48.0	25.9	
472	シ530	Y652	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	14.5	30.0	17.6	半分に切れている
473	オ397	Y271	A2	4	鋸	○	—	不明	8.0	32.0	16.0	
474	オ367	Y241	A2	3	鋸	×	陶/茶	不明	14.0	28.1	26.5	
475	う232	Y603	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	19.3	28.0	29.4	
476	オ375	Y249	A2	1	鋸	×	—	不明	8.3	22.4	10.9	
477	シ527	Y649	A2	4	鋸	×	—	不明	15.0	23.0	17.1	
478	う204	Y458	A2	4	鋸	○	—	不明	20.7	22.5	26.6	
479	シ544	Y669	A2	4	鋸	×	—	不明	15.0	25.0	11.3	
480	シ498	Y492	A2	4	鋸	×	—	不明	16.0	36.0	21.4	Y491と同一個体かも?
481	シ512	Y508	A2	4	鋸	×	—	不明	16.0	22.5	7.9	小片
482	う205	Y459	A2	2	鋸	×	陶/茶	不明	10.8	19.2	8.6	
483	う282	Y70	A2	4	鋸	×	—	不明	27.0	26.0	27.2	
484	オ313	Y530	A2	4	鋸	×	—	不明	20.6	17.4	26.0	
485	シ541	Y666	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	27.5	28.0	29.6	
486	す956	Y432	A2	3	鋸	×	—	不明	29.0	23.2	26.9	
487	う299	Y127	A2	2	鋸	×	—	不明	24.0	19.0	26.1	
488	シ540	Y664	A2	4	鋸	×	—	不明	28.0	17.2	28.4	
489	う425	Y445	A2	4	鋸	×	—	不明	28.2	18.7	29.1	
490	す993	Y594	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	18.8	21.4	11.8	
491	う196	Y443	A2	3	鋸	×	—	不明	16.7	19.9	29.3	
492	う368	Y196	A2	4	鋸	○	—	5	19.0	19.0	26.5	
493	シ513	Y509	A2	2	鋸	×	—	不明	21.5	26.0	23.5	
494	シ592	Y292	A2	4	鋸	×	—	5	20.5	17.5	23.7	
495	オ329	Y552	A2	—	鋸	×	—	不明	12.7	24.2	27.9	刀傷か
496	う439	Y334	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.7	15.3	29.1	
497	オ377	Y251	B	4	鋸	○	—	5	27.9	14.0	28.9	
498	シ500	Y494	B	4	鋸	○	—	5	27.5	14.5	29.8	
499	す873	Y111	B	4	鋸	×	—	5	26.0	15.0	29.2	
500	す978	Y579	B	4	鋸	○	陶/茶	5	28.0	14.0	30.3	
501	う409	Y218	B	4	鋸	×	—	5	27.0	16.0	28.1	
502	う441	Y336	B	4	鋸	○	—	5	25.0	18.1	30.1	
503	す942	Y418	B	4	鋸	○	—	不明	26.3	14.4	29.7	貫通した穴有(故意に開けた?)
504	う189	Y52	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.0	28.6	
505	す948	Y424	B	4	鋸	×	陶/灰	5	28.2	15.0	29.7	
506	う452	Y347	B	4	鋸	×	陶/茶	5	28.3	15.0	30.2	
507	う407	Y216	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	29.2	
508	う447	Y342	B	4	鋸	×	陶/茶	5	24.8	14.8	30.2	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
509	う372	Y200	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	15.0	29.5	
510	う269	Y57	B	4	鋸	×	—	5	25.0	14.0	29.6	
511	う332	Y160	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.5	27.7	
512	う296	Y124	B	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	15.0	27.5	
513	う318	Y146	B	4	鋸	○	—	5	26.0	14.5	28.6	
514	オ305	Y522	B	2	鋸	×	—	5	26.7	14.6	28.4	
515	シ568	Y28	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.0	28.8	
516	す951	Y427	B	2	鋸	×	陶/茶	不明	29.0	14.0	29.2	
517	う416	Y225	B	4	鋸	×	—	5	27.0	14.0	28.3	
518	シ584	Y284	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	14.5	30.0	
519	す930	Y403	B	4	鋸	×	—	5	24.3	15.2	27.6	
520	す854	Y96	B	4	鋸	×	陶/茶	5	24.5	15.0	28.7	
521	う286	Y74	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	29.9	
522	シ556	Y16	B	4	鋸	×	—	5	24.5	14.5	28.8	
523	う364	Y192	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	20.0	29.4	
524	う319	Y147	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.5	29.9	
525	オ325	Y547	B	4	鋸	×	陶/茶	5	22.6	17.3	29.1	
526	オ401	Y275	B	4	鋸	×	—	5	22.4	14.8	29.1	
527	シ516	Y514	B	4	鋸	×	—	5	24.0	16.5	28.7	
528	す878	Y116	B	4	鋸	×	—	5	16.5	21.5	29.0	
529	シ504	Y498	B	4	鋸	×	陶/茶	5	14.0	24.0	30.2	
530	う215	Y470	B	4	鋸	○	—	不明	22.4	19.6	29.9	
531	す872	Y110	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	28.5	鉛の質が悪い
532	う339	Y167	B	4	鋸	○	—	5	24.0	15.0	28.9	貫通
533	う329	Y157	B	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	20.0	28.3	貫通
534	う225	Y561	B	4	鋸	×	—	不明	15.5	26.4	33.9	
535	う331	Y159	B	4	鋸	×	—	5	17.0	23.0	28.6	
536	シ533	Y655	B	4	鋸	×	—	5	13.8	27.0	30.4	
537	シ559	Y19	B	4	鋸	×	—	不明	20.5	20.0	29.1	
538	す848	Y90	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	16.0	28.8	鋳型造横溝バリ有
539	う375	Y203	B	4	鋸	×	木	5	27.5	16.0	29.0	
540	シ483	Y10	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	15.0	28.8	
541	う458	Y354	B	4	鋸	×	木	不明	26.5	20.6	28.7	
542	シ574	Y34	B	4	鋸	×	—	不明	28.0	17.0	30.8	
543	シ597	Y297	B	4	鋸	×	—	不明	25.0	19.5	30.0	おしりから着弾
544	オ364	Y719	B	4	鋸	×	—	不明	25.6	18.5	31.1	杉の木No.1
545	オ385	Y259	B	4	鋸	×	—	5	25.5	18.0	28.8	
546	う278	Y66	B	2	鋸	×	—	不明	24.5	17.0	28.0	
547	オ404	Y278	B	4	鋸	×	木	不明	28.4	17.7	29.1	木栓細片
548	シ589	Y289	B	4	鋸	×	—	5	26.0	17.0	29.8	
549	う197	Y451	B	4	鋸	○	—	5	22.5	17.8	29.7	
550	う199	Y453	B	4	鋸	×	—	不明	24.0	16.7	29.3	
551	す912	Y385	B	4	鋸	×	木	5	27.4	18.5	28.6	木栓外れる
552	す962	Y438	B	4	鋸	×	木	不明	23.0	20.0	29.0	
553	シ553	Y680	B	4	鋸	×	木	5	18.5	21.5	29.4	木栓細片
554	す950	Y426	B	4	鋸	×	陶/茶	5	17.2	21.3	28.5	
555	す922	Y395	B	4	鋸	×	木	5	17.8	19.5	29.4	木栓外れる
556	シ591	Y291	B	4	鋸	×	陶/茶	5	17.5	22.0	29.8	
557	オ347	Y699	B	4	鋸	×	—	不明	22.0	23.5	28.5	
558	う227	Y563	B	4	鋸	○	—	不明	29.1	21.6	28.8	
559	う209	Y463	B	4	鋸	×	—	不明	27.3	20.8	28.9	
560	す923	Y396	B	4	鋸	×	—	不明	27.0	18.0	28.1	
561	う371	Y199	B	4	鋸	×	—	不明	32.0	24.5	28.4	
562	す994	Y595	B	4	鋸	○	—	5	28.5	19.2	30.1	
563	う207	Y461	B	4	鋸	×	—	不明	30.7	20.4	28.9	
564	す901	Y374	B	4	鋸	○	陶/茶	5	24.5	21.3	30.9	床下, 鉛の質が悪い
565	う359	Y187	B	4	鋸	×	—	5	26.0	19.0	29.6	
566	す914	Y387	B	4	鋸	×	—	5	27.5	23.0	28.4	
567	す913	Y386	B	3	鋸	×	—	5	28.0	20.6	27.4	
568	う300	Y128	B	4	鋸	×	—	不明	29.0	28.0	27.8	
569	す959	Y435	B	4	鋸	○	—	不明	27.7	18.0	11.9	巻造り, 半分平たく潰れている
570	シ554	Y14	B	4	鋸	○	陶/茶	不明	29.0	23.5	28.7	平たく潰れている
571	す946	Y422	B	4	鋸	×	—	不明	23.5	27.2	26.9	
572	う271	Y59	B	4	鋸	×	—	5	20.0	23.0	28.3	
573	す932	Y405	B	4	鋸	○	陶/茶	不明	26.5	42.7	25.9	
574	う435	Y330	B	4	鋸	×	—	不明	34.7	26.5	26.3	平たく潰れている

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
575	う456	Y351	B	4	鋸	×	陶/茶	不明	35.8	25.4	26.5	平たく潰れている
576	う442	Y337	B	4	鋸	○	—	不明	30.5	30.4	15.9	平たく潰れている
577	う468	Y449	B	4	鋸	×	—	不明	20.3	22.7	13.0	
578	う476	Y511	B	4	鋸	×	—	不明	25.2	25.0	29.3	
579	う451	Y346	B	1	鋸	—	—	不明	28.7	16.0	26.8	新しい傷有
580	う289	Y77	B	4	鋸	×	—	不明	12.0	30.0	29.0	平たく潰れている
581	シ598	Y298	B	4	鋸	×	—	不明	14.5	29.0	26.6	
582	す992	Y593	B	3	鋸	×	—	不明	9.7	28.8	25.9	
583	す975	Y576	B	4	鋸	○	—	不明	21.7	19.0	27.1	
584	す976	Y577	B	4	鋸	○	陶/茶	不明	14.4	24.7	13.2	
585	う259	Y630	B	4	鋸	×	—	不明	11.2	22.4	9.2	
586	す905	Y378	B	4	鋸	×	—	不明	17.6	25.7	12.3	
587	う228	Y564	A/B	4	鋸	○	—	不明	31.2	28.5	25.7	
588	う194	Y441	A/B	3	鋸	×	—	不明	25.4	19.6	20.2	
589	う273	Y61	A/B	2	—	—	—	不明	27.0	26.0	30.5	平たく潰れている
590	す910	Y383	A/B	2	鋸	×	—	不明	22.0	19.0	29.9	
591	す960	Y436	A/B	2	鋸	×	—	不明	30.5	23.0	28.6	
592	す900	Y373	A1/2	4	鋸	○	陶/茶	不明	20.0	27.0	27.7	床下, 木を噛んでいる
593	す969	Y570	A1/2	4	鋸	×	—	不明	17.5	29.5	10.4	
594	う330	Y158	A1/2	4	鋸	○	陶/茶	5	24.0	23.0	29.3	
595	う297	Y125	A1/2	4	鋸	×	陶/茶	不明	16.0	28.0	26.4	平たく潰れている
596	う301	Y129	A1/2	4	鋸	×	—	不明	13.0	23.0	27.6	
597	う295	Y123	A1/2	4	鋸	○	—	不明	16.0	30.0	27.5	平たく潰れている
598	う462	Y358	A1/2	4	鋸	×	—	不明	12.8	49.8	20.7	鉛の質が悪い
599	う484	Y660	A1/2	4	鋸	×	—	不明	12.8	39.4	20.3	
600	う453	Y348	A1/2	3	鋸	×	—	不明	22.5	30.0	12.9	
601	す898	Y370	A1/2	3	—	×	—	不明	21.0	24.6	10.6	床下, 小片
602	シ612	Y312	小片	4	—	—	—	不明	16.0	24.2	6.5	
603	う449	Y344	小片	4	—	—	—	不明	18.2	31.2	9.0	
604	シ529	Y651	小片	—	—	—	—	不明	11.5	25.0	3.9	
605	う431	Y326	小片	4	—	—	—	不明	21.6	20.0	8.3	
606	シ587	Y287	小片	4	—	—	—	不明	26.5	21.0	6.9	
607	す896	Y364	小片	2	—	—	—	不明	21.4	16.4	5.5	
608	オ405	Y279	小片	4	—	—	—	不明	33.2	11.5	13.3	
609	う414	Y223	小片	4	—	—	—	不明	21.0	26.0	11.6	
610	シ614	Y314	小片	2	—	—	—	不明	19.5	21.4	11.6	
611	オ372	Y246	小片	4	—	—	—	不明	16.8	23.0	7.2	
612	う190	Y53	小片	4	—	—	—	不明	22.0	13.0	7.8	
613	す961	Y437	小片	1	—	—	—	不明	18.0	20.3	5.8	
614	シ523	Y644	小片	—	—	—	—	不明	21.0	14.5	9.4	
615	う214	Y469	小片	4	—	—	—	不明	20.4	11.0	3.7	
616	シ595	Y295	小片	4	—	—	—	不明	15.0	24.0	10.7	
617	う223	Y479	小片	4	—	—	—	不明	17.6	18.0	4.9	
618	オ345	Y697	小片	4	—	—	—	不明	12.2	18.9	2.5	
619	う260	Y631	小片	2	—	—	—	不明	12.4	21.3	4.0	
620	シ521	Y642	小片	4	—	—	—	不明	11.0	20.0	7.1	
621	う352	Y180	小片	4	—	—	—	不明	12.0	17.0	8.6	
622	す939	Y415	小片	1	—	—	—	不明	15.0	13.5	4.0	
623	う413	Y222	小片	2	—	—	—	不明	19.0	14.0	4.6	
624	う464	Y360	小片	3	—	—	—	不明	14.2	9.3	2.6	
625	す857	Y99	小片	1	—	—	—	不明	7.0	16.0	4.4	刀傷か
626	う463	Y359	小片	4	—	—	—	不明	9.2	24.5	7.5	
627	う370	Y198	小片	4	—	—	—	不明	15.0	16.5	7.9	
628	す988	Y589	小片	4	—	—	—	不明	6.0	24.0	5.9	刀傷か
629	す937	Y412	小片	1	—	—	—	不明	12.6	19.0	5.2	
630	オ330	Y553	小片	4	—	○	—	不明	22.0	30.6	13.3	
631	シ518	Y517	小片	3	—	—	—	不明	16.5	22.0	3.9	
632	シ519	Y520	小片	2	—	—	—	不明	14.0	22.0	7.7	
633	オ331	Y555	小片	—	—	—	—	不明	8.2	15.7	5.8	
634	シ497	Y491	小片	4	—	—	—	不明	10.5	20.5	5.7	Y492と同一個体かも?
635	シ507	Y503	小片	1	—	—	—	不明	11.5	23.5	5.4	
636	オ332	Y556	小片	—	—	—	—	不明	8.0	16.2	2.0	
637	オ318	Y536	小片	2	—	—	—	不明	12.4	12.6	2.2	
638	オ304	Y521	小片	4	—	—	—	不明	16.6	16.0	3.9	
643	シ594	Y294	A2	4	鋸	×	—	不明	25.0	26.0	28.4	巻造り
644	シ634	Y710	A2	4	鋸	×	—	不明	30.0	18.0	13.5	巻造り, 半分に割れて内部が見える

エンフィールド銃弾 (第 54 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	栓材 / 色	腔綫条	計測値(mm/g)			備考
						全長	最大径	重さ	
645	う182	Y45	a1	—	不明	20.0	14.6	25.2	キャスト弾
646	う245	Y616	a1	—	不明	25.4	15.0	34.7	
647	う481	Y634	a1	—	不明	25.0	14.3	31.4	キャスト弾
648	す973	Y574	a1	—	不明	22.6	18.6	27.3	キャスト弾、ウィルソン銃に使用のため短い
649	す996	Y597	a1	—	不明	16.7	19.4	31.1	キャスト弾
650	う488	Y679	a2	—	不明	29.0	14.5	32.1	キャスト弾、鋳造造縦溝バリ有
651	う460	Y356	a2	—	不明	22.9	15.0	25.8	キャスト弾
652	す984	Y585	a2	—	不明	24.8	17.4	33.1	キャスト弾、中高タイプ(鉛不足)
653	う251	Y622	a2	—	3	26.4	20.4	31.3	キャスト弾
654	う250	Y621	a2	—	不明	25.1	15.4	32.0	キャスト弾、刻印有⊖
655	す909	Y382	a2	—	不明	24.0	15.0	32.0	キャスト弾、刻印有⊖
656	シ624	Y551	a2	—	不明	16.0	17.5	20.5	キャスト弾、発砲時変形度4、中高タイプ(鉛不足)
657	う241	Y612	a2	—	不明	18.2	16.5	19.1	キャスト弾、発砲時変形度4、中高タイプ(鉛不足)
658	う272	Y60	b1	木	3	26.0	14.5	33.6	木栓外れる
659	す949	Y425	b1	—	5	24.8	14.3	30.4	重要 未使用弾頭か?、取りこぼしかも?、薩摩軍の物か?
660	う405	Y214	b1	陶/灰	5	28.0	14.5	29.9	
661	シ492	Y486	b1	木	不明	28.0	14.0	34.6	重要 未使用弾頭の可能性、取りこぼしかも?、木栓外れる
662	う257	Y628	b1	—	3	26.1	15.2	34.7	
663	す844	Y86	b1	—	不明	27.0	15.5	25.3	
664	シ627	Y559	b1	—	3	26.5	14.0	30.7	
665	す983	Y584	b1	木	不明	23.3	16.2	33.7	木栓外れる
666	オ327	Y549	b1	—	不明	26.3	20.0	31.8	
667	シ623	Y542	b1	—	不明	31.0	18.0	35.1	
668	す982	Y583	b1	—	不明	27.2	18.1	29.1	
669	シ629	Y686	b1	—	不明	30.0	17.6	33.7	
670	す977	Y578	b1	—	不明	35.0	21.6	32.7	平たく潰れている
671	う470	Y467	b1	—	不明	30.8	20.5	31.9	
672	う455	Y350	b1	—	5	28.3	14.7	33.1	刻印有⊕
673	う461	Y357	b1	—	不明	25.1	15.6	32.6	
674	う277	Y65	b1	木	不明	31.0	20.0	30.1	木栓外れる
675	す947	Y423	b1	—	不明	14.0	28.0	29.1	石灯籠に当たったか?
676	す850	Y92	b1	木	不明	17.0	20.5	30.8	刻印有⊙、木栓外れる
677	シ619	Y319	b1	—	不明	11.0	20.0	21.7	
678	す943	Y419	b1	—	5	15.0	24.0	27.3	
679	す929	Y402	c	—	不明	24.3	21.2	31.8	
680	う183	Y46	c	—	不明	28.0	19.0	32.4	
681	う210	Y464	c	—	不明	26.3	17.9	14.2	
682	う198	Y452	c	—	不明	29.8	35.0	32.1	
683	オ365	Y720	c	—	不明	15.1	21.8	33.7	杉の木No.2
684	す999	Y600	c	陶/灰	不明	16.5	16.0	8.6	
685	す987	Y588	c	—	不明	20.0	18.6	19.2	刀傷か

その他の銃弾・不明小片・欠番 (第 54 図)

挿図 No.	実測 No.	種類	取上 No.	圈溝		腔綫条	計測値(mm/g)			備考
				数	形		全長	最大径	重さ	
686	シ631	スペンサー銃弾	Y694	2	—	不明	23.2	13.8	22.4	52口径の弾を50口径の銃で撃ったもの
687	う369	スペンサー銃弾	Y197	2	—	6	19.5	13.0	20.7	52口径
688	シ621	ウェストリリチャース銃弾	Y537	2	—	不明	24.0	13.5	20.7	
689	う265	ウェストリリチャース銃弾	Y637	—	—	不明	24.4	13.3	20.9	
690	す981	ウェストリリチャース銃弾	Y582	2	—	不明	23.2	12.0	20.6	小口径
691	う212	不明小片	Y466	—	—	不明	28.2	19.0	12.0	
692	オ369	不明小片	Y243	—	—	不明	25.2	5.4	4.2	
693	す867	不明小片	Y105	—	—	不明	12.0	19.0	9.0	
694	う303	不明小片	Y131	—	—	不明	14.0	15.0	2.9	
695	オ358	不明小片	Y713	—	—	不明	6.0	15.0	2.2	刀傷か
696	う236	不明小片	Y607	—	—	不明	6.6	15.6	2.5	
697	す995	不明小片	Y596	—	—	不明	12.9	20.9	3.2	
698	う266	不明小片	Y640	—	—	不明	10.8	8.5	2.0	
699	シ625	不明小片	Y557	—	—	不明	8.4	14.5	2.4	
700	す997	不明小片	Y598	—	—	不明	9.4	9.5	1.4	
701	シ522	不明小片	Y643	—	—	不明	7.5	11.0	1.3	
702	シ588	不明小片	Y288	—	—	不明	15.0	18.5	4.4	
703	シ573	不明小片	Y33	—	—	不明	12.0	17.5	5.6	
704	う342	不明小片	Y170	—	—	不明	10.0	17.0	3.2	

挿図 No.	実測 No.	種類	取上 No.	圏溝		腔綫 条	計測値(mm/g)			備考	
				数	形		全長	最大径	重さ		
705	す941	不明小片	Y417	—	—	不明	10.0	14.0	2.5		
706	う320	不明小片	Y148	—	—	不明	11.0	11.0	1.3		
707	す899	不明小片	Y371	—	—	不明	11.3	13.2	1.3		
708	す895	不明小片	Y363	—	—	不明	11.7	10.0	1.9		
709	す953	不明小片	Y429	—	—	不明	8.4	13.0	1.9		
710	す894	不明小片	Y362	—	—	不明	6.9	12.8	1.8		
	欠番	—	Y406	未使用弾P5へ変更							
	欠番	—	Y532	未使用弾P6へ変更							
	欠番	—	Y545	未使用弾P7へ変更							
	欠番	—	Y554	未使用弾P8へ変更							
	欠番	—	Y353	その他G19へ変更							
	欠番	—	Y361	その他G20へ変更							
	欠番	—	Y366	その他G21へ変更							
	欠番	—	Y367	その他G22へ変更							
	欠番	—	Y368	その他G23へ変更							
	欠番	—	Y369	その他G24へ変更							
	欠番	—	Y372	その他G25へ変更							
	欠番	—	Y411	その他G27へ変更							
	欠番	—	Y413	その他G28へ変更							
	欠番	—	Y639	その他G29へ変更							

小銃弾の栓 (第53図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	栓 材/色	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	栓 材/色	計測値(mm/g)			備考
				縦	横	重さ						縦	横	重さ	
639	オ410	PK4	陶/茶	6.2	10.4	0.8		641	オ407	PK1	木	6.8	10.4	0.3	
640	オ409	PK3	陶/茶	6.8	11.2	0.8		642	オ408	PK2	陶/茶	7.4	10.2	0.5	

砲弾 (第55図～第57図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考
				縦	横	重さ						縦	横	重さ	
1	さ457	BL13	白砲弾	95.0	60.0	47.0	13'イム	37	さ453	BL18	底部	81.0	45.0	175.5	
2	う193	BL61	デマレー信管	32.0	30.0	96.5		38	さ463	BL51	底部	70.0	44.5	142.5	
3	オ303	BL26	上部～胴部	152.0	45.0	462.5		39	さ452	BL7	底部	68.0	41.5	149.0	
4	す786	BL45	上部	93.0	73.0	465.0		40	さ462	BL43	底部	70.0	40.5	109.0	
5	さ451	BL16	上部	58.0	53.0	242.5		41	さ454	BL19	底部	73.0	46.0	136.0	
6	さ565	BL15	上部	33.5	28.5	36.1		42	さ576	BL54	細片	29.0	14.0	12.7	
7	さ560	BL1	上部	26.0	21.0	17.3		43	さ561	BL2	底部	53.0	40.0	94.8	
8	さ580	BL58	上部	47.0	42.0	91.3									
9	さ450	BL3	上部	58.0	40.0	173.0		44	さ583	BL63	底部	45.0	40.0	78.0	杉の木の 繊維付着, 杉の木No.3
10	さ458	BL33	上部	55.0	41.0	139.5									
11	さ563	BL12	上部	45.0	15.0	33.7		45	さ464	BL4	筈翼	19.0	18.0	94.4	
12	さ574	BL44	胴部	46.0	33.0	90.6		46	さ466	BL23	筈翼	19.0	18.0	9.9	
13	さ562	BL8	胴部	47.0	26.0	66.3		47	さ472	BL50	筈翼	19.0	18.5	10.8	
14	さ575	BL53	胴部	45.0	21.0	46.4		48	さ471	BL46	筈翼	18.5	18.0	10.0	
15	さ567	BL30	細片	22.0	11.5	12.3		49	さ470	BL32	筈翼	20.0	17.5	9.0	
16	さ582	BL60	細片	34.0	12.0	21.9		50	さ467	BL27	筈翼	19.4	18.4	10.2	
17	さ459	BL34	胴部	71.0	52.0	285.0		51	さ468	BL28	筈翼	20.8	20.0	11.0	
18	す785	BL42	胴部	97.0	57.0	382.0		52	さ469	BL29	筈翼	18.5	17.5	8.3	
19	シ487	BL22	胴部	51.0	46.0	111.0		53	さ465	BL5	筈翼	21.0	17.0	8.0	
20	シ488	BL52	胴部	56.0	40.0	116.0		54	さ578	BL56	筈翼	16.0	7.0	3.0	
21	さ461	BL41	胴部	51.0	34.0	65.3		55	さ474	BL6	霰弾子	13.2	12.8	12.3	
22	さ455	BL20	胴部	55.0	42.0	136.0		56	さ477	BL48	霰弾子	12.4	11.8	9.1	
23	さ456	BL21	胴部	68.0	41.0	160.5		57	さ476	BL40	霰弾子	13.0	9.8	6.7	
24	さ579	BL57	細片	24.0	18.0	14.9		58	さ475	BL11	霰弾子	13.1	12.0	10.5	
25	さ566	BL17	細片	26.0	15.0	6.7		59	さ478	BL62	霰弾子	14.0	7.2	5.3	鉛不足
26	さ577	BL55	細片	32.0	26.0	36.9		60	さ603	BL25-19	デマレー信管	32.0	30.0	93.8	
27	さ460	BL24	胴部	66.0	45.0	207.5		61	さ584	BL25-1	上部	70.0	50.0	266.0	
28	さ568	BL31	胴部	46.5	25.0	52.1		62	さ584	BL25-2	上部	75.0	60.0	353.0	
29	さ581	BL59	細片	37.0	15.6	25.6		63	さ585	BL25-3	上部	75.0	70.0	502.0	
30	さ564	BL14	胴部	51.0	26.0	83.5		64	さ587	BL25-4	胴部	72.0	40.0	236.5	
31	さ570	BL36	細片	32.0	21.0	15.6		65	さ588	BL25-5	胴部	59.0	30.0	117.5	
32	さ572	BL38	細片	29.5	24.2	6.7		66	さ589	BL25-6	胴部	60.0	35.0	132.0	
33	さ573	BL39	細片	24.0	20.0	9.1		67	さ590	BL25-7	胴部	52.5	26.5	98.2	
34	さ571	BL37	細片	24.0	12.0	4.9		68	さ600	BL25-20	筈翼	19.6	18.5	10.7	
35	さ569	BL35	細片	20.5	11.5	3.2		69	さ591	BL25-8	胴部	63.0	54.0	240.5	
36	う192	BL9	底部	86.5	85.5	470.0	底部完存	70	さ592	BL25-9	胴部	50.0	42.0	141.0	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考
				縦	横	重さ						縦	横	重さ	
71	さ593	BL25-10	胴部	35.0	33.0	82.7		76	さ598	BL25-15	胴部	55.0	51.0	208.0	
72	さ594	BL25-11	胴部	52.0	41.0	144.5		77	さ599	BL25-16	胴部	48.0	41.0	121.0	
73	さ595	BL25-12	胴部	44.0	36.0	108.0		78	さ602	BL25-17	底部	60.0	41.0	112.5	
74	さ596	BL25-13	胴部	33.5	12.5	22.2		79	さ601	BL25-18	底部	52.5	42.5	87.0	
75	さ597	BL25-14	胴部	42.0	25.5	58.6			欠番	BL10	その他G30へ変更				

弾薬箱ネジ (第58図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ ※g	備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ ※g	備考
1	す1778	B41	真鍮製ネジ釘	45	20.2	2本, 木質残存	3	す1582	B4	鉄製ネジ釘	64	10.2	
2	す1585	B29	鉄製ネジ釘	(62)	9.7		4	す1584	B23-1	鉄製ネジ釘	(45)	9.5	
							5	す1583	B23-2	鉄製ネジ釘	(44)	10.0	

鉄製品 (第59図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ ※g	備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ ※g	備考
1	す1580	B20	靴底金具	72	37.7		4	す1575	B13	鉄鍋	(117)	119.0	2~4同一個体?
2	す1574	B10	鉄鍋把手	285	114.5	2~4同一個体?	5	す1577	B9	鉄瓶把手	94	69.0	
3	す1576	B14	鉄鍋	(62)	38.0	2~4同一個体?							

その他の遺物—鉄製品 (第60図・第61図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ ※g	備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ ※g	備考
1	す1581	B1	駄載環	64	75.4	幅64mm	12	す1595	B38	目鍔	(50)	12.2	
2	す1578	B21	蹄鉄	110	139.0	幅87mm	13	す1596	B22	クルル鉤	(251)	170.0	柄部木質残存
3	す1579	B11	蹄鉄	108	48.8		14	す1589	B8	調度具?	(250)	110.5	
4	す1604	B34	軸金物	50	503.5		15	す1603	B33	火打金	43	9.3	ねじり鎌形
5	す1593	B39	頭巻釘	45	1.9		16	す1597	B12	刀子	153	29.9	
6	す1594	B40	頭巻釘	42	1.8		17	す1601	B25	鋤・鍬先	(119)	177.0	
7	す1591	B17	皆折釘	120	16.8		18	す1602	B26	鋤・鍬先	(75)	84.5	
8	す1592	B18	皆折釘	45	6.6		19	す1587	B2	楔	121	51.9	
9	す1590	B16	皆折釘	41	6.9	欠折後再使用	20	す1588	B3	楔	107	75.6	
10	す1586	B35	角頭釘	54	18.0	頭部隅切り形	21	す1598	B36	不明鉄製品	237	88.6	
11	す1599	B19	鍔	159	114.0								

その他の遺物—銭貨 (第61図~第62図)

挿図 No.	取上 No.	拓本 No.	銭種	年銘・初鋳年	計測値(mm)			備考
					外径/内径	方孔縦/横	厚さa/b/c	
22	BR33	う574	皇宋通宝, 模铸銭		24.5 / 19.7	6.6 / 6.7	1.2 / 1.1 / 1.2	
23	BR4	う546	寛永通宝(古寛永), 御藏銭	寛永13年	24.4 / 19.0	5.3 / 5.3	1.1 / 1.2 / 1.2	
24	BR9	う551	寛永通宝(古寛永), 坂本銭	寛永13年?	24.4 / 18.4	5.2 / 5.5	1.2 / 1.0 / 1.1	
25	BR40	う580	寛永通宝(古寛永), 建仁寺銭	承応2年	24.8 / 19.5	5.8 / 5.7	1.2 / 1.0 / 0.9	
26	BR32-1	う571	寛永通宝(古寛永), 沓谷銭	明暦2年	24.8 / 19.0	5.4 / 5.6	1.2 / 1.3 / 1.3	
27	BR32-2	う572	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	24.4 / 18.2	5.6 / 5.7	1.2 / 1.2 / 1.0	
28	BR50	う589	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	23.1 / 18.0	6.0 / 6.3	1.1 / 1.1 / 1.0	
29	BR49	う588	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	23.2 / 18.9	5.8 / 6.3	1.3 / 1.0 / 1.0	
30	BR51	う590	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	23.2 / 17.9	5.7 / 5.6	1.2 / 1.3 / 1.2	
31	BR30	う569	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	23.0 / 18.9	6.2 / 6.2	1.2 / 1.2 / 1.2	
32	BR48	う587	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	23.0 / 18.1	5.6 / 5.8	1.2 / 1.1 / 1.2	
33	BR46	う585	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	23.0 / 18.0	6.5 / 6.7	0.9 / 0.1 / 0.9	
34	BR22	う561	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以前	22.8 / 18.5	5.8 / 6.2	1.2 / 1.1 / 1.2	
35	BR21	う560	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以降	23.4 / 18.5	6.0 / 6.3	1.4 / 1.5 / 1.4	
36	BR15	う554	寛永通宝(新寛永), 四ツ宝銭	宝永4年以降	22.0 / 17.0	6.3 / 6.0	1.2 / 1.1 / 1.3	
37	BR34	う575	寛永通宝(新寛永), 旧享保十万坪銭	宝永4年以前	24.3 / 18.8	6.3 / 6.0	1.2 / 1.3 / 1.0	
38	BR32-3	う573	寛永通宝(新寛永), 旧享保十万坪銭	宝永4年以前	23.7 / 18.2	5.9 / 6.0	1.0 / 0.8 / 0.8	
39	BR20	う559	寛永通宝(新寛永), 旧猿江銭	宝永4年以前	23.4 / 18.6	5.6 / 5.6	1.4 / 1.4 / 1.4	
40	BR53	う592	寛永通宝(新寛永), 旧猿江銭	宝永4年以前?	23.3 / 18.8	5.6 / 5.9	1.0 / 0.9 / 1.0	
41	BR7	う549	寛永通宝(新寛永), 旧猿江銭	宝永4年以前?	22.9 / 19.0	6.2 / 6.4	1.6 / 1.4 / 1.3	
42	BR8	う550	寛永通宝(新寛永), 大坂難波銭	享保13年	24.6 / 20.0	6.4 / 6.6	1.2 / 1.0 / 1.2	
43	BR52	う591	寛永通宝(新寛永), 旧享保七条銭	享保期?	24.6 / 19.4	6.1 / 6.2	1.0 / 0.9 / 1.1	
44	BR28	う567	寛永通宝(新寛永), 旧享保七条銭	享保期?	24.5 / 19.6	6.2 / 6.4	1.0 / 0.9 / 1.2	
45	BR44	う584	寛永通宝(新寛永), 仙台石巻銭	享保期?	24.4 / 19.0	5.6 / 5.6	1.0 / 1.1 / 1.0	
46	BR41	う581	寛永通宝(新寛永), 仙台石巻銭	享保期?	24.4 / 18.4	6.2 / 6.2	1.0 / 1.2 / 1.2	
47	BR29	う568	寛永通宝(新寛永), 十万坪銭	元文期	23.5 / 18.6	6.2 / 6.3	1.3 / 1.0 / 1.0	
48	BR38	う578	寛永通宝(新寛永), 十万坪銭	元文期	23.2 / 18.6	5.8 / 5.9	1.0 / 1.0 / 0.9	
49	BR36	う576	寛永通宝(新寛永), 十万坪銭	元文期	23.1 / 17.8	6.4 / 6.6	1.0 / 1.0 / 0.9	

挿図 No.	取上 No.	拓本 No.	銭種	年銘・初铸年	計測値(mm)			備考
					外径/内径	方孔縦/横	厚さa/b/c	
50	BR6	う548	寛永通宝(新寛永), 十万坪銭	元文期	23.0 / 17.6	6.7 / 6.6	1.2 / 1.1 / 1.0	
51	BR19	う558	寛永通宝(新寛永), 小梅手銭	元文期	23.2 / 18.8	6.0 / 6.3	1.3 / 1.2 / 1.3	
52	BR14	う553	寛永通宝(新寛永), 小梅手銭	元文期	22.6 / 18.5	5.7 / 6.6	1.2 / 1.2 / 1.1	
53	BR42	う582	寛永通宝(新寛永), 高津新地銭	寛保元年	22.8 / 17.4	5.9 / 6.0	1.0 / 1.0 / 1.2	背「元」, 背面に范のズレ
54	BR25	う564	寛永通宝(新寛永), 高津新地銭	寛保元年	22.2 / 16.5	5.4 / 5.4	1.0 / 0.9 / 1.0	背「元」
55	BR3	う545	寛永通宝(新寛永), 高津新地銭	寛保元年	21.7 / 16.2	5.1 / 5.1	1.2 / 1.0 / 1.0	背「元」
56	BR1	う543	寛永通宝(新寛永), 足尾銭	寛保期	32.0 / 17.8	5.5 / 6.0	1.4 / 1.4 / 1.4	背「足」
57	BR47	う586	寛永通宝(新寛永)	18世紀前半	22.5 / 18.9	6.0 / 6.0	- / 1.0 / 1.1	細かい時期不明, 一部欠損
58	BR24	う563	寛永通宝(鉄一文銭), 小梅手銭	元文4年	23.2 / 18.3	6.1 / 6.1	1.1 / 1.2 / 1.1	
59	BR45	み10	寛永通宝(鉄一文銭)	元文期以降	26.5 / 19.4	7.2 / 5.9	1.5 / 2.0 / 1.0	錆が多く細かい時期不明
60	BR23	う562	天保通宝(薩摩銭)	文久3年頃	縦径49.5 / 44.2, 横径33.0 / 27.5, 銭文長43.2, 方孔6.5 / 6.7, 厚さ2.8 / 2.9			広郭
61	BR43	う583	天保通宝(薩摩銭?)	文久3年頃	縦径49.0 / 44.4, 横径32.7 / 28.0, 銭文長43.1, 方孔7.0 / 7.1, 厚さ2.4 / 2.6 / 2.5			「通」「寶」は范キズあり
62	BR16	う555	竜半銭銅貨	明治9年	直径22.4 厚さ1.3			
63	BR27	う566	竜1銭銅貨	明治8年	直径28.1 厚さ1.6			
64	BR39	う579	竜1銭銅貨	明治9年	直径27.9 厚さ1.6			
65	BR37	う577	竜半銭銅貨	明治17年	直径22.4 厚さ1.4			
66	BR26	う565	竜1銭銅貨	明治15年	直径28.1 厚さ1.5			
67	BR13	う552	竜2銭銅貨	明治14年	直径32.0 厚さ2.4			
68	BR5	う547	桐1銭青銅貨	大正6年	直径23.3 厚さ1.3			
69	BR18	う557	桐1銭青銅貨	大正8年	直径23.1 厚さ1.4			
70	BR17	う556	桐1銭青銅貨	大正10年	直径23.2 厚さ1.4			
71	BR31	う570	桐1銭青銅貨	大正11年	直径23.0 厚さ1.3			
72	BR2	う544	10銭白銅貨	昭和2年	直径22.1 厚さ1.3			
73	BR54	う593	稲10銭アルミ貨	昭和20年	直径22.4 厚さ1.6			

その他の遺物—土器・陶磁器類 (第63図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	焼成形態	器種	口径	底径	器高	備考
					※cm, ()内復元値			
74	さ40	—	土師器	坏	(12.6)	(8.7)	2.7	表面採集 13c前半~14c中頃 外:口縁~体部回転ナデ, 底部回転糸切離し 内:摩耗
75	さ43	—	土師器	坏	(11.6)	(8.7)	2.7	表面採集 中世(13c後半以降) 外:口縁~体部回転ナデ, 底部回転糸切離し 内:体部~底部外周回転ナデ
76	さ38	—	土師器	小皿	8.4	7.2	1.5	表面採集 13c~14c中頃 外:口縁~体部回転ナデ, 底部回転糸切離し 内:口縁~底部回転ナデ, 底部回転ナデ後中央静止ナデ
77	す1705	—	陶器	灯火具	3.8	6.5	8.4	本殿床下採集 九州産 19c初頭~中頃 施釉:鉄釉, 受皿部下位~底部露胎 胎土:暗灰色 使用痕:上位に黒色~黒褐色の付着(汚れ?), 火皿部煤付着・灯芯残存

その他の遺物—銅製品ほか (第63図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値		挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値	
				長さ※mm, (残存長) / 重さ※g						長さ※mm, (残存長) / 重さ※g	
78	さ473	G30	鉛弾	最大径10.4 / 重さ4.2, 旧BL10		85	す1719	G1	金釦	外径22.3, 本体高7.1 / 重さ2.0	
	※火縄銃2匁銃弾か										
79	す1717	G3	和鏡	平面(46×14) / 重さ18.0		86	す1708	G15	銅製煙管雁首	横長41, 軸最大径10 / 重さ3.9	
80	す1715	G5	和鏡	平面(45×44) / 重さ24.6		87	す1713	G18	銅製調度金具	平面38.3×23.9 / 重さ3.9	
81	す1716	G14	和鏡	平面(32×22) / 重さ15.0			※正面は鼠2匹を細線刻, 背面は荒れ(爆ぜ・爛れ)				
※79~81は同一個体, 3点とも被熱により溶解・変形											
82	す1712	G12	銅製鍵	横長151, 最大幅9 / 重さ16.0		88	す1709	G9	玉簪	縦(27), 玉部径13 / 重さ4.4	
※海老錠の鍵, 鍵爪部コ字形											
83	す1710	G16	銅製皆折釘	長さ(58) / 重さ7.0		89	す1711	G7	ランプ銅製部品?	復元最大径約19, 縦(18) / 重さ4.6	
84	す1720	G17	銅製釦	外径19.2, 本体高8.1 / 重さ1.4		90	す1721	G31	鉄滓(鍛冶滓)	平面77×62, 厚21 / 重さ84.9	
※左右面とも木炭痕認める, 右面はガラス質の晶出あり											

d. 立木の調査 (第 64 図～第 72 図)

田原坂一帯の樹木には小銃弾が埋もれており、製材の際や薪として燃やした際に姿を現すことは地元の方々にとっては、珍しいことではなかった。こうした経験があり地元の方の発案で、樹齢的に可能性のある境内立木に金属探知機調査を実施した。報告する榎木と杉木のほかに調査地東端の道路沿いの樹木 1 で 3 カ所、樹木 2 でも 3 カ所の金属反応があった。弾痕は樹表では全くわからない。

(1) 榎木の調査 (第 64 図)

榎木 (なぎのき) は熊野座神社の御神木で、道路際に数本ある。うち 1 本が平成 27 年 (2015) 秋の台風で上半が折れて落下したので調査した。調査ではこの上半木を動かすたびに金属反応点も移動したため、下から A～D に 4 分割し詳細調査した。詳細調査でも反応点は移動し、そのたびにコロコロと音がしたので割り込み調査したところ、樹木内部が空洞になっており、その中で小銃弾が移動していたことが判明した。撃ち込まれた小銃弾の影響で内部が腐って空洞になり、樹勢が衰えて半折したと考えられた。

分割木 A の下端径 28 cm、B は下端径 25 cm で上端は二又に分かれており、C と D はその片方である。C の下端径 19 cm、D の上端径 15 cm。樹表下 2 cm ほどで空洞を確認したので、戦闘当時の直径は 2～4 cm ほど細かったと考えられ、小銃弾が激しく飛び交う状況の凄まじさを今に伝える。射入孔は確認できず、かつ倒木のため銃撃方向も不明である。

小銃弾は分割木の A、B、D から各 1 点、C からは 2 点の計 5 点を発見した。すべてスナイドル銃弾 A2 タイプとしたが、A は弾頭潰れや圏溝からみて P3 か P4 かもしれない。B、C の 3 点は大きく平らに変形しており、樹木に衝突射入した際の A2 タイプ変形例として好例である。また、すべてスナイドル銃弾なのが、銃撃元を示しているようで興味深い。



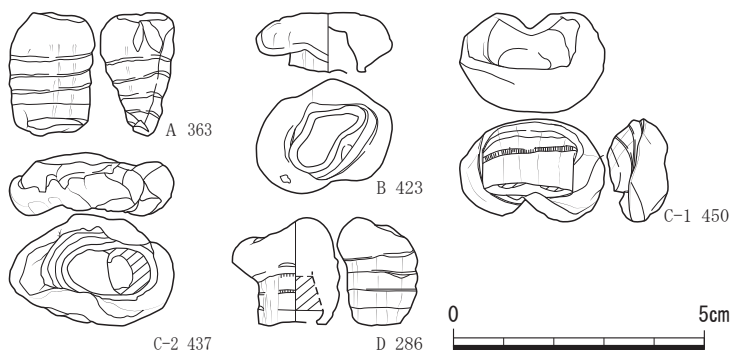
半折倒木の調査状況



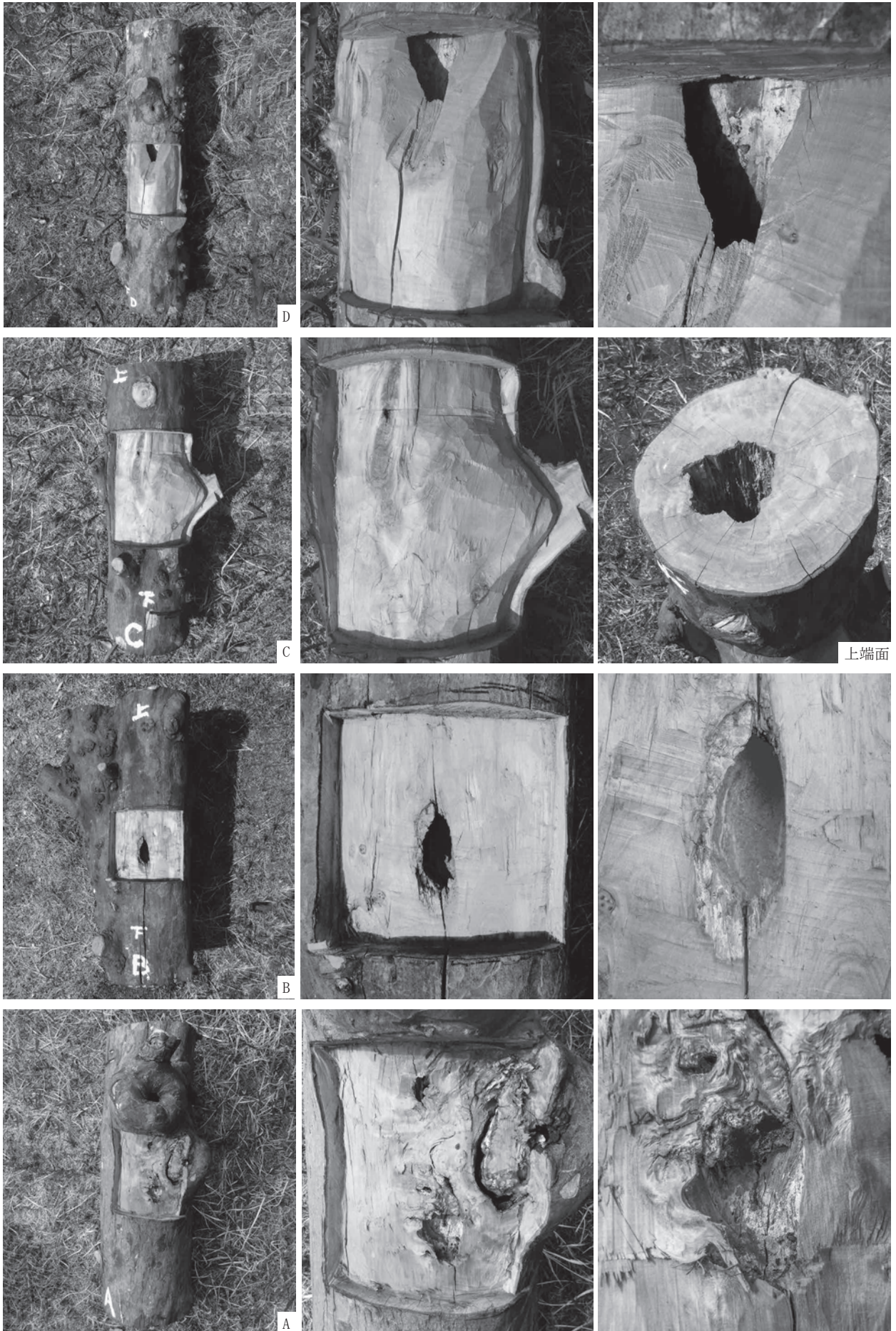
調査した榎木



小銃弾 D の確認状況



第 64 図 榎木発見の小銃弾

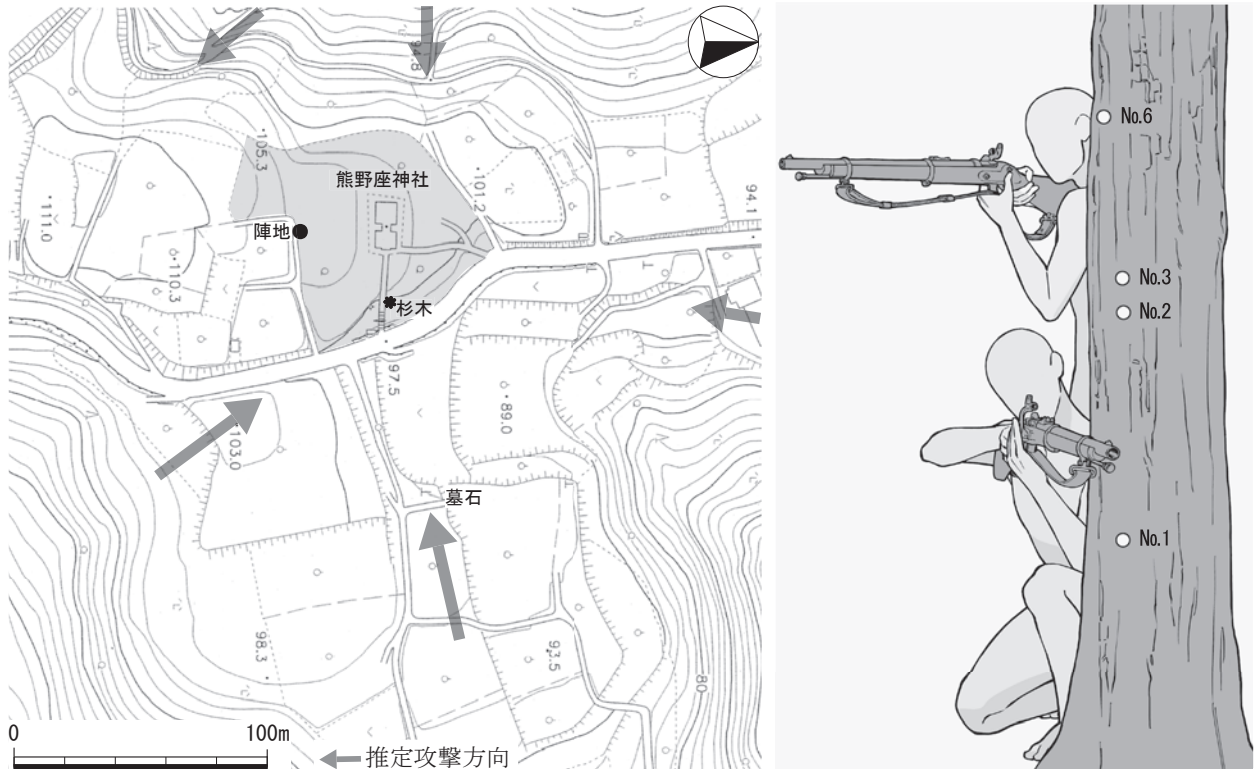


榎木の調査状況

2) 杉木の調査 (第65図～第72図)

鳥居脇の杉木2本も同時期の台風で上部が折れ、危険防止のため根元から伐採したので、調査できた。北側杉木には多数の金属反応があったが、ほぼ同径同樹齢とみられた南側杉木に反応はなかった。

北側杉木は伐採時の高さ16.42m、直径は切株面65～80cm、切断面a44～48cm、b39～41cm、c34～37cm、d27～41cmで、金属反応点は21カ所である。切断面a＝小銃弾No.5の位置で直径は45cmほどだが、伐採断面から判明した小銃弾の射入口と、年輪に現れた戦い当時の樹表から判断して、戦い当時は直径30

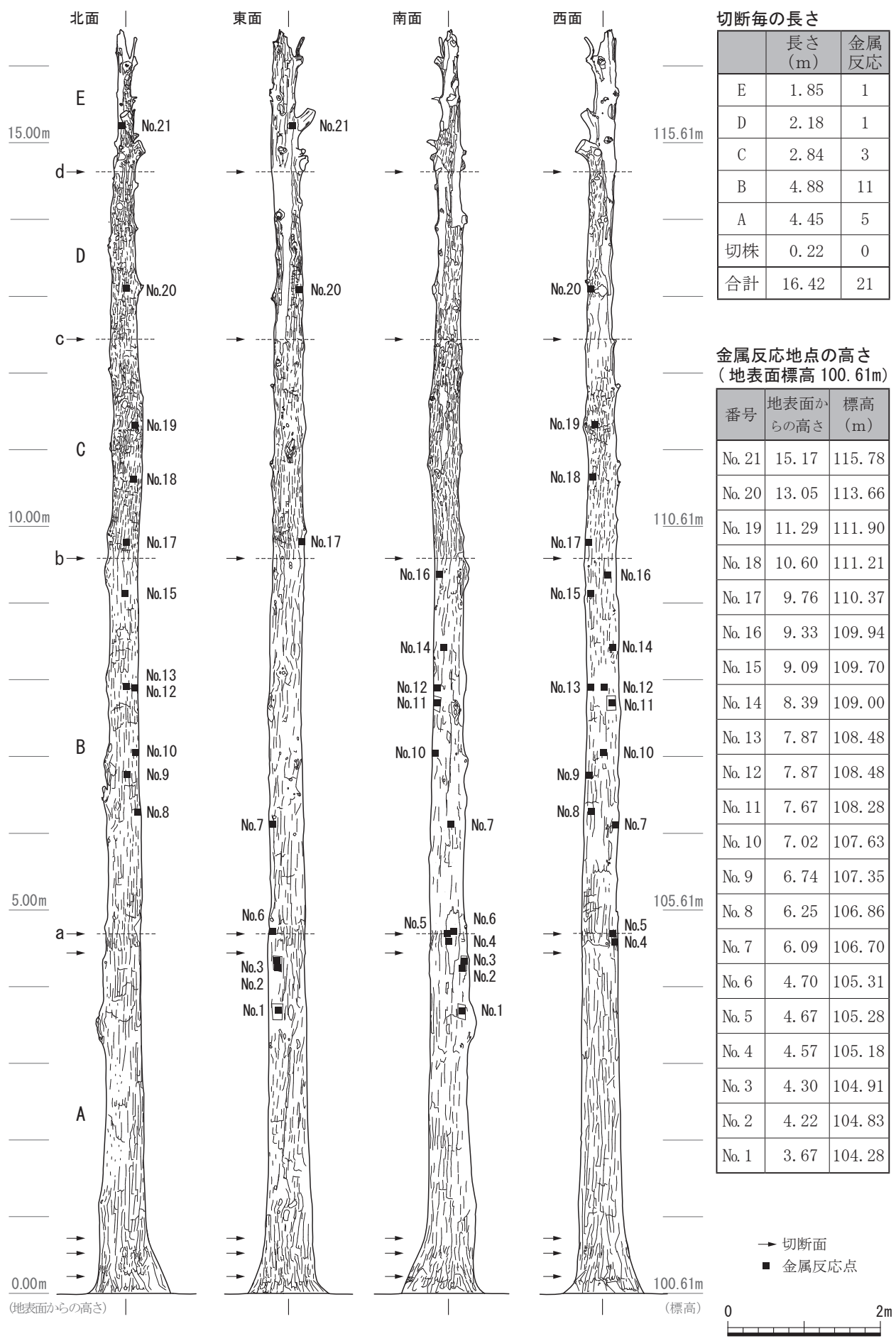


第65図 調査地周辺の攻撃方向推定図 (1/3000)

反撃イメージ図(東より)



第66図 杉木周辺平面図・断面図 (1/50)



第 67 図 北側杉木金属反応点立面図 (1 / 70)

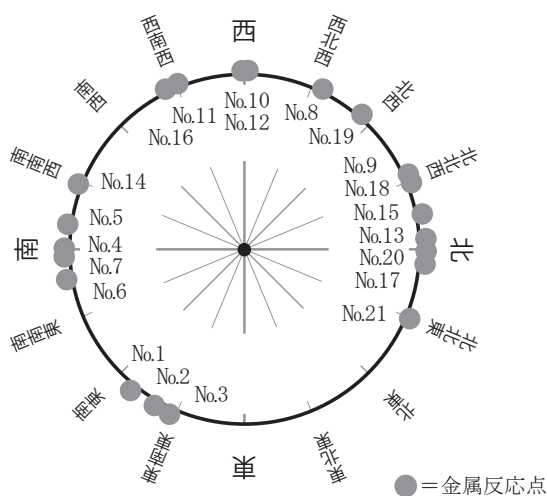
cmである。138年の間に杉木は銃弾射入孔の傷口を塞いで覆い、直径は15cmほど太くなっている。一方、No.5射入口周囲では木腐れが目立ち、影響の大きさを知ることができる。樹表で弾痕は全くわからない。

金属反応点は各方向からの銃撃を示す。ただし、確認したのはあくまで金属反応であり、銃弾射入孔を確認したものではなく、すべてを割り込み調査して実際の遺物を確認したわけでもない。金属反応点は地表面からの高さ低位の3.7m～4.7mのNo.1～6は縦幅1mの間に集中しており、銃撃方向は東南東～南で、北方向からのものはない。中位の6.1m～8.4mのNo.7～14は縦幅2.3mの間にあり、主に西南西～西北西で、No.7と14が南、No.13は北からで混在するが、東方向からのものはない。高位の9.1～15.2mのNo.5～21は、西南西のNo.16を除いて北西～北北東の間からのもので、南方向からのものはない。

概ね、低位は南東からの銃撃、中位は西からの銃撃、高位は北からの銃撃とみることができ、それらに反対方向からの同高のものはない。このことは、高さとは有意の関係があり、戦闘状況の具体的な一端を示していると考えられる。これを現地地形に当てはめて状況を推定すると、低位は南東方向にある現在標高103mの高地からの攻撃側の撃ち下ろし、中位は西なので社殿裏段上からの防衛自陣からの東方への反撃を杉木が邪魔したもの、高位は北方から林立する樹木を避けて敵方頭上への弾雨か仰攻を意図したのものかもしれない。つまり、3種類の銃撃戦がこの杉木1本に示されていると考えられる。また、北東方向の低地からのものがないのは示唆的である。

南東からの銃撃は、樹木を弾除けにした背後の人物への攻撃と考えられたので、推定イラストを作成した。設定は杉木直径30cm、人物身長157cm、小銃の構え方や人物配置は文献や調査指導に基づき、着弾高は本殿大引弾痕から推定しNo.2を地上1mにした。

発見した遺物は小銃弾No.1はスナイドル銃弾Bタイプ、No.2、5はエンフィールド銃弾で、No.2は原形をとどめないほど変形が著しく、同じ確認面にはNo.3の四斤砲榴弾底部片がある。



杉木銃撃推定方向模式図

銃撃方向（推定）

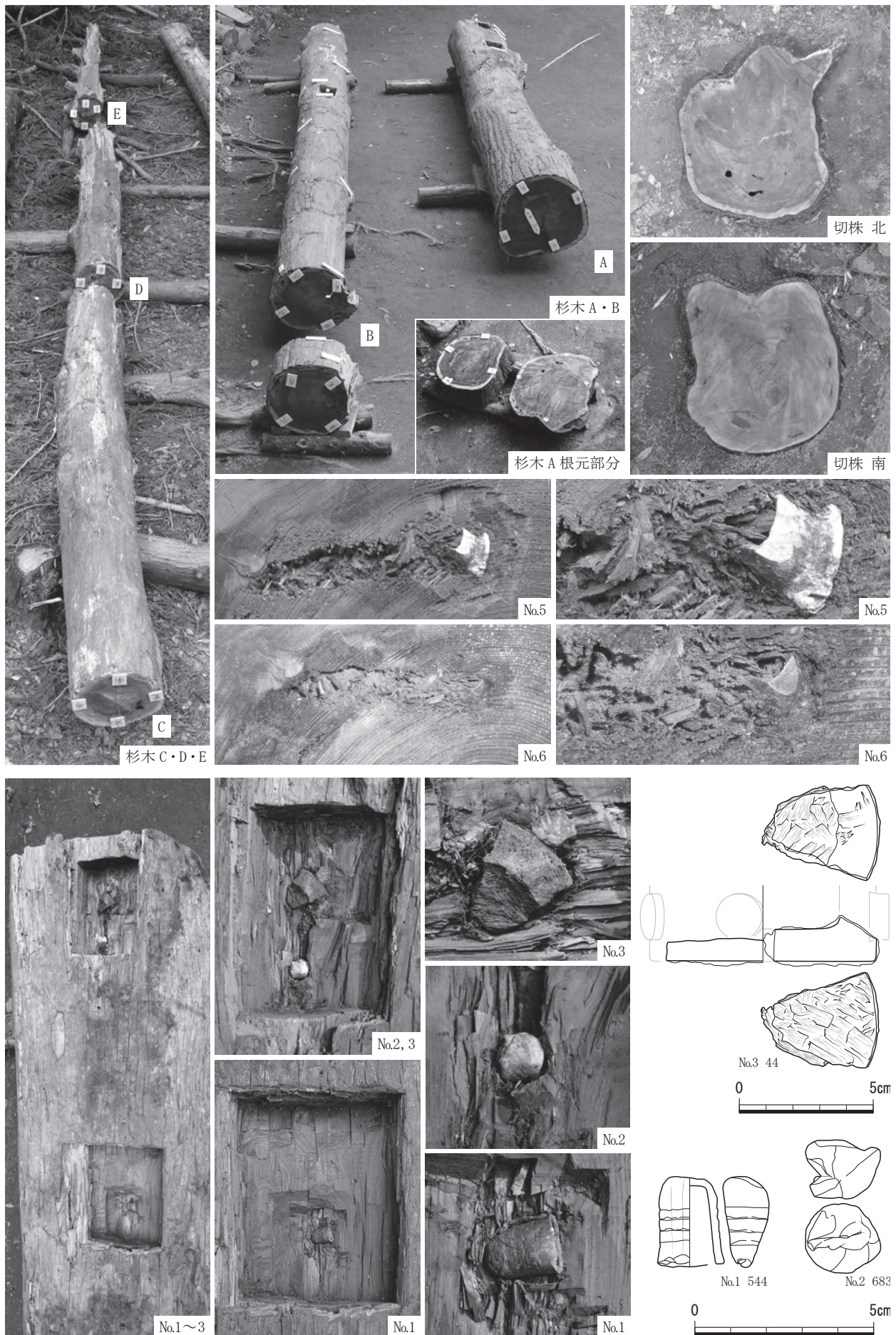
番号	方向	番号	方向	番号	方向
No. 1	南東	No. 8	西北西	No. 15	北
No. 2	東南東	No. 9	北北西	No. 16	西南西
No. 3	東南東	No. 10	西	No. 17	北
No. 4	南	No. 11	西南西	No. 18	北北西
No. 5	南	No. 12	西	No. 19	北西
No. 6	南	No. 13	北	No. 20	北
No. 7	南	No. 14	南南西	No. 21	北北東



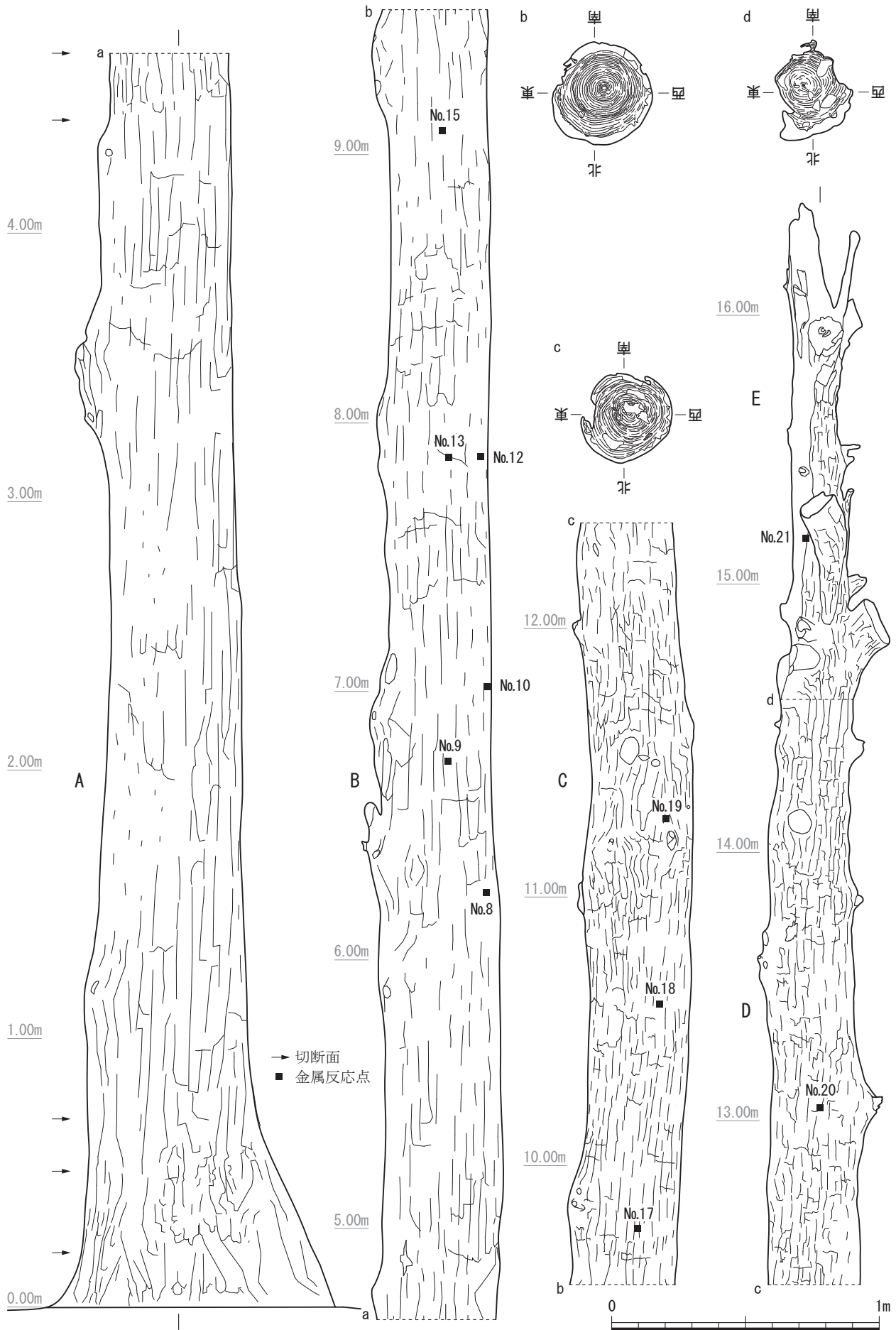
切断面 a 上面 小銃弾No.5確認状況 (写真右方が北)



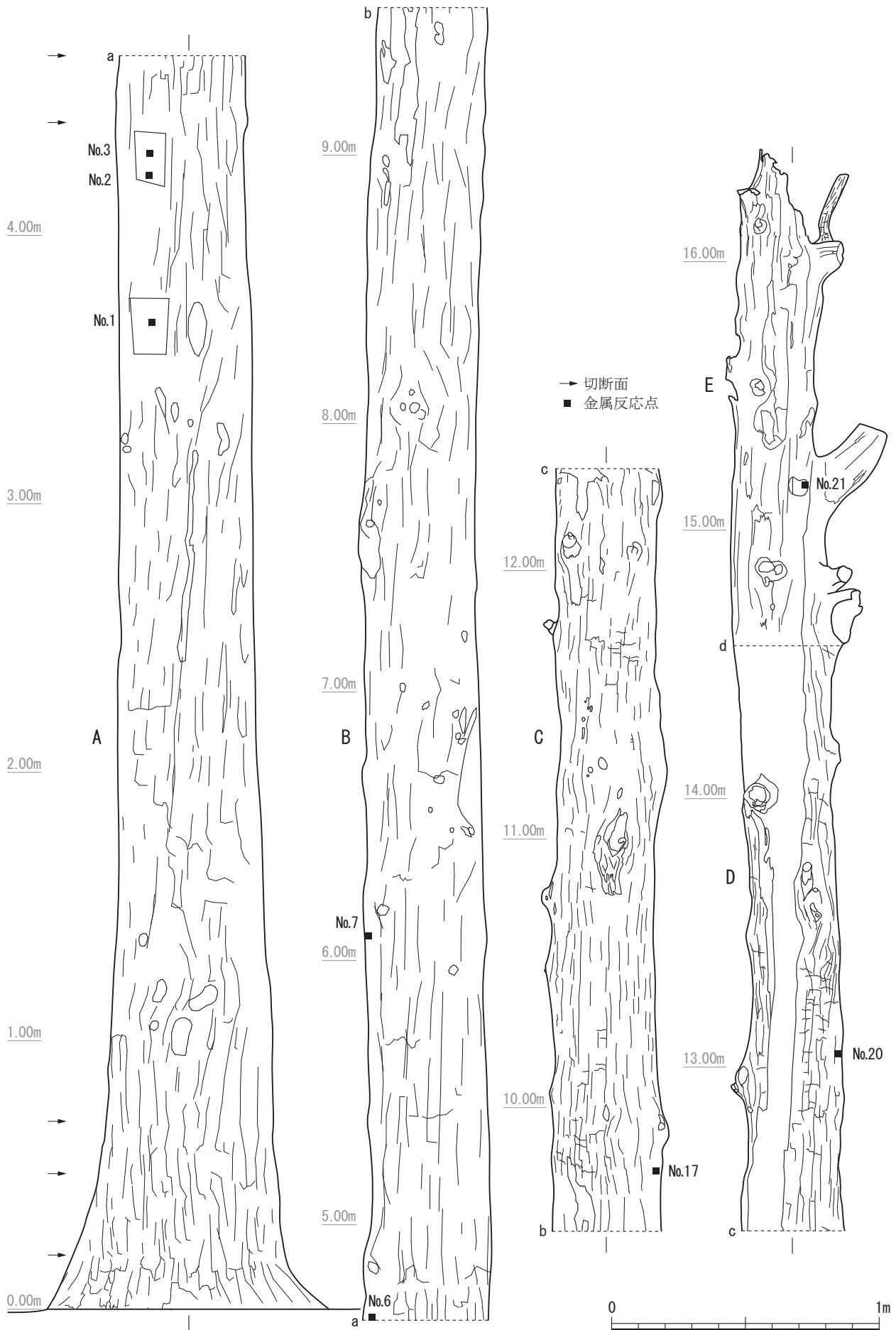
切断面 a 下面 小銃弾No.6確認状況 (写真右方が北)



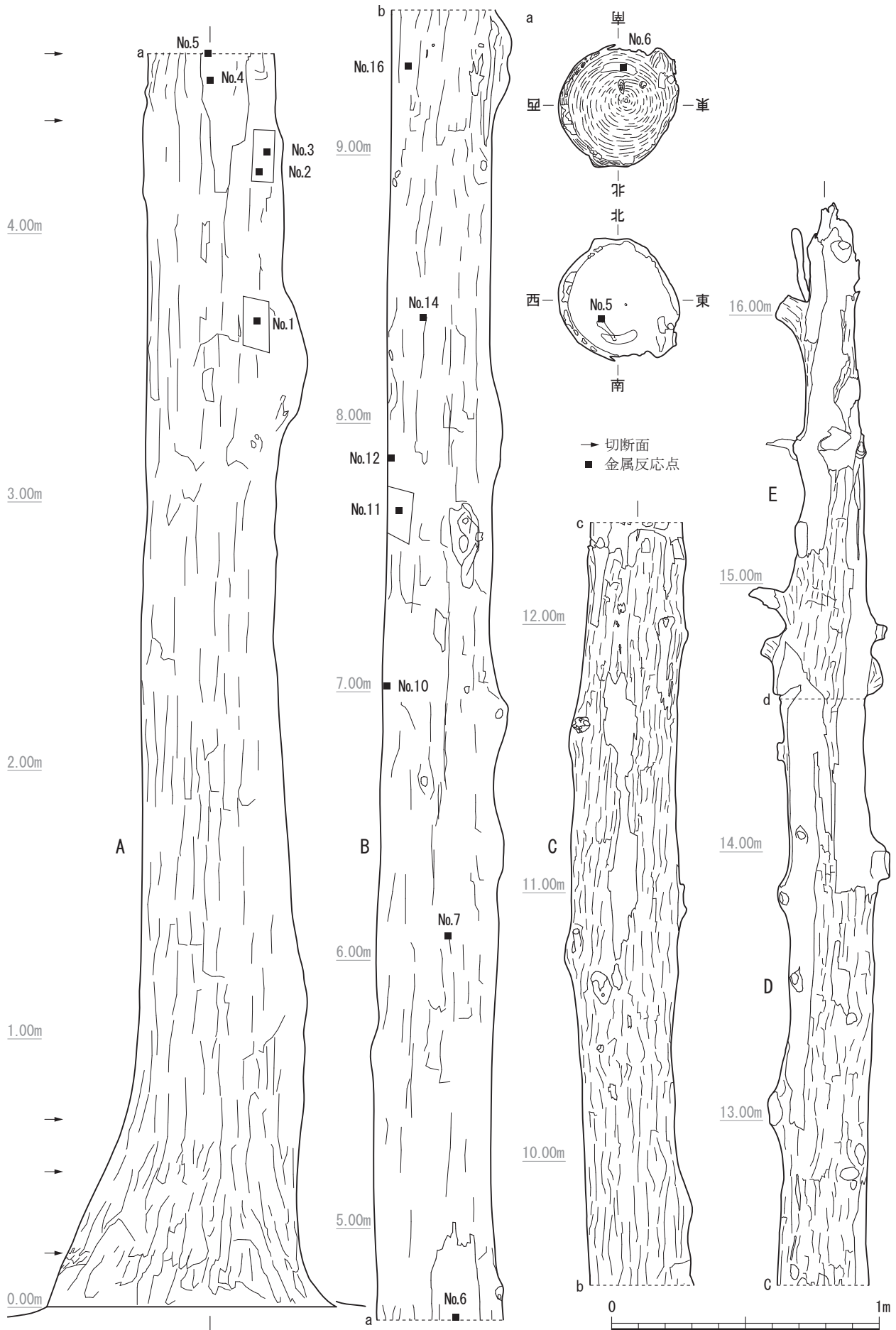
第 68 図 北側杉木・出土遺物



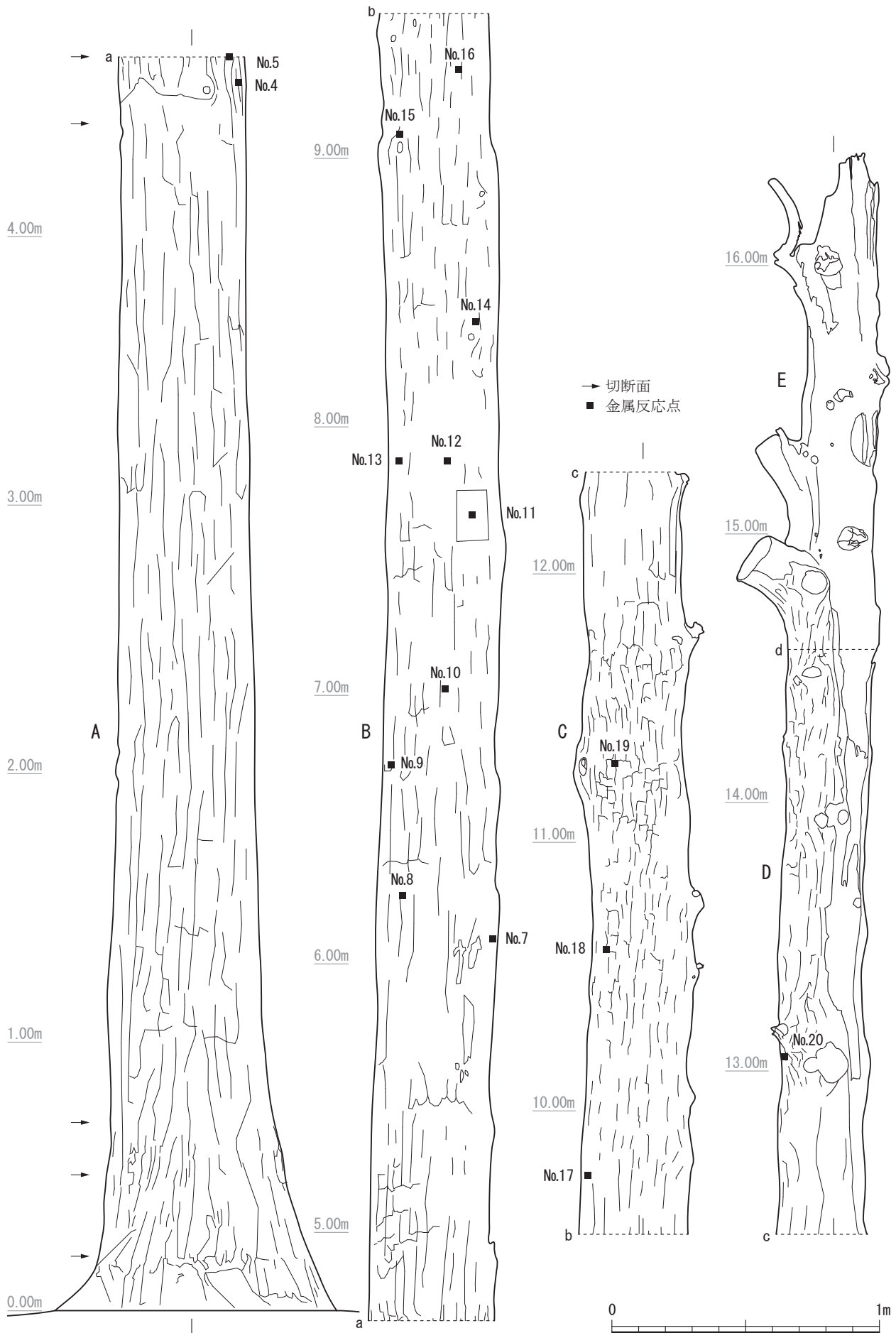
第 69 图 北側杉木立面图 1 北面 (1 / 20)



第 70 図 北側杉木立面図 2 東面 (1 / 20)



第 71 図 北側杉木立面図 3 南面 (1 / 20)



第 72 図 北側杉木立面图 4 西面 (1 / 20)

e. 社殿の調査（第 33 図～第 37 図・第 63 図・第 73 図～第 87 図）

熊野座神社社殿の部材に小銃弾が遺存し弾痕もあることは、古くから知られていた。また、社殿には再建非再建論があり「田原坂の戦いの姿そのまま」の意見と「戦いで焼失した後の再建」の意見があった。これらのことから西南戦争遺跡としての価値づけや保存整備、保護活用の観点で調査が必要と判断された。調査は地元の了解承諾のもと、毀損などがないよう敬意をもって慎重に実施することを心がけた。

(1) 再建非再建論について（第 63 図）

社殿焼失に関する遺物のご神体の可能性のある熔解変形した銅製和鏡片、海老錠銅製鍵、調度金具などがある（遺物項に詳報）。本殿北面にある水神彫物の由緒札調査は今回は赤外線写真撮影のみにとどまったが、かろうじて年号は「明治十年九月」と読み、「馬瀬村」などの記述もある。馬瀬（まぜ）は明治八年『白川縣下區畫便覧』第五大区九小区平原にあり、明治 33 年測図『二万分一地形圖熊本近傍九號・植木』では、神社北方 1.2 km、大平の西隣村である。ちなみに、現在の熊野座神社の氏子範囲は、豊岡の宿、中久保、本村、谷、迎原、平原の中谷、平原の 7 カ所とのことである。

文献記述は 3 月 6 日と 8 日にある。3 月 6 日の記載は「201 東郷重護上申書（薩摩軍五番大隊八番小隊半隊長）」「懲役人筆記東京府十綴之内」『鹿児島県史料西南戦争第四巻』鹿児島県に「同六日午前十時比ヨリ敵兵我持場へ攻来り候ニ付態ト持場ヲ捨テ百五十歩計リ一隊ヲ引揚ケ候処、直ニ敵ヨリ台場ヲ乗り取り、田原八幡ノ社へ火ヲ掛ケ互ニ防戦致シ候、且我隊即死一人・手負三人ナリ」とある。一方「近衛歩兵第一連隊第一大隊第一中隊戦闘日記」『アジ歴資料 c09083957400』に、「同六日未明（中略）田原坂ノ左方ナル谷ヨリ進軍、嶮ヲ攀チテ進ミ大ニ賊ノ翼ヲ撃チ三ヶ所ノ墨ヲ抜キ、追撃シーノ官社ニ放火シ（後略）」がある。3 月 8 日は「豊岡村、第五大区九小区各村戦地景況輯録」「戦地景況輯録」明治十一年二月二十四日『西南の役田原坂資料集歴史のはざまに』植木町に「八日田原神社兵火」の記載がある。



社殿全景（北より）

再建非再建論に関しては、関連遺物、水神彫物の由緒札の年号や文献調査、さらに銃弾が届かない床下大引などで多数の弾痕が確認されたことから、戦いで焼失した後の再建との見方が大勢を占めるが、建築年代を記した棟札などの明確な根拠資料の発見まで結論は待ちたい。

(2) 弾痕調査 (第 73 図～第 87 図・計測表)

弾痕調査は社殿の拝殿、廊下、本殿の現状の外観で視認できる場所を対象とし、床下は含むが天井裏など部材取り外し造作を伴う場所と本殿内部は今回の調査からは除外された。調査で確認した弾痕は拝殿と廊下 147 カ所、本殿 269 カ所の合計 416 カ所である。

社殿の多くの建築部材には弾痕があり、境内地あるいは田原坂近隣の激戦地で伐採されたものと推定される。本殿背面の地長押には樹皮が残る辺材を使用、床下材には弾痕のある細材が使用されるなど、伐採木材は有効活用されたと考えられる。本殿背面の支柱 4 本のうち向かって右から 2 本目には弾痕があり、色調も他材と同じで上部には樹皮が少し残る。他 3 本には弾痕がなく、色調も異なるので他所の材だろう。弾痕が多い材木は、背面や天井などあまり人目に触れない所に使用されたようだ。

大 引 建築部材は製材された角丸柱材や板材と樹皮が残る床下材に大きく分かれ、加工木材では弾痕所在は判明するが他の情報が欠落しているので、重要なのは床下材の大引や根太である。大引は丸太で樹皮が残存しかつ最低限の製材しか行われていないので、戦い当時の被弾状況がよくわかる極めて重要で、貴重な資料である。樹皮の弾痕は当時のままに見え、内部は木の繊維が細かく裂けた木屑が充満した状態であった。射入口周囲でも木腐れなどはなく健全で、自己修復もあまり進んでいないようなので、被弾直後に伐採されたことがうかがわれる。本殿右面組高欄の地覆に見える銃弾 19 は底面に射入孔が開いたままであり、これも被弾直後の伐採を示すものだろう。水神彫物由緒札の年号が再建時期を示すとすると、田原坂の戦い直後から再建工事が開始されたことになり、その頃に伐採された可能性が高い。



社殿裏から東方を見る

太さや枝の向きなどの外観観察で、おそらく拝殿と廊下の大引は1本の杉木で賄われたと思われ、柄まで含む長さとして直径を記すと根元から、拝殿北側大引長4.18m、径55cm～40cm、南側大引長4.18m、径39cm～34cm、廊下西側大引長2.04m、径29cm～24cm、東側大引長2.31m、径25cm～20cmの順で、最大径55cm、最小径20cm。これに切株や先端まで入れると推定樹高は16mほどになる。本殿大引も同様に1本の杉木と思われ、根元から南側大引長3.54m、径61cm～52cm、北側大引長3.51m、径49cm～43cmの順で、最大径61cm、最小径43cmで径からみて拝殿大引杉木より大木と思われ、推定樹高は18m以上ほどになると考えられる。

また、境内に残る古切株のうち大径で樹齡的に可能性のある7カ所を調査して、床下大引の使用木を特定し銃撃方向を検討しようと試みた。しかし、木材は柄加工などのため根元の詳細な断面形状がわからず特定には至らなかった。そのため、弾痕の位置から推定される銃撃方向も不明である。ただ、7カ所の古切株は、参道南側東寄りの調査地東南にまとまっており、銃弾が見つかった杉木や榎木にも近く、弾痕が多く確認された社殿大引材の杉木がここで伐採されたと考えても大過ないのかもしれない。なお、古切株の樹種同定は未調査である。

弾痕 弾痕は形状によって貫通、直入、斜入、擦過痕、跳弾痕に分類した。弾痕内部に小銃弾の遺存が確認できたものもあった。床下大引の弾痕は外観で確認できたものだけであり、床のために平らに削られた部分は不明である。

拝殿の北側大引は低位材だが弾痕は3カ所で少なく、南側大引は中位材で24カ所あり合計27カ所である。南側大引は北面22カ所、南面2カ所で、特に北面根元側は2.2mの間に19カ所が集中し南面には少ないので、ある方向からの一方的な銃撃が中位に対してなされたことが想定される。

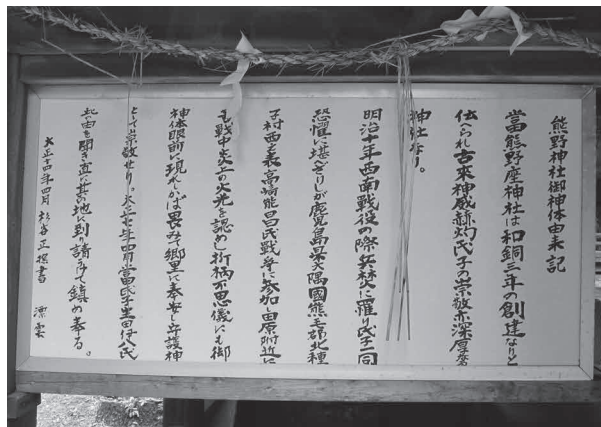
廊下西側大引は高位材で西面1.1mの間に10カ所が集中するが、東面には弾痕はない。さらに高位の東側大引は西面に3カ所あるが東面にはなく、合計13カ所である。廊下大引においてもある方向からの一方的な銃撃が想定される。削平部分を考えると、拝殿と廊下の大引材杉木にはもともと40カ所以上の弾痕があったと思われる。

本殿の南側大引は低位材で南面2.8mの16カ所のうち、特に根元側1.3mの間に11カ所が集中する。北面には10カ所あり計26カ所。中位材の北側大引北面には9カ所、南面には3カ所あり計12カ所、合計38カ所が確認できた。南側大引においては、ある方向からの低位に向けての銃撃が想定され、対応する反対側からの銃撃もあったことが推定される。本殿大引材では、径が大きかったためか拝殿大引材より弾痕は多い。

これらの弾痕から杉木調査の推定と同様に考えると、拝殿廊下大引材においては、低位になく中位への集中は検討課題、高位は弾雨か仰攻によるものと考えられ、本殿大引材においては低位では樹木を弾除けにした背後人物への集中射撃、中位は検討課題とする。大引材の元位置や大引各材の接合関係が判明すれば、銃撃方向も推測可能になるだろう。



水神彫物由緒札赤外線写真



熊野座神社御神体由来記



拝殿左面



拝殿背面北側



拝殿右面



廊下右面



本殿正面北側垂木



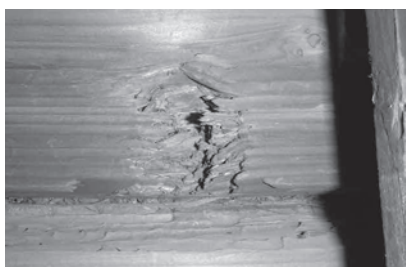
本殿背面



本殿右面回縁下



本殿背面北側垂木



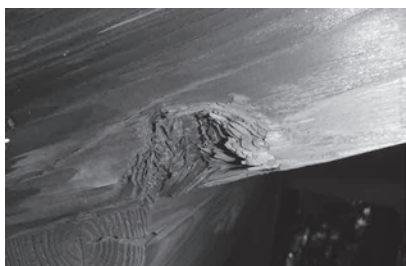
拝殿正面 3



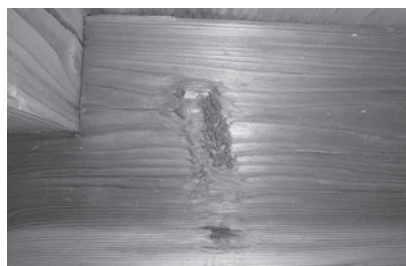
拝殿背面 9



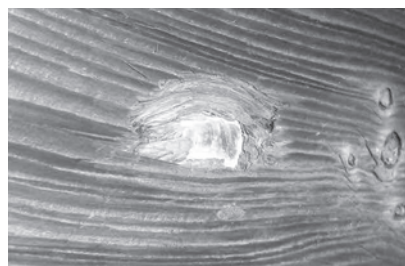
拝殿背面 20、21、22



拝殿右面向拝 7



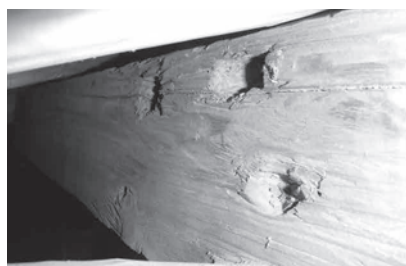
拝殿右面 6



拝殿左面向拝 2



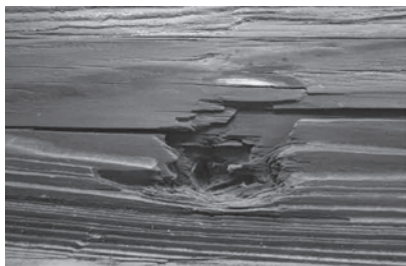
拝殿左面 7



廊下天井桁 8、9、10



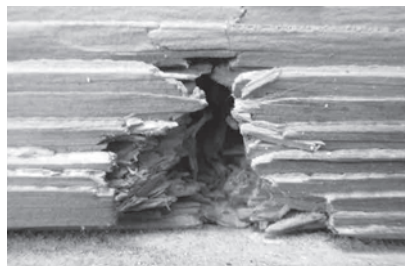
廊下天井桁 11、12、13



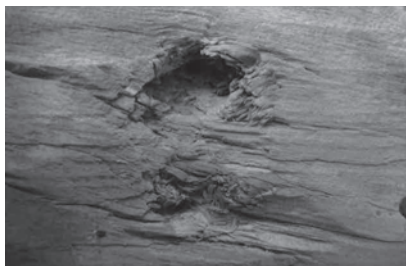
本殿正面 4



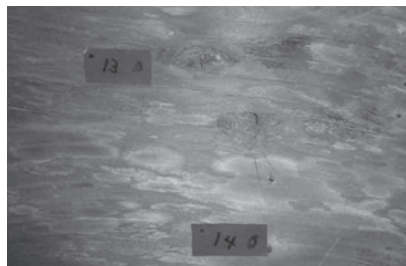
本殿背面 1



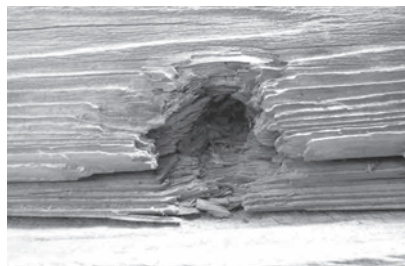
本殿背面 2



本殿背面 10、67



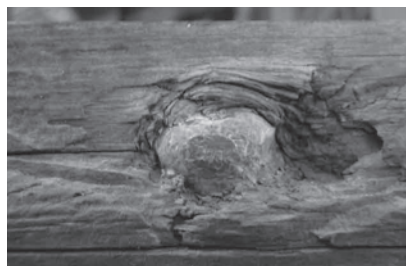
本殿背面 13、14



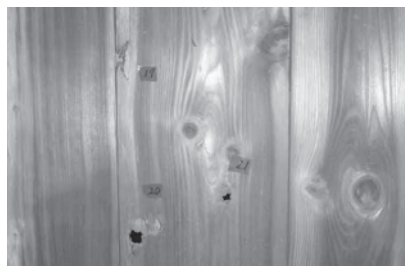
本殿背面 20



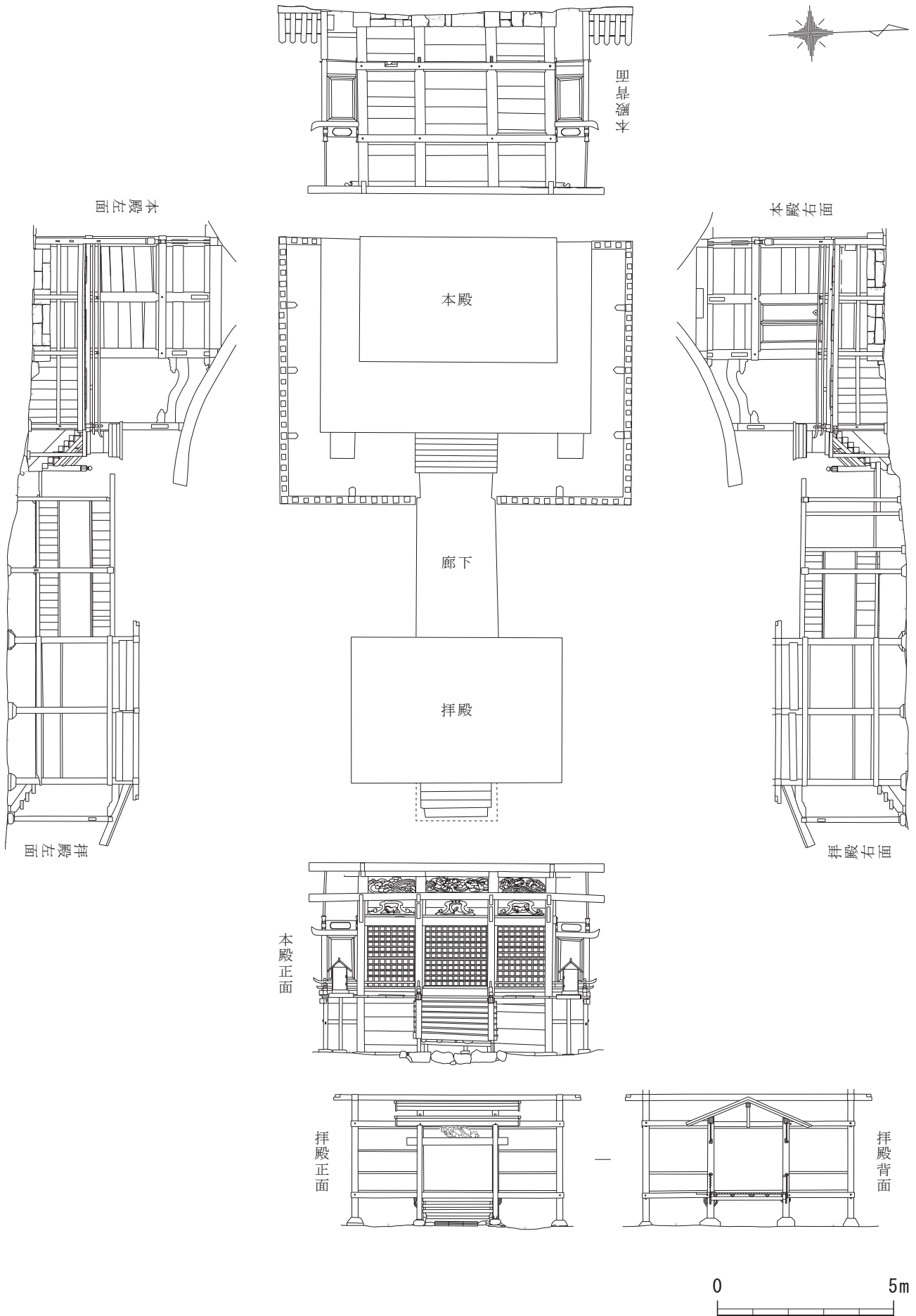
本殿背面主柱 40



本殿右面高欄 19



本殿左面 19、20、21

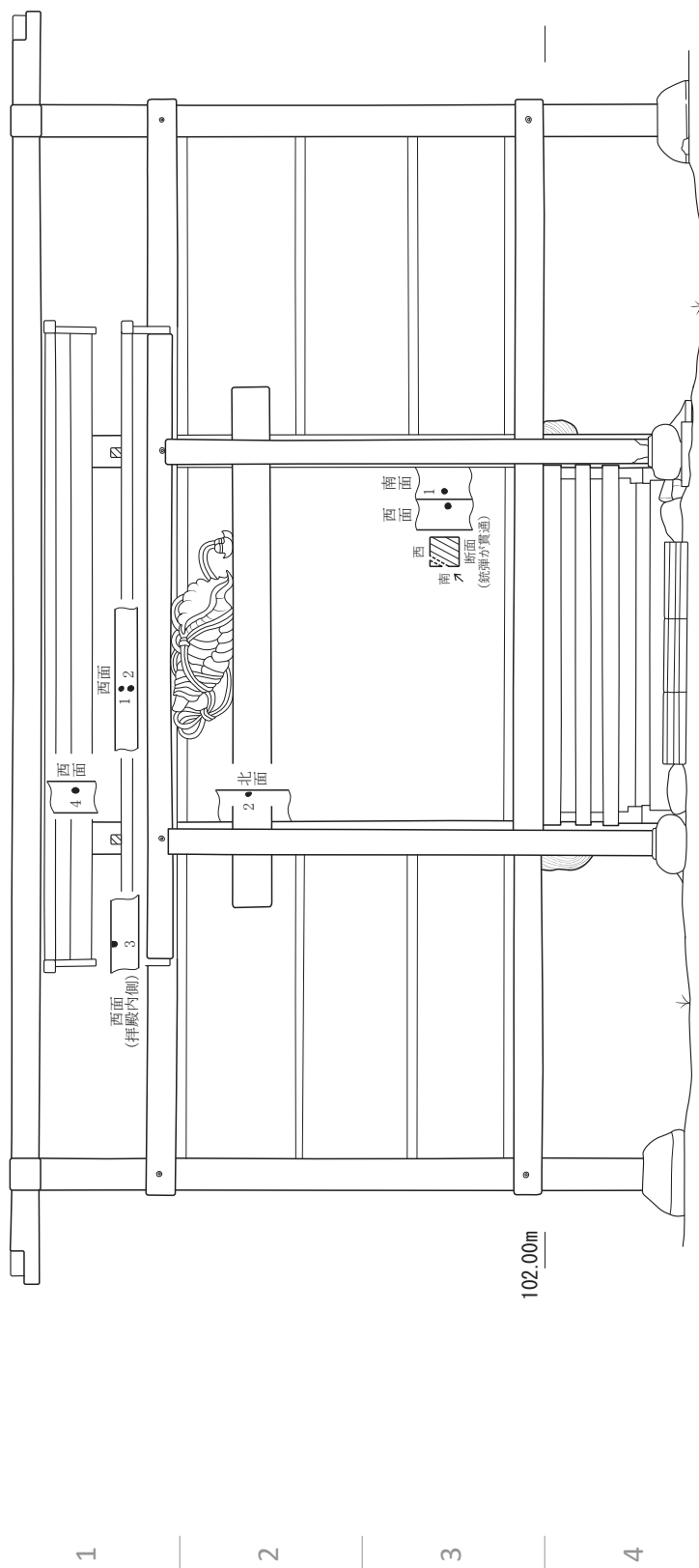


第 73 図 熊野座神社 社殿展開図 (1 / 150)

A | B | C | D | E | F

北 →

南 ←



※ → は銃弾の飛来方向を示す

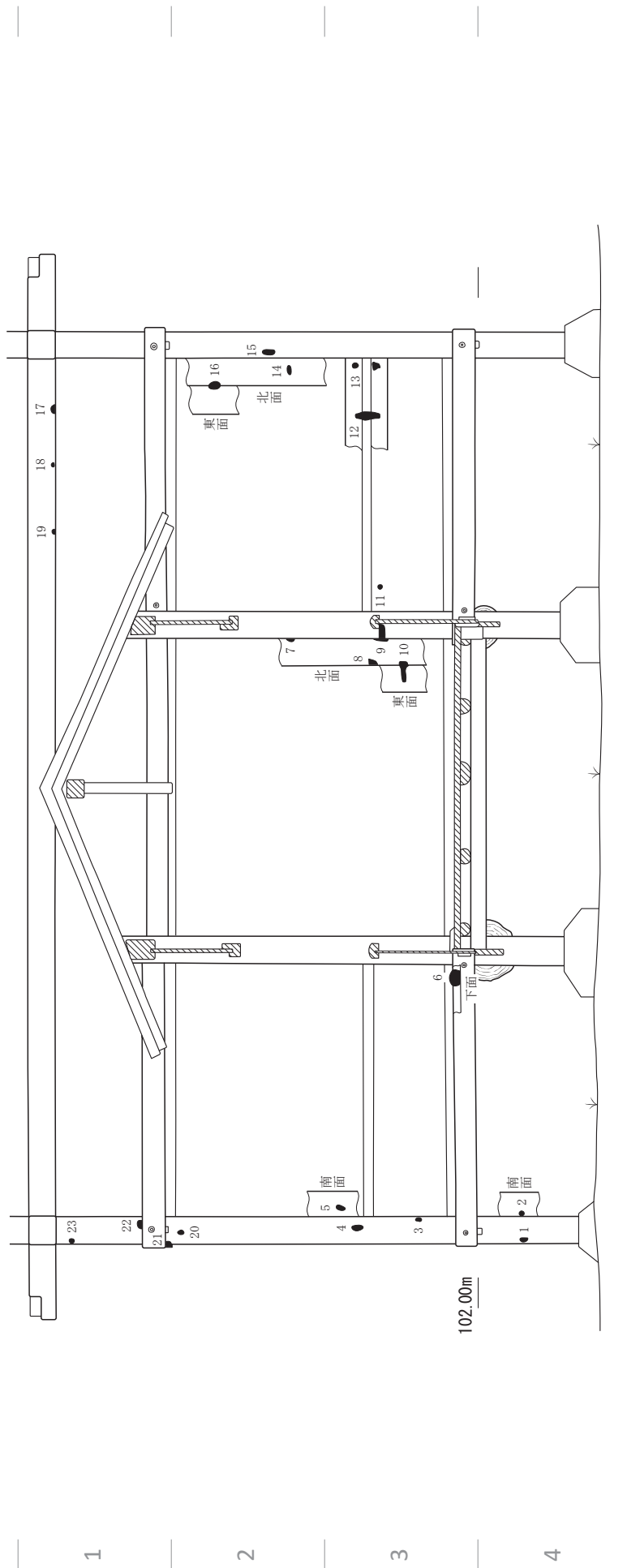


第74図 熊野座神社 拝殿軒・正面(東面) (1/40)

A | B | C | D | E | F

南 →

北 ←

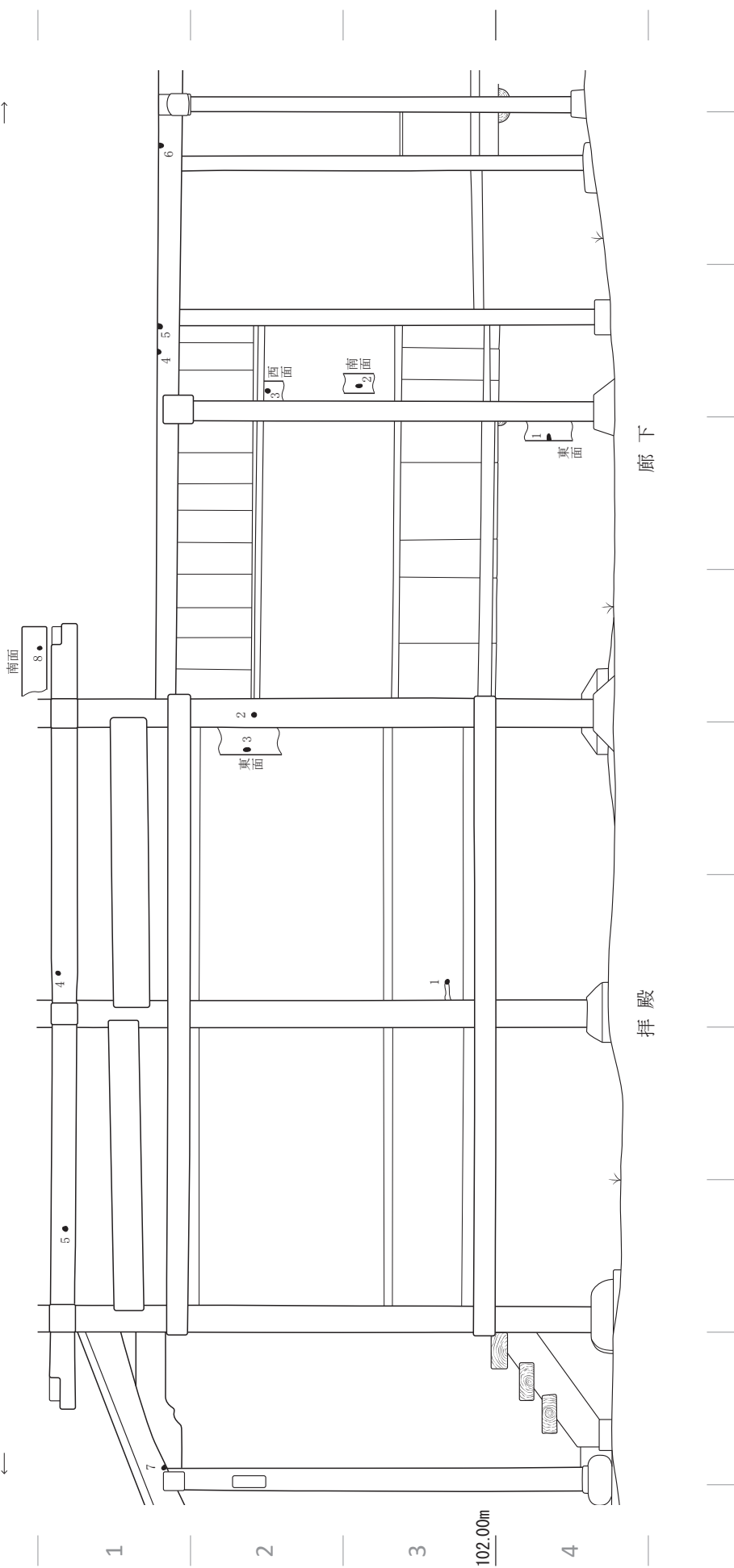


第 75 図 熊野座神社 拝殿背面 (西面) (1 / 40)

A | B | C | D | E | F | G | H | I

西 →

東 ←

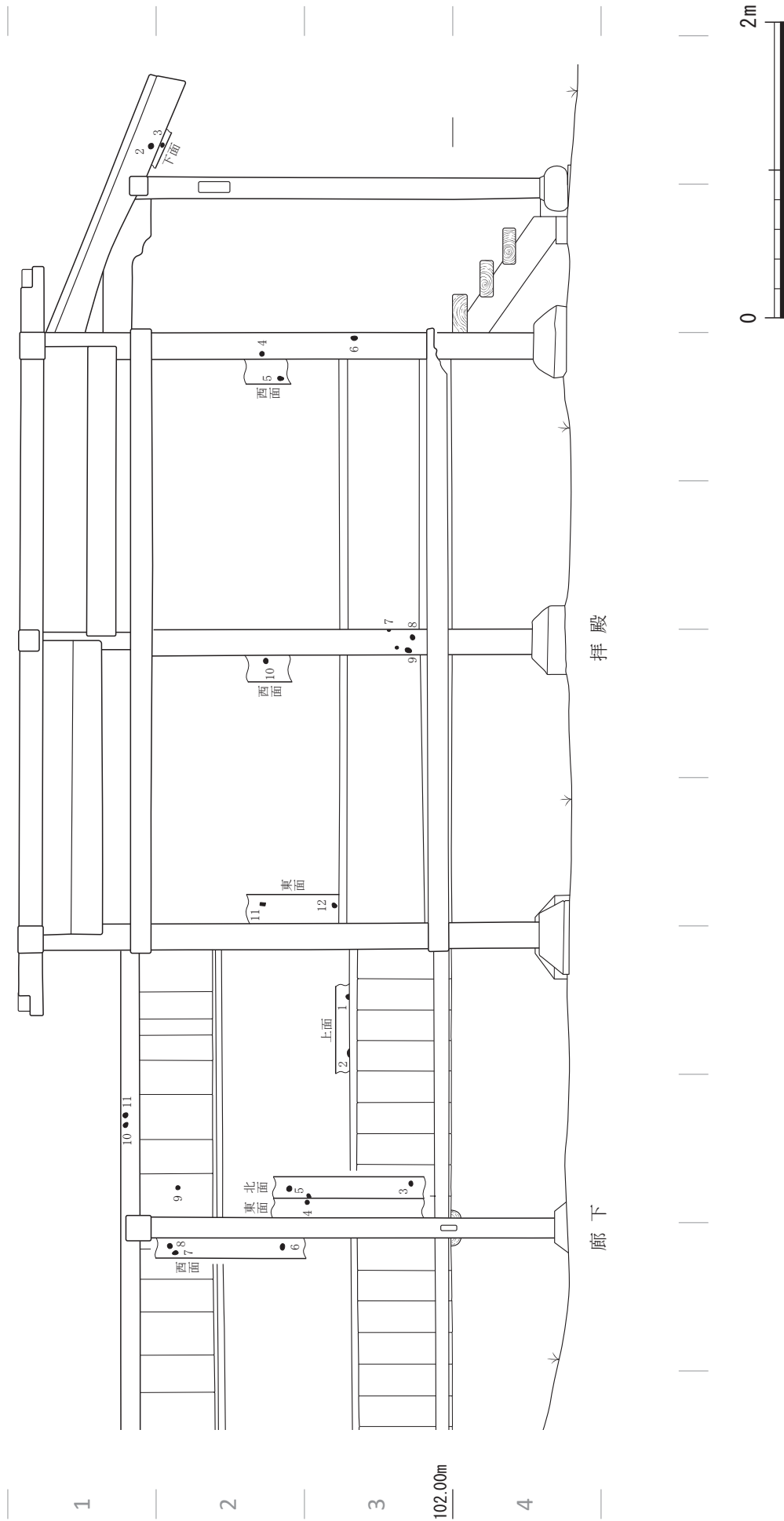


第76図 熊野座神社 拝殿・廊下 右面(北面) (1/40)

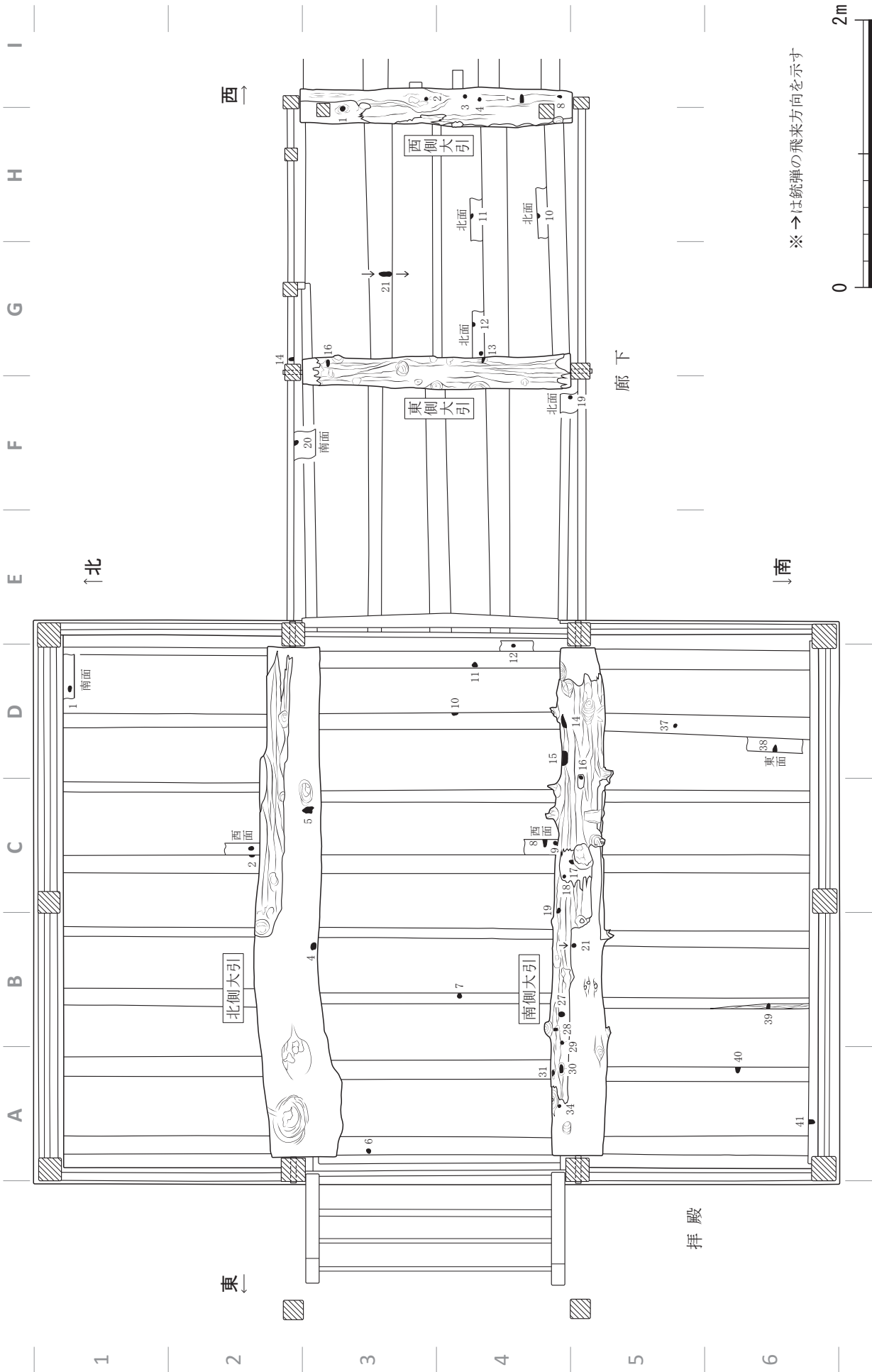
A | B | C | D | E | F | G | H | I

東 →

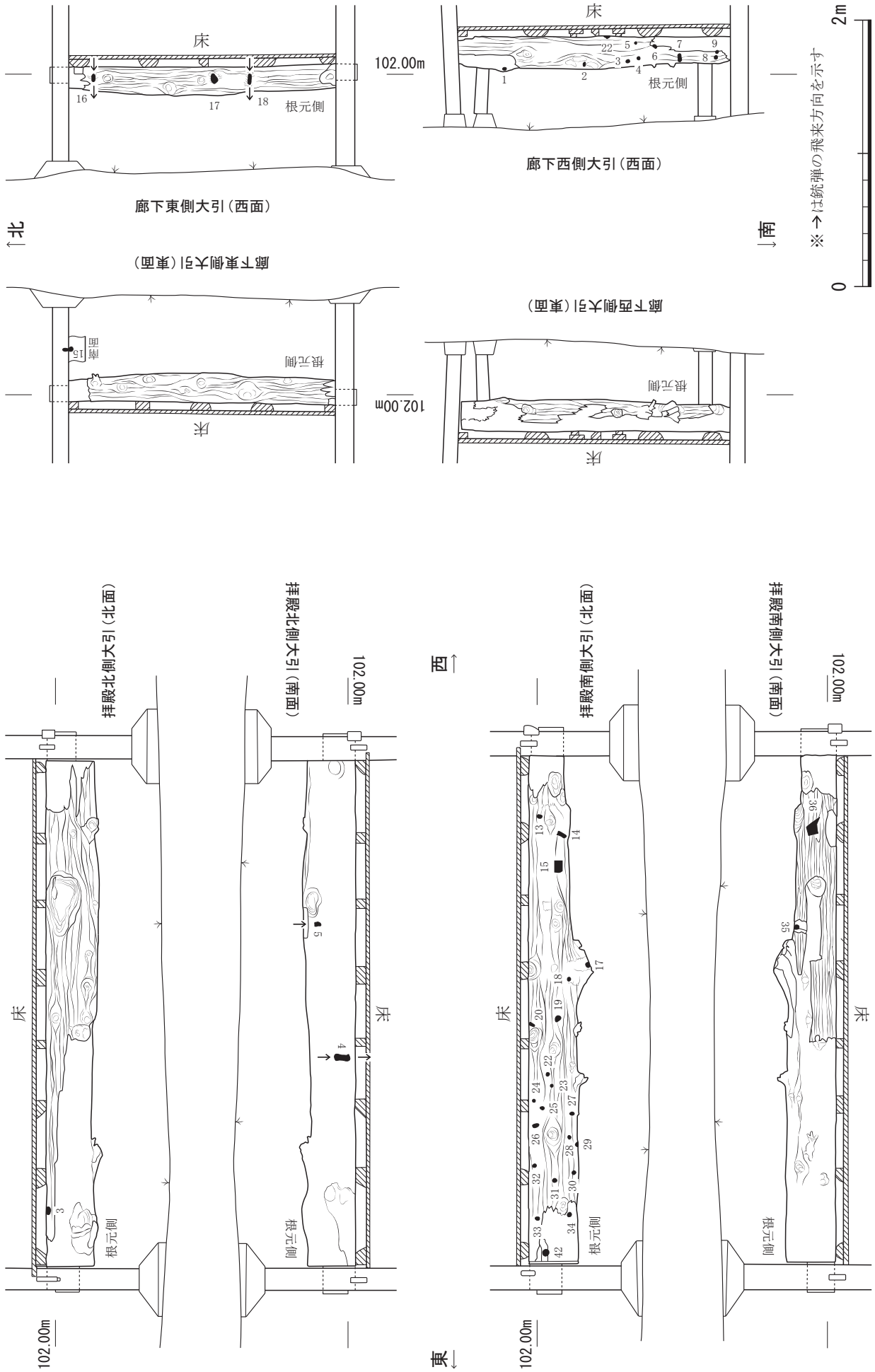
西 ←



第77図 熊野座神社 拝殿・廊下 左面(南面) (1/40)



第78図 熊野座神社 拝殿・廊下 床下見上図 (1/40)



第79図 熊野座神社 拝殿・廊下床下大引側面図(1/40)

第9表 熊野座神社 拝殿・廊下 弾痕計測表 * 単位cm、表内()は大きさ

拝殿 正面・向拝 (東面) (第74図)						弾痕6ヶ所	
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考	
向拝	1	(2.8×1.8)	—	2.1	C 1	弾と陶栓が見える、スナイデル銃弾、直入	
	2	(2.9×2.7)	—	1.7	C 1		
主柱	1	1.6×1.5	1.2×1.0	長さ5.8	D 3	ノミで割ってある、南から西へ貫通	
	2	(3.6×2.9)	—	—	C 2	弾が見える	
	4	(4.0×2.5)	—	0.8	B 1		
桁	3	(3.8×2.5)	—	—	B 1	中に弾が残存している可能性あり	
拝殿 背面 (西面) (第75図)						弾痕23ヶ所	
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考	
主柱	1	(7.6×2.0)	—	3.3	A 4		
	2	(1.1×1.0)	—	2.9	A 4	弾が見える、スベンスナー銃弾かシャープス銃弾	
	3	(3.5×1.9)	—	1.8	A 3		
	4	(5.5×2.4)	—	1.4	A 3		
	5	(3.0×1.8)	—	1.4	A 3		
	7	(4.6×2.1)	—	2.2	D 2		
	8	(3.0×2.3)	—	5.3	D 3		
	9	(9.3×2.9)	—	—	D 3	四斤砲弾痕の可能性あり	
	10	(10.1×1.8)	—	—	D 3	四斤砲弾痕の可能性あり	
	14	(6.1×2.6)	—	1.8	F 2	中に弾が残存している可能性あり	
貫	15	(4.5×2.3)	—	1.3	F 2		
	16	(5.0×1.9)	—	4.6	F 2	弾は見えないが金属探知機反応あり	
	20	2.8×2.7	—	4.2	A 2	弾の破片(2点)が見える、弾はちぎれている?	
	21	(2.0×1.8)	—	3.1	A 1		
	22	3.5×3.5	—	1.3	A 1	長さ3.4cm、中に弾が残存している可能性あり	
	23	2.5×1.5	0.8×0.8	3.6	A 1	弾痕が見える、スベンスナー銃弾かシャープス銃弾	
	17	(1.5×1.5)	—	1.0	F 1		
	18	(3.4×1.8)	—	1.0	F 1		
壁板	19	(2.4×1.0)	—	1.5	E 1		
	6	(9.5×2.2)	—	—	B 3	ノミで割ってある	
	11	(1.7×1.5)	—	—	E 3	真裏から貫通、板材の厚み2cm	

手摺						弾痕7ヶ所	
手摺	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考	
手摺	12	(8.0×4.5)	—	—	F 3	ノミで割ってある、手摺西側が上から下までえぐれている、貫通、入口穴の大きさ1.6cm	
	13	(1.9×1.6)	7.5×5.5	—	F 3	ノミで割ってある、上から下に貫通	
拝殿 右面 (北面) (第76図)						弾痕6ヶ所	
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考	
主柱	2	(3.7×3.4)	—	4.6	F 2	ノミで割ってある、中に弾が残存している可能性あり	
	3	(7.0×2.4)	—	1.1	E 2	正面から、ノミで割ってある	
桁	4	(2.3×1.2)	—	2.1	D 1		
	5	2.3×1.8	—	0.8	B 1	弾痕が見える、スナイデル銃弾	
	8	(4.2×1.9)	—	3.0	F 1		
庇	7	(4.0×1.8)	—	2.8	A 1	中に弾が残存している可能性あり	
	1	1.5×1.2	—	—	D 3	裏から貫通している	
※ No.6は穴番							

廊下 右面 (北面) (第76図)						弾痕6ヶ所	
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考	
主柱	1	2.0×1.5	2.1×1.9	長さ5.1	G 4	貫通、弾は南から入っている	
	2	(4.6×3.0)	—	1.8	H 3		
	3	(5.8×2.7)	—	1.4	H 2		
桁	4	(4.8×3.7)	—	—	H 1		
	5	(6.8×2.9)	—	—	H 1		
	6	(3.8×3.0)	—	—	I 1	弾が見える、スナイデル銃弾、かなり変形	

拝殿 左面 (南面) (第77図)						弾痕11ヶ所	
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考	
主柱	4	3.7×3.5	0.8×0.8	8.6	G 2	弾痕が見える、直入	
	5	5.5×2.8	2.0×0.5	3.2	G 2		
	6	4.3×2.5	2.3×1.6	2.4	G 3		
	7	(4.8×2.6)	—	—	E 3		
	8	2.4×2.0	—	2.5	E 3	弾痕が見える、直入	
	9	(5.6×1.8)	—	2.5	E 3	ノミで割ってある	
	10	(2.5×2.1)	—	1.1	E 2		
壁板	11	4.5×2.5	1.8×1.0	6.1	D 2	弾痕が見える、ノミで割ってある	
	12	4.8×3.1	1.5×1.0	4.8	D 3	弾は見えないが金属探知機反応あり、ノミで割ってある	

庇	2	6.5 × 0.9	—	1.1	I 1	弾が見える、裏側にも弾痕あり
	3	(6.8 × 2.5)	—	1.0	I 2	
	※ No. 1 は欠番					

弾痕11ヶ所

廊下左面(南面) (第77図)	部材	No.	入口径/(大きさ)	口径	深さ	出土位置	備考
		4	(2.4 × 2.3)	3.3 × 2.0	長さ6.5	B 3	北から貫通している
	主	5	(3.5 × 2.6)	—	—	B 2	北から入っている、中に弾が残存している可能性あり
	柱	6	(4.8 × 1.9)	—	—	A 2	北西から入っている
		7	3.5 × 2.8	1.3 × 1.3	3.9	A 2	北西から入っている
		8	4.3 × 2.3	1.3 × 1.3	5.3	A 2	北西から入っている
	桁	10	(4.0 × 3.5)	—	5.1	B 1	一部ノミで削ってある
		11	(3.8 × 1.8)	—	3.6	B 1	弾あり? 斜めに入っている
	手	1	(4.3 × 2.8)	—	—	C 3	
	摺	2	(10.5 × 3.3)	—	—	C 3	四斤砲弾痕の可能性あり
	壁	3	(4.9 × 3.0)	—	—	B 3	
	板	9	2.7 × 2.1	—	1.3	B 2	板の厚み1.6cm、東から入っている

弾痕42ヶ所

拝殿床下見上図・側面図 (第78・79図)	部材	No.	入口径/(大きさ)	口径	深さ	出土位置	備考
		1	(7.8 × 1.5)	—	—	D 1	
		2	(2.5 × 1.9 × 1.8)	—	—	C 2	
		6	2.8 × 2.5	1.3 × 1.4	4.3	A 3	
		7	(5.3 × 2.5)	—	1.0	B 4	擦過痕
		8	(5.4 × 3.2)	—	—	C 4	直入
		9	(2.8 × 1.4)	—	—	C 4	直入
	根	10	3.3 × 2.5	1.8 × 1.0	3.1	D 4	弾が見える、斜入
	太	11	(4.5 × 3.9)	—	—	D 4	擦過痕
		12	(4.5 × 3.4)	—	5.1	D 4	弾が見える、直入
		37	3.1 × 2.5	1.5 × 1.0	3.4	D 5	直入
		38	(6.4 × 3.5)	—	—	D 6	擦過痕、木が自己修復している
		39	(3.3 × 2.5)	—	—	B 6	直入、擦過痕、木が自己修復している
		40	(5.8 × 4.3)	—	2.8	A 6	直入
		41	(5.5 × 2.3)	—	—	A 6	直入

北側大引	3	1.5 × 1.3	0.8 × 0.8	2.1	A 2	直入
	4	10.5 × 5.2 ~ 3.3	—	1.8	B 3	擦過痕
	5	4.8 × 2.3	1.0 × 1.0	8.3	C 3	弾が見える、シャープス銃弾カスベンサー銃弾、直入
	13	2.0 × 2.0	1.3 × 1.3	6.3	D 4	弾が見える、直入
	14	2.8 × 2.5	1.3 × 1.0	4.5	D 4	弾が見える、直入
	15	9.7 × 8.0	—	2.2	D 4	ノミで樹皮を削って弾を取り出した可能性がある
	16	1.5 × 1.3	1.1 × 1.1	5.5 (2.3)	D 5	弾が見える、直入、まわり13.4 × 8.5cm、深さ3.3cmをノミでえぐっている
	17	1.5 × 1.4	1.3 × 1.1	4.5	C 4	弾が見える、直入
	18	4.3 × 3.8	1.3 × 1.3	2.8	C 4	直入
	19	3.5 × 2.5	1.5 × 1.3	6.8	C 4	弾が見える、直入
	20	7.9 × 5.0	—	1.1	B 4	擦過痕
	21	6.1 × 5.1	3.1 × 1.8	2.8	B 5	北からの深い跳弾痕
	22	2.1 × 2.0	1.2 × 1.3	7.3	B 4	弾が見える、直入
	23	1.5 × 1.3	0.9 × 0.9	4.7	B 4	見えない、直入
	24	5.8 × 2.8	1.5 × 1.6	0.8	B 4	跳弾痕
	25	3.0 × 2.5	1.6 × 1.3	7.3	B 4	弾が見える、直入
	26	5.5 × 3.5	2.5 × 1.3	1.9	B 4	跳弾痕
	27	5.5 × 4.3	1.3 × 1.4	4.6	B 4	弾が見える、斜入
	28	3.0 × 2.3	1.3 × 1.5	4.9	B 4	弾が見える、直入
	29	3.0 × 2.7	1.3 × 1.3	5.5	B 4	弾が見える、直入
	30	6.4 × 3.8	2.4 × 1.3	8.4	A 4	弾が見える、斜めになっている
	31	5.2 × 4.1	3.1 × 2.5	7.5	A 4	弾が見える、斜めになっている
	32	3.8 × 3.1	1.5 × 1.3	6.0	A 4	弾が見える、直入
	33	3.8 × 3.2	1.7 × 1.3	7.5	A 4	弾が見える、直入
	34	2.9 × 2.3	1.5 × 1.3	4.3	A 4	弾が見える、直入
	35	2.0 × 5.4	—	—	C 5	直入、まわり15.1 × 10.4cm、深さ3.8cmをノミでえぐって弾を取り出している
	36	1.3 × 1.3	—	—	D 5	直入、まわり13.5 × 10.5cm、深さ8.0cmをノミでえぐって、弾を取り出している
	42	8.1 × 4.5	1.1 × 1.3	7.1	A 4	弾が見える、直入

廊下床下見上図・側面図 (第78・79図)

弾痕22ヶ所

部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	長さ	出土位置	備考
主柱	15	2.4×1.5	—	長さ4.9	F 2	貫通
	14	(2.3×1.0)	—	—	G 2	貫通
	19	1.8×1.3	1.2×1.1	0.9	F 4	貫通
	20	(2.4×2.0)	0.8×0.8	—	F 2	貫通
根太	10	(2.3×1.8)	最大10.5×2.3	—	H 4	
	11	(2.8×0.8)	最大3.5×3.2	—	H 4	
	12	(4.5×1.5)	最大13×2.1	—	G 4	
	13	1.6×1.2	0.8×0.8	1.7	G 4	直入
	21	(6.0×1.9)	—	—	G 3	擦過痕
東側大引	16	8.3×0.8~3.3	—	1.2	G 3	擦過痕
	17	8.1×6.3	2.1×2.3	2.8	G 4	擦過痕か跳弾痕、四斤砲弾痕の可能あり、最大幅10.5 cm
	18	13.8×1.0~3.5	—	1.6	G 4	擦過痕
西側大引	1	2.3×2.1	1.3×1.3	1.3	I 3	浅い
	2	3.4×0.8	1.3×1.3	2.1	I 3	浅い
	3	2.5×1.3	1.3×1.0	0.8	I 4	浅い
	4	3.4×2.3	1.0×1.0	3.7	I 4	浅い
	5	(9.3×4.3)	—	2.4	I 4	浅い、ノミで削り弾を取り出ししている 四斤砲弾痕の可能性あり
	6	(2.5×1.4)	—	—	I 4	擦過痕浅い
	7	7.7×1.3	—	—	I 4	擦過痕深い
	8	(3.5×3.5)	—	1.3	I 4	浅い、跳弾痕
9	(3.4×1.8)	—	0.9	I 4	浅い	
22	(2.7×1.5)	—	—	I 4	浅い	

拝殿天井見上図 (第80図)

弾痕2ヶ所

部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	長さ	出土位置	備考
桁	6	10.4×1.0~1.9	—	—	C 1	15~20 cmは弾が貫入している
梁	1	(4.3×1.8)	—	1.7	D 7	ノミで削ってある
		4.5×2.5	1.9×1.3	1.3		

廊下天井見上図 (第80図)

弾痕17ヶ所

部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	長さ	出土位置	備考
桁	1	2.5×2.0	1.0×1.0	4.3	G 4	弾が見える、直入
	2	2.2×1.3	1.8×1.0	2.0	H 5	弾が見える、直入
	3	2.8×1.3	1.3×1.1	長さ6.5	H 4	貫通、現状で北から南へ入っている
	4	2.5×1.2	1.0×1.0	2.1	I 5	弾が見える、スナイデル銃弾
	5	7.2×1.8	—	—	I 4	擦過痕
	7	(4.6×3.0)	—	1.3	J 5	弾は見えないが金属探知機反応あり
	10	2.1×2.0	—	1.1	K 5	
	11	(3.0×2.3)	—	—	K 4	弾が見える
	12	(1.4×1.4)	—	—	K 5	弾が見える
	13	2.0×1.9	1.0×1.0	3.1	K 5	弾は見えないが金属探知機反応あり
	14	3.8×1.8	—	1.6	K 5	弾が見える
	15	(2.0×2.0)	—	—	I 5	
	16	5.5×1.8	—	1.1	K 5	
	6	1.2×1.0	—	長さ4.3	I 4	
	8	2.3×1.5	—	0.8	J 5	
	9	3.2×2.3	—	2.1	K 5	
17	9.3×2.5	—	—	I 3		

拝殿・廊下弾痕合計 147ヶ所

※ 直入 … 銃弾が正位で、樹木に撃ち込まれたもの。

射入口は円形で、径も銃弾と同径。

※ 斜入 … 銃弾が斜位で、樹木に撃ち込まれたもの。

射入口は不定円形で、径は弾径よりも大きい。

※ 擦過痕 … 銃弾が樹皮をかすめて通過した痕跡。

樹皮繊維の裂けた方向で、銃弾の飛来方向が分かる。

大きさと形状の違いで、四斤砲弾片とみられるものもある。

※ 跳弾痕 … 形状は擦過痕に似るが、銃弾は通過しておらず、片方に衝突痕がある。

※ 樹皮が残る大引については、弾痕調査後に保護のため白アリ防除剤を抽出し、

開口部はシリコンコーキング剤で塞いだ。

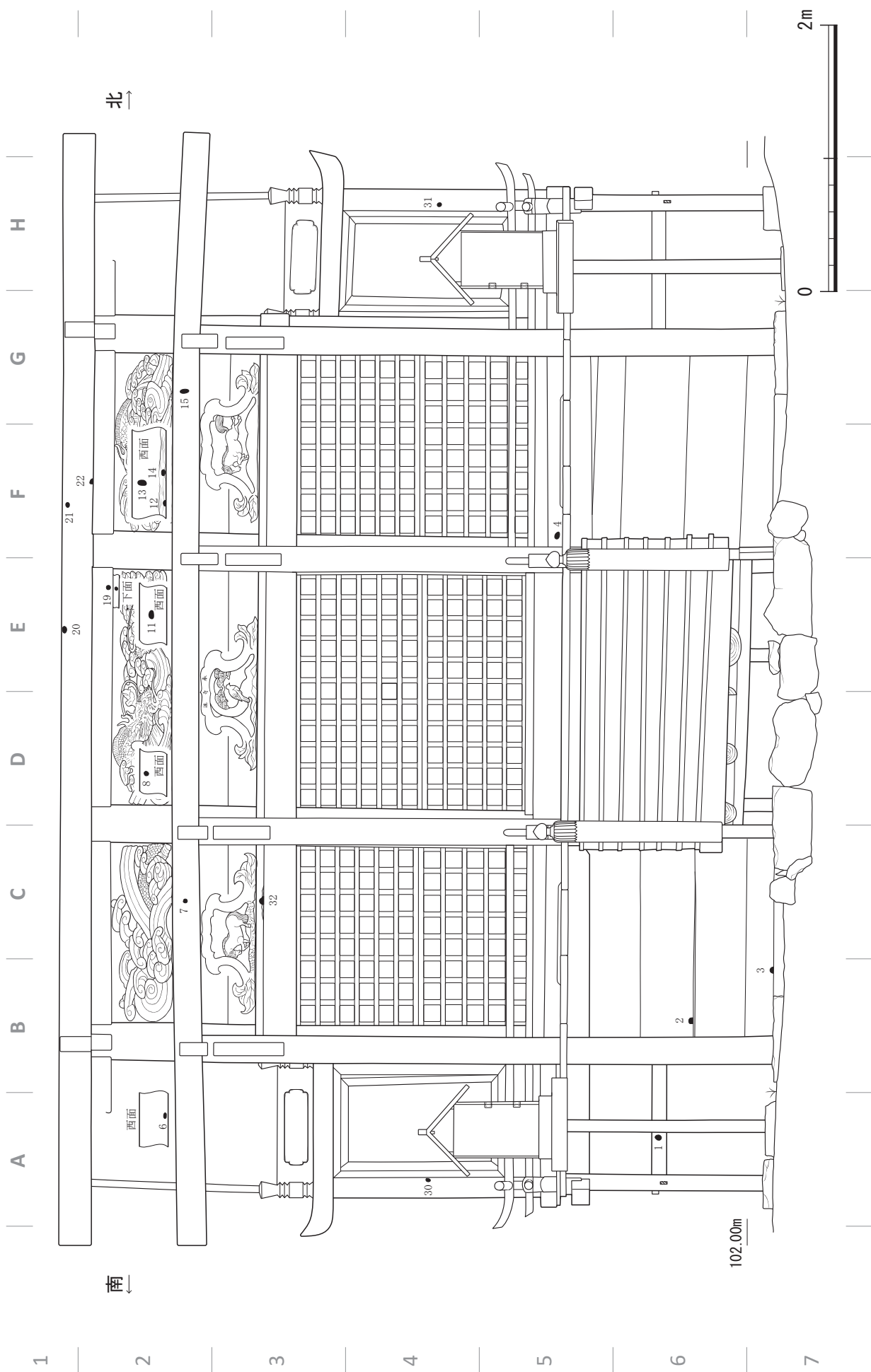
塞いだ弾痕

・ 拝殿床下 北側大引 No. 5

・ 拝殿床下 南側大引 No. 13,16,17,19,22,23,25,27,28,29,30,31,32,33,34,42

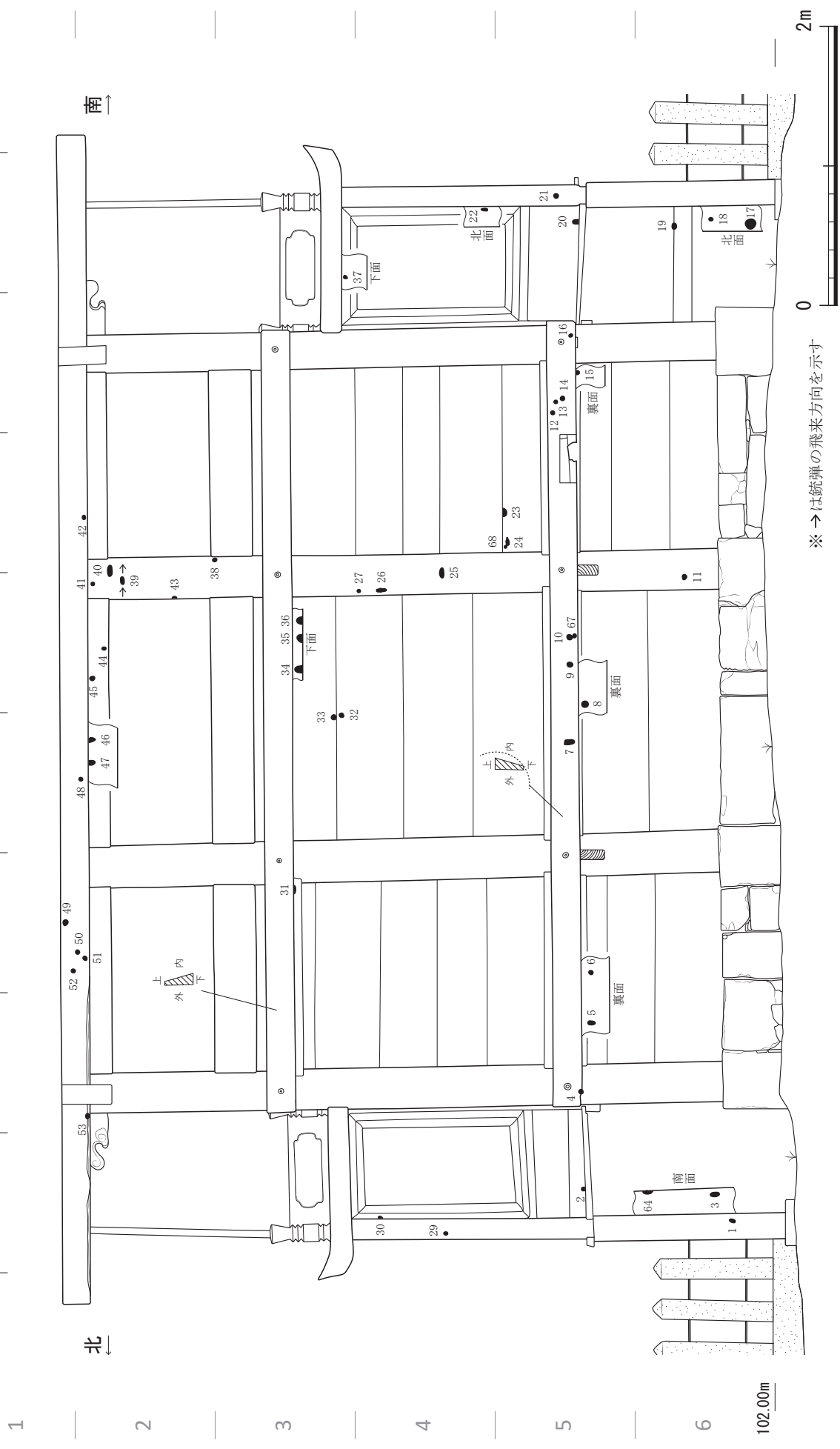
・ 廊下床下 西側大引 No. 4

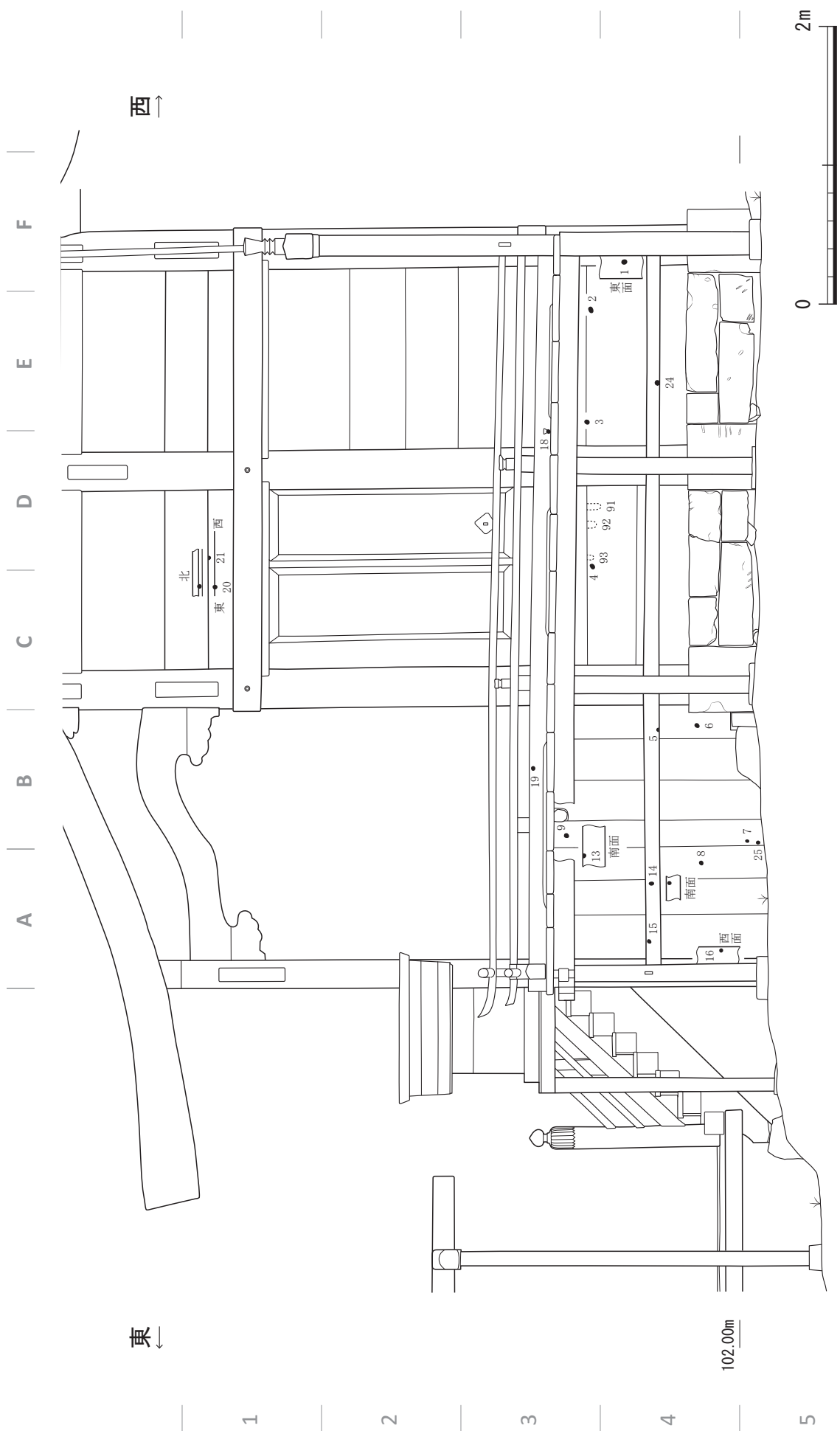
なお、白アリ防除剤はできるだけすべての弾痕に抽出するようにした。



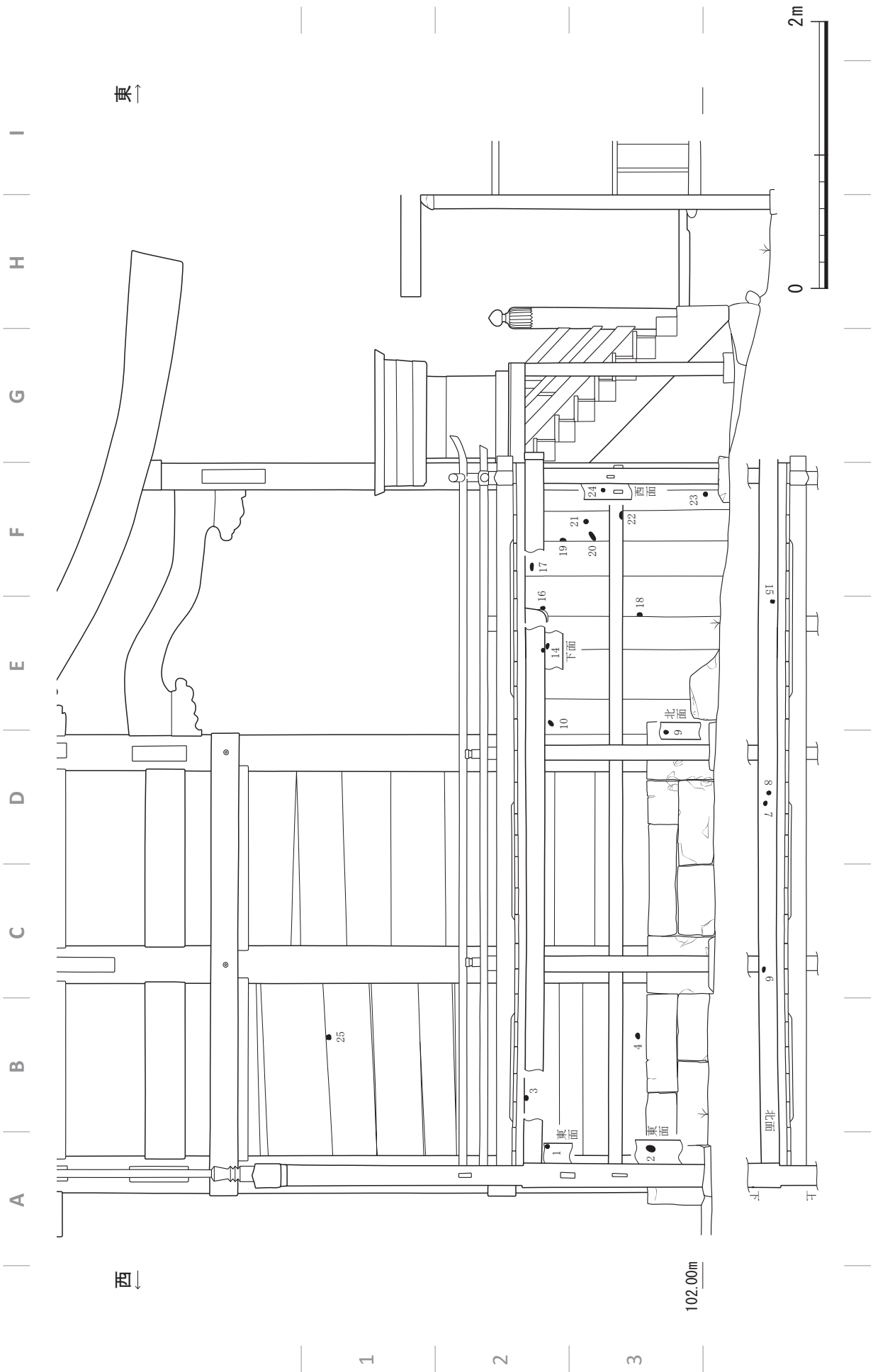
第81図 熊野座神社 本殿正面(東面)(1/40)

第 82 図 熊野座神社 本殿背面（西面）（1 / 40）

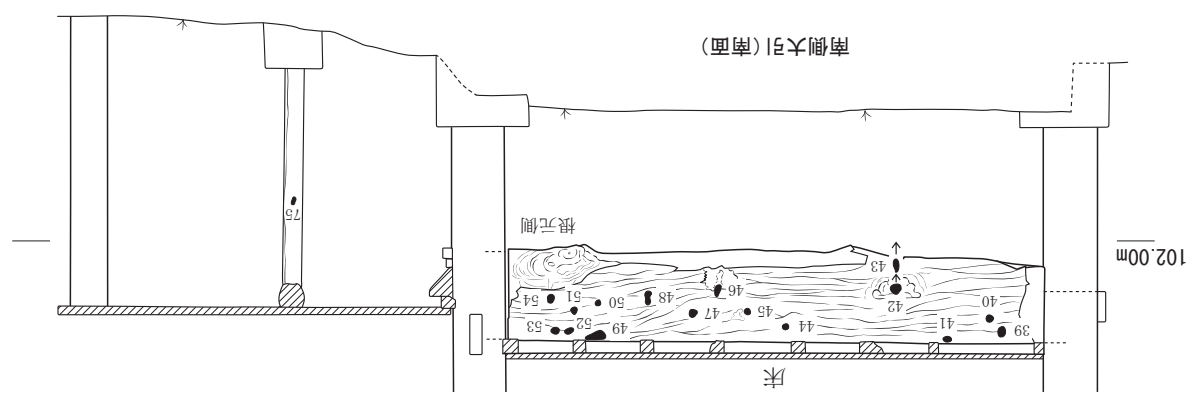
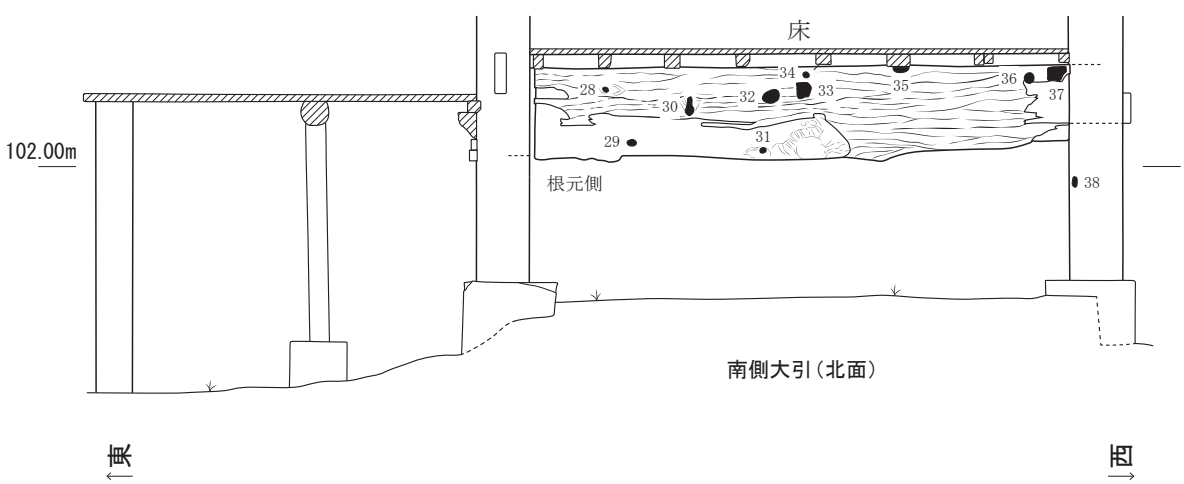
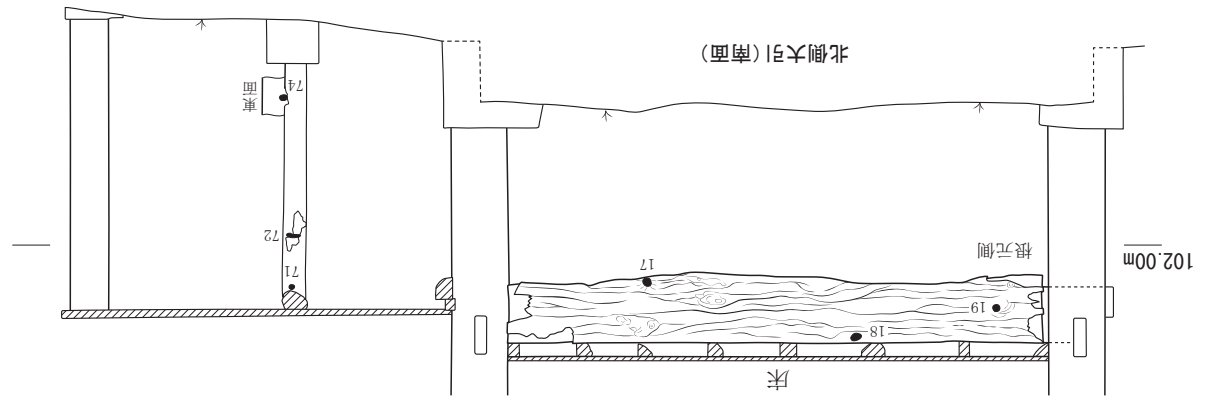
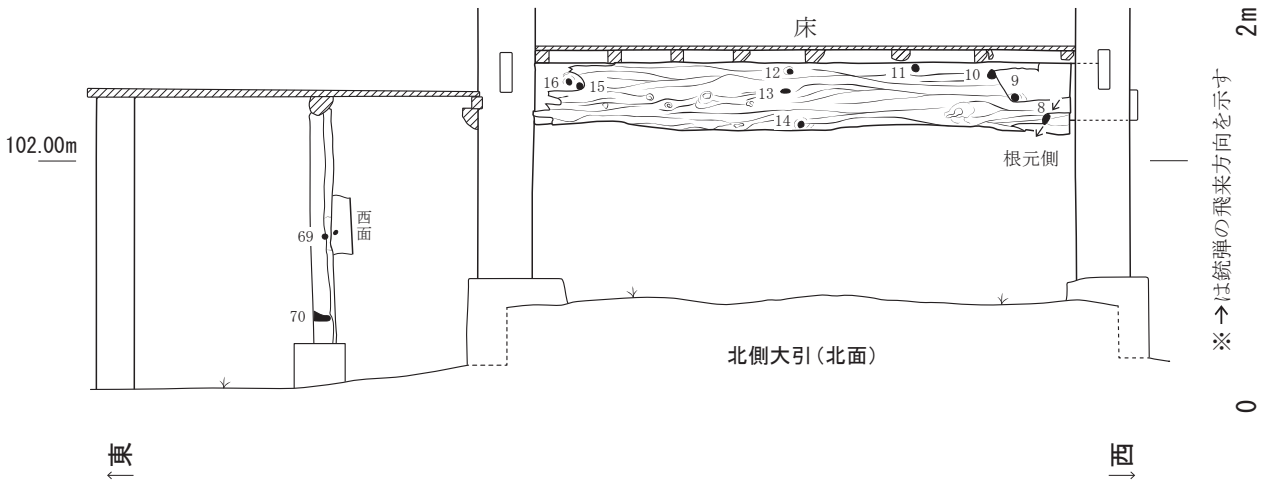




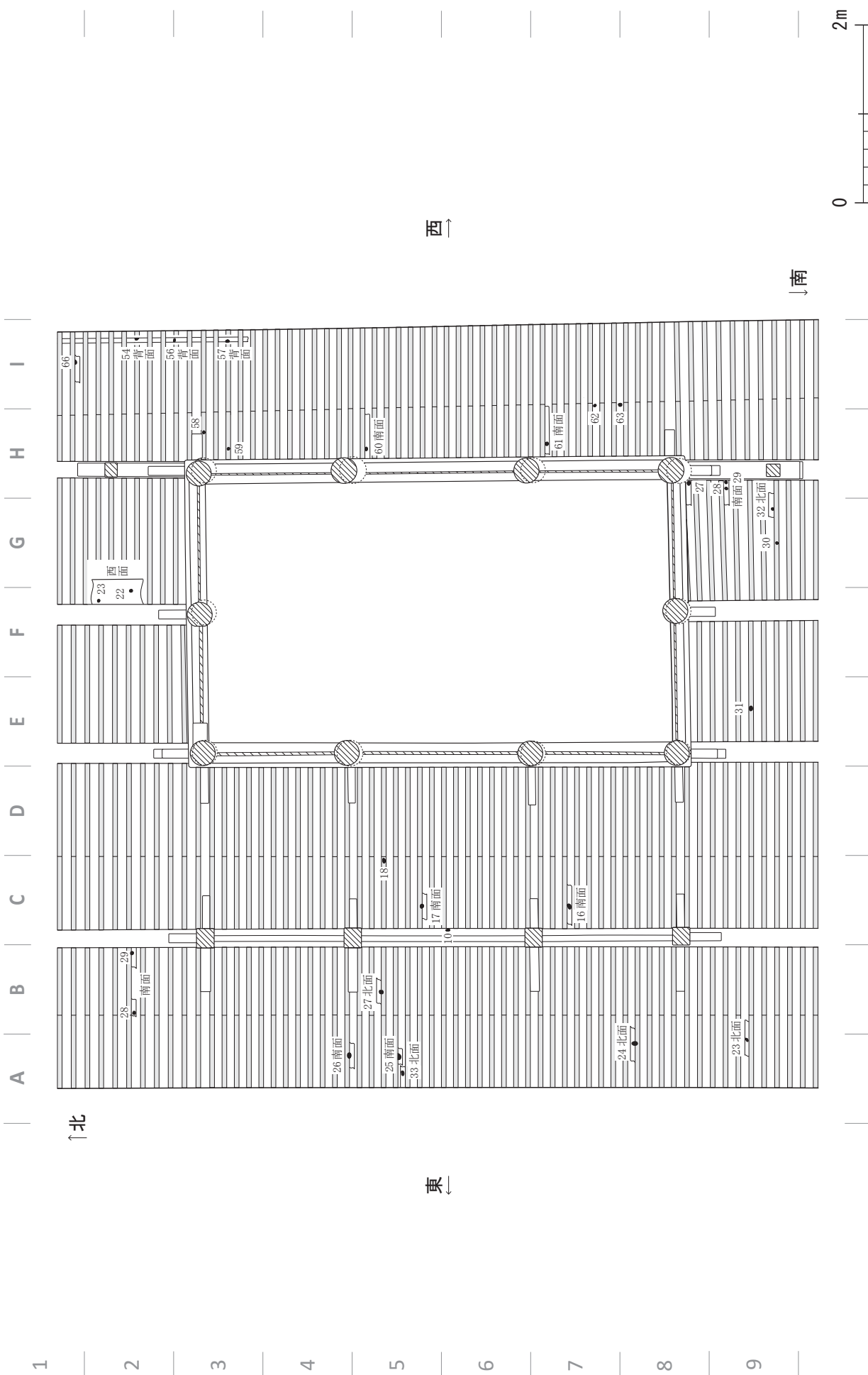
第 83 図 熊野座神社 本殿右面 (北面) (1 / 40)



第84図 熊野座神社 本殿左面(南面) (1/40)



第 86 図 熊野座神社 本殿床下大引側面図 (1 / 40)



第87図 熊野座神社 本殿・軒 天井見上図 (1/60)

第10表 熊野座神社 本殿 弾痕計測表 * 単位cm、表内()は大きさ

本殿正面(東面) (第81図)					弾痕19ヶ所					
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考				
桁	20	7.0×2.8	—	1.3	E 1					
	21	4.0×1.5	—	4.1	F 1	弾底が見える、スナイデル銃弾				
	22	3.3×2.1	—	1.0	F 2					
	19	1.2×1.0	—	4.4	E 2	弾が見える、貫通なし				
	6	(3.0×2.1)	—	3.8	A 2	樹皮近く				
庇	7	(4.8×1.8)	—	2.1	C 2	ノミで削ってある				
	8	3.1×1.9	1.8×1.5	7.3	D 2					
	11	(6.1×3.5)	—	5.4	E 2	ノミで削ってある				
	12	4.8×1.1	—	—	F 2	擦過痕				
	13	5.0×3.9	—	2.1	F 2	ノミで削ってある				
縁貫	14	5.3×2.1	—	2.5	F 2	ノミで削ってある、樹皮近く				
	15	6.0×1.3	—	—	G 2					
	1	(3.1×1.9)	—	0.9	A 6	廻り縁の下横材、製材の時に弾はとれて いる、貫通なし				
	4	(4.1×3.5)	—	1.8	F 5					
	2	(3.0×2.0)	—	0.9	B 6	製材の時に弾はとれている、貫通なし				
横 嵌 板	3	(4.0×1.8)	(1.8×1.3)	—	B 7	製材の時に弾はとれている、貫通なし				
	30	(2.9×2.1)	—	1.9	A 4	弾入口				
脇 障 子	31	(4.3×2.2)	—	—	H 4					
	32	(4.5×3.0)	—	—	C 3	左側左馬の彫物、彫物厚み5cm、樹皮残る				
※ No.5・9は穴番、No.10・16~18・23~29・33は本殿・軒天井上図(第87図)にあり										

本殿背面(西面) (第82図)					弾痕55ヶ所					
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考				
主 柱	11	4.1×2.6	—	3.0	E 6	中に弾が残存している可能性あり				
	25	10.3×3.0	—	—	F 4	擦過痕、方向不明				
	26	5.5×1.8	—	1.8	E 4	弾が見える、正面から				
	27	2.0×1.8	—	—	E 4					
	38	3.3×2.8	—	2.9	F 2	金属探知機反応なし				
縁 束	39	12.8×3.8	—	—	E 2	擦過痕、北から南へ貫通				
	40	8.5×3.8	—	—	F 2	擦過痕、銃弾の飛来方向は不明				
	41	1.5×1.5	—	1.2	E 2					
	43	2.0×1.5	—	1.3	E 2					
	17	6.8×4.5	1.3×1.3	5.9	H 6	直入				

本殿正面(東面) (第81図)										
部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考				
桁	42	4.0×2.5	—	1.0	F 2	浅い				
	46	5.3×4.1	—	—	D 2					
	47	5.8×2.5	—	—	D 2	弾が見える(かなり変形)				
	48	3.5×1.8	—	2.6	D 2					
	49	4.5×1.5	—	—	C 1					
	50	3.5×1.8	—	3.4	C 2	弾入口、中に弾が残存している可能性あり				
	51	2.0×1.0	—	2.1	C 2	弾入口、中に弾が残存している可能性あり				
	52	3.8×1.4	—	3.0	C 1					
	53	(6.0×3.0)	—	—	B 2	擦過痕				
	44	1.5×1.5	—	0.5	E 2					
頭 貫	45	4.0×1.8	—	—	E 2					
	31	(4.0×2.9)	—	1.4	C 3					
長 押	34	(5.9×4.3)	—	2.4	E 3	ノミで削ってある				
	35	(5.8×4.3)	—	2.5	E 3	ノミで削ってある				
	36	(4.3×4.3)	—	2.9	E 3	ノミで削ってある				
	4	(2.1×1.4)	—	1.5	B 5	弾出口				
	5	5.8×0.8	—	—	B 5	弾が見える				
地 長 押	6	1.8×1.3	—	1.0	C 5	貫通していない、浅い穴				
	7	(7.8×4.8)	—	9.2	D 5	ノミで削ってある				
	8	(4.1×3.9)	—	2.1	E 5	ノミで削ってある				
	9	0.8×0.8	2.7×1.9	長さ5.6	E 5	弾出口				
	10	0.5×0.5	1.4×1.0	長さ4.6	E 5	弾出口				
	12	0.9×0.9	1.1×1.2	長さ7.3	G 5	樹液で自己修復している、貫通、 弾は見えないが金属探知機反応あり				
	13	1.0×1.0	1.2×0.9	長さ5.6	G 5	樹液で自己修復している、貫通				
	14	1.0×1.0	2.0×1.3	長さ11.5	G 5	弾出口				
	15	5.8×1.9	—	2.0	G 5	最大11.1×7.1cm、大きくて深い、砲弾片か?				
	16	0.6×0.6	1.8×1.8	3.1	G 5	貫通				
縁 束	67	0.6×0.6	0.6×0.9	長さ1.9	E 5	弾出口				
	1	(3.9×1.1)	—	1.4	A 6	弾尻が見える、陶栓はない、直入				
	3	(4.9×2.5)	—	1.9	A 6					
	17	6.8×4.5	1.3×1.3	5.9	H 6	直入				
	18	(3.8×3.0)	—	1.4	H 6	直入				
	64	(0.9×0.8)	—	—	A 6	弾が見える				

縦 嵌 板	6 7 8 9 25	(2.5 × 1.9) (2.3 × 1.8) (4.2 × 3.1) (2.6 × 1.9) (2.3 × 2.1)	— — — — —	B4 B5 A4 B3 B5	貫通 貫通 貫通 貫通 貫通
※ No. 17は欠番、No. 10~12・26は本殿・階段床下見上図(第82図)、 No. 22・23は本殿・軒天井見上図(第87図)にあり					
本殿 左面 (南面) (第84図)					
縁 束	1 2 9 24	(3.8 × 2.4) (6.2 × 3.7) 2.5 × 2.0 (2.6 × 2.2)	— 1.4 × 1.0 — —	A2 A3 D3 F3	中に弾が残存している可能性あり 直入 直入
縁 貫	6 7 8 14 15 22	4.1 × 1.2 2.0 × 1.4 1.6 × 1.3 1.1 × 1.0 4.6 × 2.8 (4.0 × 1.4)	1.0 × 1.0 0.8 × 0.8 0.6 × 0.6 長さ3.2 — —	C2 D2 D2 E2 E2 F3	直入、中に弾が残存している可能性あり 直入、中に弾が残存している可能性あり 直入、中に弾が残存している可能性あり 貫通 四斤砲弾片? 貫通
横 嵌 板	3 4 25	(2.3 × 1.8) (4.1 × 2.3) (3.5 × 2.5)	— — —	B2 B3 B1	
縦 嵌 板	10 16 17 18 19 20 21 23	3.8 × 1.3 (3.1 × 1.4) (6.1 × 2.3) (3.0 × 2.3) (3.9 × 1.4) (4.6 × 3.5) (2.0 × 1.0) (1.3 × 1.3)	— — — — 1.3 × 1.3 2.0 × 1.4 1.3 × 1.2 —	E2 E2 F2 E3 F2 F3 F3 F3	貫通 内側から貫通している 貫通 内側から貫通 貫通 貫通 貫通 貫通
※ No. 5・26は欠番、No. 11~13は本殿・階段床下見上図(第82図)、 No. 27~32は本殿・軒天井見上図(第87図)にあり					

横 嵌 板	19 23 24 32 33 68	(3.5 × 1.0) (6.0 × 2.5) 2.5 × 1.4 (8.2 × 7.9) (4.2 × 2.0) 2.7 × 1.6	— — 1.7 — — 0.8	H6 F5 F5 E3 D3 F5	貫通 ノミで割ってある ノミで割ってある 貫通 貫通
脇 障 子	2 20 21 22 29 30 37	(3.6 × 2.6) 4.5 × 3.6 3.2 × 1.6 4.9 × 2.3 (2.8 × 1.6) (2.8 × 1.9) 4.0 × 2.3	— 1.3 × 1.3 1.0 × 1.3 1.3 × 1.0 — 1.9 0.6 3.5	A5 H5 H5 H4 A4 A4 H3	深い、弾入口、中に弾が残存している可能性あり 弾は見えないが金属探知機反応あり、直入 直入 直入 入口、中に弾が残存している可能性あり
※ No. 28・55・65は欠番、No. 54・56~63・66は本殿・軒天井見上図(第87図)にあり					
本殿 右面 (北面) (第83図)					
縁 束	1 16	(4.5 × 3.8) (2.0 × 1.7)	— —	F4 A4	弾尻が見えている
縁 貫	5 13 14 15 24	(2.0 × 0.9) (2.8 × 1.5) (1.8 × 1.3) (2.5 × 1.5) (2.3 × 1.4)	— — — — —	B4 A3 A4 A4 E4	内側から弾が入っている 内側から入っている 内側から入っている
地 覆	18 19	(4.3 × 3.5) (1.8 × 1.3)	— —	E3 B3	弾が見えている、材下に射入口がある、深さ10 cm以上?
横 嵌 板	2 3 4 20 21 91 92 93	(5.5 × 2.5) (1.8 × 1.2) (4.6 × 1.8) (3.4 × 2.0) (5.8 × 1.5) (7.5 × 4.3) (6.0 × 5.5) (3.5 × 0.8)	— — — — — — — —	E4 E4 D3 C1 D1 D3 D3 D3	内側から弾が入っている 内側から弾が入っている 貫通していない 上位横板、板のすき間に弾痕 上位横板 No.は第85図本殿階段床下見上図の続き No.は第85図本殿階段床下見上図の続き No.は第85図本殿階段床下見上図の続き

本殿床下見上図 (第85・86m図)

弾痕98ヶ所

部材	No.	入口径/(大きさ)	口径	深さ	出土位置	備考
主柱	38	2.5×1.8	1.2×1.2	1.7	D7	弾が見える、直入
	87	(2.8×1.2)	—	1.6	C7	—
	88	(1.3×1.2)	—	1.5	C7	—
	89	(5.6×1.5)	—	—	C7	—
	69	3.0×2.5	—	5.6	F3	貫通
	70	(10.3×2.0)	—	—	F3	擦過痕
	71	2.0×2.0	—	5.5	F3	エンフィールド銃弾?が見える
	72	(7.8×2.8)	—	—	F3	擦過痕、東から西へ
	74	(4.8×2.0)	—	—	F3	擦過痕
貫	75	(4.2×1.5)	—	1.1	F3	擦過痕
	27	2.4×2.0	1.0×1.0	1.2	E4	—
	84	(4.5×3.5)	—	—	C4	—
床板	85	(5.0×1.3)	—	—	B4	—
	90	(1.8×1.5)	—	1.6	C7	—
	94	(2.7×1.3)	—	—	G5	—
	20	(4.0×2.6)	—	1.6	D6	—
縦嵌板	86	(3.5×3.5)	—	—	B6	—
	95	(4.3×1.8)	—	—	B3	—
	1	4.3×2.1	1.0×1.0	2.4	F4	下から上に弾が見える、直入
	2	2.5×1.4	1.0×0.8	1.5	F4	弾が見える、直入
	3	(4.8×4.5)	—	—	F5	下から上に弾が見える
	4	1.5×1.5	1.0×1.0	1.5	F5	下から上に弾が見える、樹皮はいただけ
根太	5	(3.9×1.8)	—	—	F6	貫通
	6	(18.5×5.9)	(5.2×2.0)	—	F6	擦過痕
	7	2.7×1.3	1.3×1.0	1.6	F6	弾が見える、斜入
	21	2.3×2.1	0.8×1.0	2.8	E6	下から上に弾が見える、斜入
	22	(3.8×2.5)	—	—	E5	中に弾が残存している可能性あり
	23	3.0×1.9	—	—	E5	一部ノミで削ってある、弾を取り出した跡か?
	24	3.1×2.1	0.8×1.0	2.8	E4	弾側面が見える、ちぎれている
	25	2.8×1.6	1.3×1.3	2.7	E4	弾が見える、直入
	26	2.0×1.1	1.5×1.5	1.7	E4	下から上に弾が見える、直入、スナイドル銃弾A2

55	(3.5×2.0)	—	—	2.1	C4	—
56	(2.0×2.0)	—	—	—	C4	貫通(長さ8.0cm)
57	(2.0×1.8)	—	—	5.0	C4	—
58	(3.5×1.3)	—	—	—	C5	—
59	3.8×2.5	1.2×1.0	—	4.9	C4	弾が見える
60	(2.5×1.3)	—	—	—	C5	スナイドル銃弾尻が見える、直入
61	(1.8×1.0)	—	—	4.3	C5	—
62	(3.0×3.0)	—	—	2.6	B6	樹皮、跳弾痕
63	(5.6×4.0)	—	—	—	C4	ノミで削ってある
64	(2.5×2.0)	—	—	—	C4	跳弾痕
65	(3.0×1.3)	—	—	—	C4	擦過痕
66	8.5×3.5	—	—	—	B3	擦過痕
67	(5.0×3.8)	—	—	—	B3	ノミで削ってある
68	2.5×2.4	1.0×1.0	—	—	D3	根太丸材、樹皮あり、直入、筋にあたって貫通していない
76	(3.6×1.8)	—	—	1.9	F4	—
77	(7.5×7.0)	—	—	—	F5	四斤砲弾片? 不定形
78	(2.8×1.5)	—	—	1.0	F6	—
79	(1.8×1.2)	—	—	—	F6	—
80	(1.8×1.2)	—	—	—	E4	—
81	(3.8×1.8)	—	—	—	D4	—
82	(3.5×2.0)	—	—	—	C4	—
83	(2.0×1.3)	—	—	—	C4	—
8	(8.3×2.8)	—	—	—	F7	擦過痕
9	10.2×5.3	1.5×1.3	—	6.1	F6	弾が見える、斜入
10	4.3×4.0	1.5×1.5	—	5.8	F6	弾が見える、直入
11	3.1×2.3	1.3×1.2	—	5.6	F6	弾が見える、弾片が入口近くにちぎれている
12	3.9×3.8	2.5×2.5	—	2.7	F5	四斤砲弾片か?
13	(5.0×2.6)	—	—	1.8	F5	跳弾痕
14	2.5×1.5	1.2×1.1	—	5.5	F5	弾が見える、直入
15	2.1×2.0	1.5×1.5	—	7.1	F4	弾が見える、直入
16	3.4×3.0	1.5×1.5	—	7.2	F4	弾が見える、直入
17	9.0×5.1	長さ 幅 径 6.8×2.0×2.8	—	6.8	E5	下から上に弾尻が見える、直入、北側の樹皮が丸く穴が開いており、その延長に弾底が見える、飛来方向が明らかである、当時のままの状態

北側大引	18	3.7 × 2.8	1.3 × 1.2	3.5	E 6	弾が見える
	19	3.3 × 3.3	1.5 × 1.5	5.1	E 6	弾が見える、刻印あり、スナイデル銃弾かエンフィールド銃弾?
	28	3.9 × 2.8	1.5 × 1.5	6.3	D 4	弾が見える、一部ノミで割ってある、直入?
	29	1.8 × 1.5	1.0 × 1.0	6.3	D 4	弾が見える、スベンサー銃弾かシャープス銃弾、直入
	30	(10.5 × 4.0)	—	3.8	D 5	ノミで割って、弾を取り出してある
	31	3.0 × 3.0	2.0 × 2.0	6.2	D 5	弾側面と弾尻が見える(中で斜め)、ノミで割ってある、エンフィールド銃弾か?
	32	2.0 × 2.0	1.3 × 1.1	13.5	D 5	弾は見えないが金属探知機反応あり、表面をノミで割ってある
	33	(7.3 × 7.0)	—	4.9	D 5	表面をノミで割ってある、弾は取り出し済
	34	1.5 × 1.5	1.5 × 1.5	3.0	D 5	弾は見えないが金属探知機反応あり、直入、当時のままの状態
	35	(9.5 × 4.5)	—	5.0	D 6	ノミで割ってある
	36	5.4 × 5.0	1.3 × 1.3	5.7	D 6	弾は見えないが金属探知機反応あり
	37	(10.5 × 7.6)	—	4.8	D 7	ノミで割って、弾を取り出してある
	39	3.0 × 2.4	1.6 × 1.6	8.5	C 6	弾が見える、直入(典型的)
	40	3.4 × 2.5	1.6 × 1.3	7.8	C 6	弾が見える、直入
	41	4.0 × 3.6	3.0 × 2.0	2.1	C 6	跳弾痕
南側大引	42	^{ノミ割} (29.0 × 14.5)	^{ノミ穴} (7.0 × 5.5)	6.5	C 6	ノミで割ってある
	43	13.0 × 1.5	—	1.5	C 6	擦過痕、または跳弾痕
	44	2.2 × 2.0	1.0 × 1.0	4.1	C 5	中に弾が残存している可能性あり、直入
	45	2.8 × 2.6	1.6 × 1.4	6.7	C 5	正面から弾側面が見える、直入、中で斜めになっている
	46	16.5 × 1.8	—	2.8	C 5	擦過痕、四斤砲弾片か?
	47	3.7 × 3.1	2.5 × 2.0	7.6	C 5	弾痕まわり20×18cmの樹皮を剥いてある
	48	7.8 × 8.4	7.3 × 1.3	10.9	C 5	弾側面が見える、直入、中で斜めになっている
	49	13.8 × 9.5	—	2.5	C 4	四斤砲弾片か?
	50	2.8 × 2.3	2.0 × 1.5	7.0	C 4	直入、奥に弾あり?
	51	2.3 × 2.0	1.3 × 1.4	5.6	C 4	弾側面が見える、直入、中で斜めになっている
	52	(13.0 × 6.5)	—	2.0	C 4	ノミ痕あり、四斤砲弾片か? 不定形
	53	2.0 × 1.8	0.8 × 0.8	2.7	C 4	当時のままの状態、中に弾が残存している可能性あり
	54	3.5 × 2.5	4.0 × 2.5	7.5	C 4	弾が見える、直入、中で斜めになっている

図は第85図にあるが、No.は第83図本殿右面(北面)の通し番号

根	10	(2.5 × 1.2)	1.5 × 1.5	3.0	H 3	
太	11	1.2 × 1.0	0.9 × 0.8	2.3	H 2	弾が見える
	12	2.5 × 1.5	—	—	H 2	貫通
	26	(6.0 × 2.0)	—	—	H 2	貫通

図は第85図にあるが、No.は第84図本殿左面(南面)の通し番号

根	11	(3.8 × 1.0)	—	—	A 3	擦過痕
太	12	(6.8 × 1.8)	—	—	B 3	擦過痕
	13	(4.0 × 3.0)	—	—	A 2	擦過痕

※ No. 73 は欠番、No. 91~93 は本殿右面(北面)(第83図)にあり

階段見上図(第85図)

部材	No.	入口径/(大きさ)	奥径	深さ	出土位置	備考
	1	(6.2 × 2.5)	—	—	E 1	ノミで割ってある
	2	(6.0 × 5.5)	—	—	E 1	ノミで割ってある
	3	2.5 × 2.0	1.2 × 0.7	3.5	D 1	
	4	(10.0 × 7.5)	—	4.5	D 1	ノミで割ってある
	5	(10.8 × 4.5)	—	—	D 1	
	6	3.5 × 1.5	2.5 × 1.1	1.8	D 1	
	7	3.8 × 1.5	0.8 × 0.8	1.3	D 1	
	8	(3.0 × 1.0)	—	1.3	D 1	
	9	6.0 × 2.0	—	1.8	D 1	
	10	5.0 × 5.0	1.5 × 1.2	3.0	D 1	
	11	(2.3 × 1.5)	—	—	D 1	
	12	3.0 × 2.1	1.1 × 1.1	2.3	D 1	
	13	4.5 × 2.0	1.8 × 1.5	1.8	D 1	一部ノミで割ってある
	14	7.0 × 3.0	1.2 × 1.0	1.2	D 1	
	15	4.3 × 1.2	1.0 × 1.0	1.9	D 1	
	16	2.8 × 2.0	0.8 × 0.9	1.5	D 1	
	17	(2.6 × 1.7)	—	0.8	E 1	ノミで割ってある
	18	5.0 × 3.0	1.2 × 1.0	2.0	E 1	
	19	(3.0 × 2.5)	—	—	E 1	
	20	4.0 × 3.0	1.5 × 1.3	2.8	D 1	弾が見える
	21	(4.5 × 3.0)	—	—	D 0	
	22	(2.5 × 2.5)	—	—	D 1	スナイデル銃弾片が見える
	23	(2.5 × 1.8)	1.5 × 1.0	2.6	D 1	
	24	(7.5 × 2.8)	1.5 × 1.3	3.9	E 1	

本殿・軒・天井上図 (第 87 図)

弾痕30ヶ所

部材	No.	入口径/(大きさ)	口径	深さ	出土位置	備考
図は第 87 図にあるが、No.は第 81 図本殿正面(東面)の通し番号						
桁	10	4.4 × 2.8	—	2.5	C 6	ノミで削ってある
	16	(5.8 × 2.8)	—	2.6	C 7	樹皮近く
	17	(1.8 × 1.8)	—	1.1	C 5	
	18	(3.5 × 2.5)	(3.5 × 2.8)	4.0	C 5	北側に貫通
	23	(4.3 × 2.5)	—	1.5	A 9	
垂木	24	(2.8 × 1.8)	—	—	A 8	弾が見える
	25	(5.8 × 2.8)	—	7.4	A 5	南面に弾が見える
	26	(5.8 × 2.9)	—	1.3	A 4	
	27	(4.3 × 2.3)	—	1.0	B 5	
	28	(3.3 × 3.0)	—	1.8	B 2	
	29	(4.0 × 3.5)	—	4.5	B 2	
	33	4.5 × 1.8	—	2.0	A 5	
図は第 87 図にあるが、No.は第 82 図 本殿背面(西面)の通し番号						
	54	2.5 × 1.9	—	2.8	I 2	貫通
	56	3.0 × 0.9	—	—	I 3	弾が見える
	57	3.5 × 1.5	—	7.0	I 3	貫通
	58	(5.0 × 2.5)	1.5 × 0.5	—	H 3	貫通
	59	1.3 × 0.8	3.0 × 2.0	—	H 3	貫通
垂木	60	(1.2 × 0.9)	—	—	H 5	スナイドル銃弾尻・陶栓が見える、弾の内側はへこんでいる、木が自己修復している
	61	(1.8 × 1.5)	—	—	H 7	中が黒くなっている
	62	(5.0 × 1.8)	—	2.3	I 7	
	63	(5.5 × 1.8)	—	—	I 7	ノミで削ってある
	66	(4.8 × 2.8)	—	3.1	I 1	
※ No.55・65 は欠番						
図は第 87 図にあるが、No.は第 83 図 本殿右面(北面)の通し番号						
大棟	22	未計測	—	—	F 2	弾は見えないが金属探知機反応あり
棟	23	未計測	—	—	F 2	

図は第 87 図にあるが、第 84 図 本殿左面(南面)の通し番号

27	(1.9 × 1.3)	(2.5 × 2.3)	長さ 8.0	H 8	貫通
28	(2.5 × 2.1)	—	1.6	H 9	
29	(2.9 × 1.8)	—	1.7	H 9	
30	(4.1 × 2.5)	—	1.3	G 9	
31	(2.6 × 0.9)	(5.3 × 3.2)	長さ 5.8	E 9	貫通、北から入る
32	(4.5 × 1.8)	—	1.2	G 9	

本殿 弾痕合計 269ヶ所

拝殿・廊下・本殿 弾痕総合計 416ヶ所

※ 直入 … 銃弾が正位で、樹木に撃ち込まれたもの。
射入口は円形で、径も銃弾と同径。

※ 斜入 … 銃弾が斜位で、樹木に撃ち込まれたもの。
射入口は不定円形で、径は弾径よりも大きい。

※ 擦過痕 … 銃弾が樹皮をかすめて通過した痕跡。
樹皮繊維の裂けた方向で、銃弾の飛来方向が分かる。
大きさと形状の違いで、四斤砲弾片とみられるものもある。

※ 跳弾痕 … 形状は擦過痕に似るが、銃弾は通過しておらず、片方に衝突痕がある。
樹皮が残る大引については、弾痕調査後に保護のため白アリ防除剤を吸入し、開口部はシリコンコーキング剤で塞いだ。

塞いだ弾痕

- ・ 本殿床下 北側大引 No. 9,10,11,12,14,15,16,18
- ・ 本殿床下 南側大引 No. 28,29,31,32,36,39,40,42,44,45,47,48,50,51,54

なお、白アリ防除剤はできるだけすべての弾痕に吸入するようにした。